

第292号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 炭化物・ローム粒子微量
- 4 明褐色 ローム粒子多量

第296号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第297号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第300号土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土粒子微量

第301号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量

第302号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック少量
- 2 黒色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量

第303号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量
- 2 極暗褐色 粘土ブロック中量
- 3 極暗褐色 粘土ブロック少量

第305号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土粒子少量, ロームブロック微量
- 2 褐色 灰色 粘土ブロック中量

第306号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第307号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック少量
- 2 黒褐色 粘土ブロック中量
- 3 黒褐色 粘土ブロック微量

第308号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第309号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 灰色 粘土ブロック多量
- 3 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 4 灰褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量

第310号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第311号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 橙色 ロームブロック多量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック少量
- 5 灰褐色 ロームブロック少量

第312号土坑土層解説

- 1 暗褐色 粘土ブロック少量
- 2 暗褐色 粘土ブロック少量, 鉄分微量
- 3 灰褐色 粘土ブロック少量, 鉄分微量

第313号土坑土層解説

- 1 灰褐色 粘土ブロック中量
- 2 暗褐色 粘土ブロック少量
- 3 暗褐色 粘土ブロック微量

第314号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒色 ロームブロック微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 粘土ブロック少量, ロームブロック微量

第316号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量

第317号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック中量

第318号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック多量

第319号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第322号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック微量

第323号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第324号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック・炭化物微量

第325号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量
- 2 黒褐色 粘土ブロック中量
- 3 暗褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック微量
- 4 極暗褐色 粘土ブロック中量, ローム粒子微量
- 5 極暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック微量
- 6 黒褐色 粘土ブロック中量
- 7 暗褐色 ロームブロック微量
- 8 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量

第326号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第327号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物・粘土ブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量, 炭化物・焼土粒子微量

第328号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

第329号土坑土層解説

- 1 暗褐色 焼土ブロック・炭化物少量
- 2 極暗褐色 炭化粒子中量, 焼土粒子微量

第331号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 褐色 ローム粒子多量

第332号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量

第333号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック・粘土粒子微量

第334号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第337号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量

第338号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量

第339号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量

第340号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第341号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化物微量

第343号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量
- 5 暗褐色 炭化粒子微量

第344号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量
- 6 黒褐色 焼土粒子少量, ロームブロック微量
- 7 黒褐色 粘土ブロック中量
- 8 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 9 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量
- 10 暗褐色 ローム粒子少量, 粘土ブロック微量
- 11 にぶい褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 12 明褐色 ロームブロック多量
- 13 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

第345号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第346号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 焼土粒子少量, ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第347号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第351号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

第400号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第401号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第402A号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第402B号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第403号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量

第404号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第405号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第410号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化物少量, ロームブロック微量

第413号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第414号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック多量

第416号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第417号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第418号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

第419号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第420号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第421号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第422号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量
- 2 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第423号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第424号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物微量

第427号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第428号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第429号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第430号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

第432号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第433号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

第434 A 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第434 B 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量

第435号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック微量

第436号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

第437号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第440号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第441号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量

第442号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第443号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量

第444号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

第445号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量

第446号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第447号土坑土層解説

- 1 にぶい褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 灰褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第448号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第449号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 灰褐色 ロームブロック中量

第450号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量

第451号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

第452号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック微量

第453号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第454号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子微量

第455号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第456号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量

第457号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第458号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量

第459号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ローム粒子中量

第461号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量

第462号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック少量

第463号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

第464号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ロームブロック微量

第465号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子多量

第466号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 黒色土粒子少量

第467号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子微量

第470号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第500号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第501号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第503号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第504号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第508号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物中量, 焼土ブロック・ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量, 炭化材・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量

第509号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第510号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量

第511号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 極暗褐色 ローム粒子微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量
- 6 極暗褐色 ローム粒子少量

第512号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量 (SI48の貼床)
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 極暗褐色 ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ロームブロック微量
- 6 極暗褐色 ロームブロック少量

第513号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 黒褐色 ロームブロック微量
- 5 褐色 ローム粒子中量

第515号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 極暗褐色 ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子・炭化物微量

第517号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量

第518号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック微量

第519号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第524号土坑土層解説

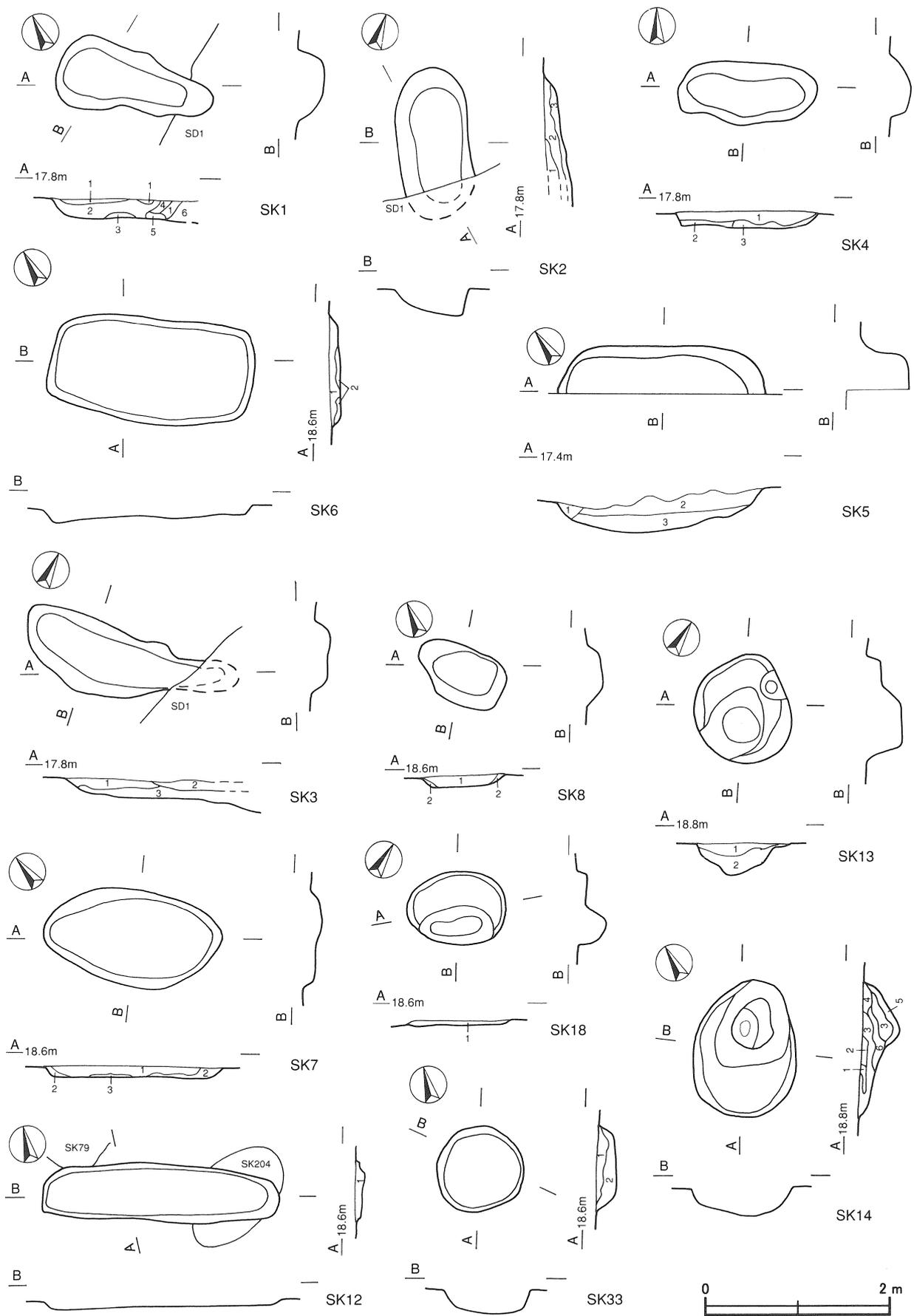
- 1 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化材微量
- 5 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 6 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 黒褐色 ロームブロック微量

第525号土坑土層解説

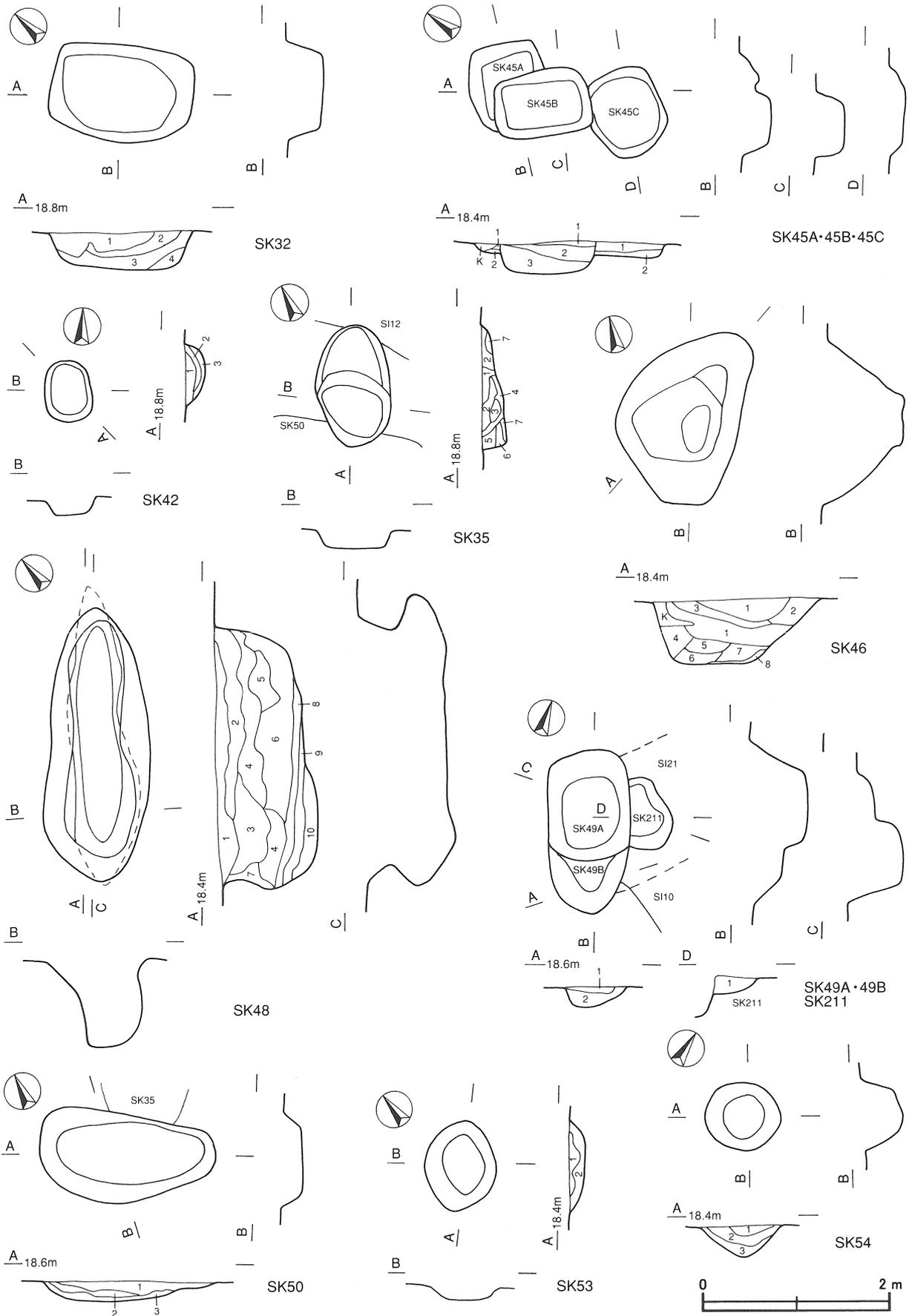
- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化材微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量
- 4 黒褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量

第527号土坑土層解説

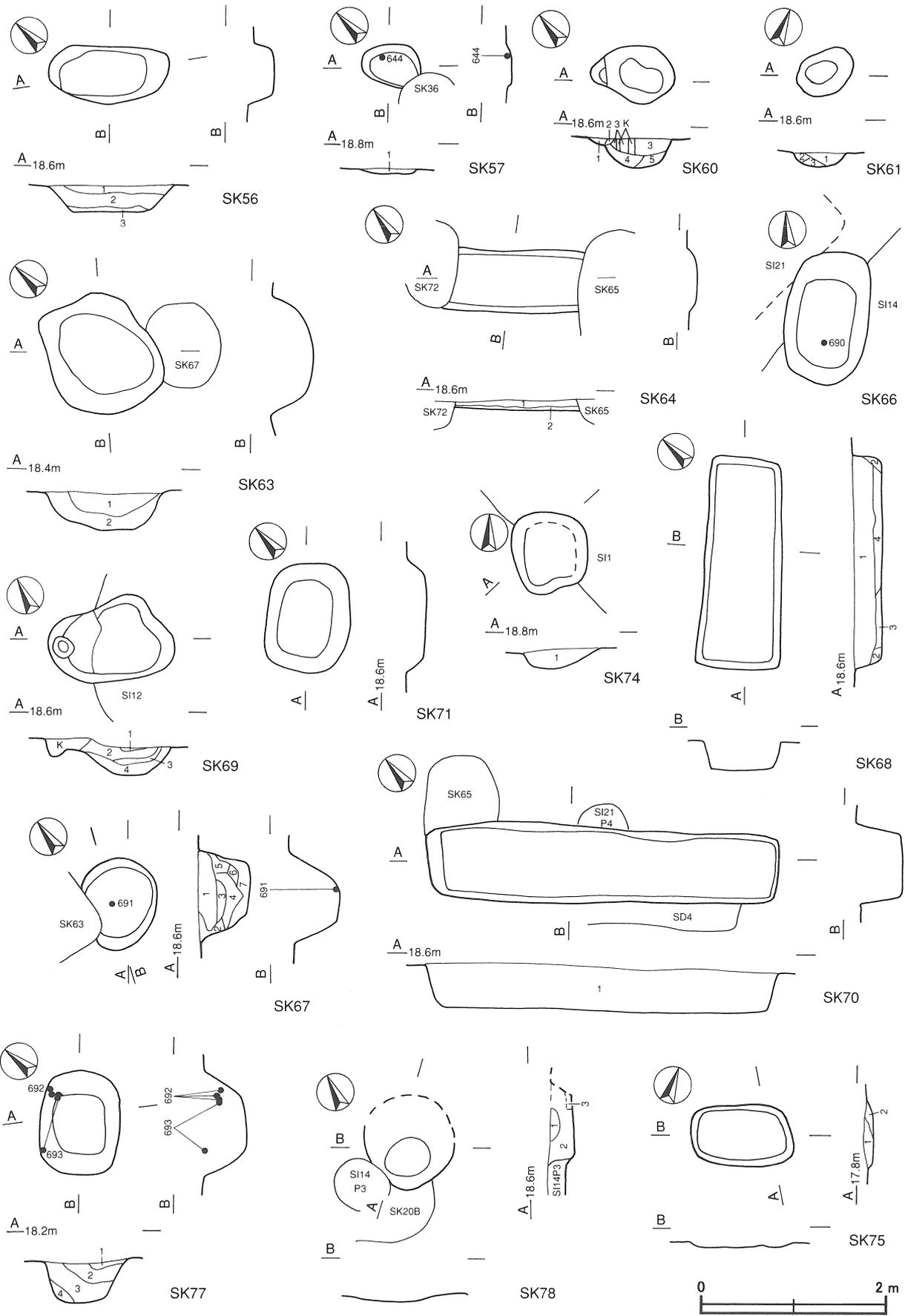
- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量
- 5 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量



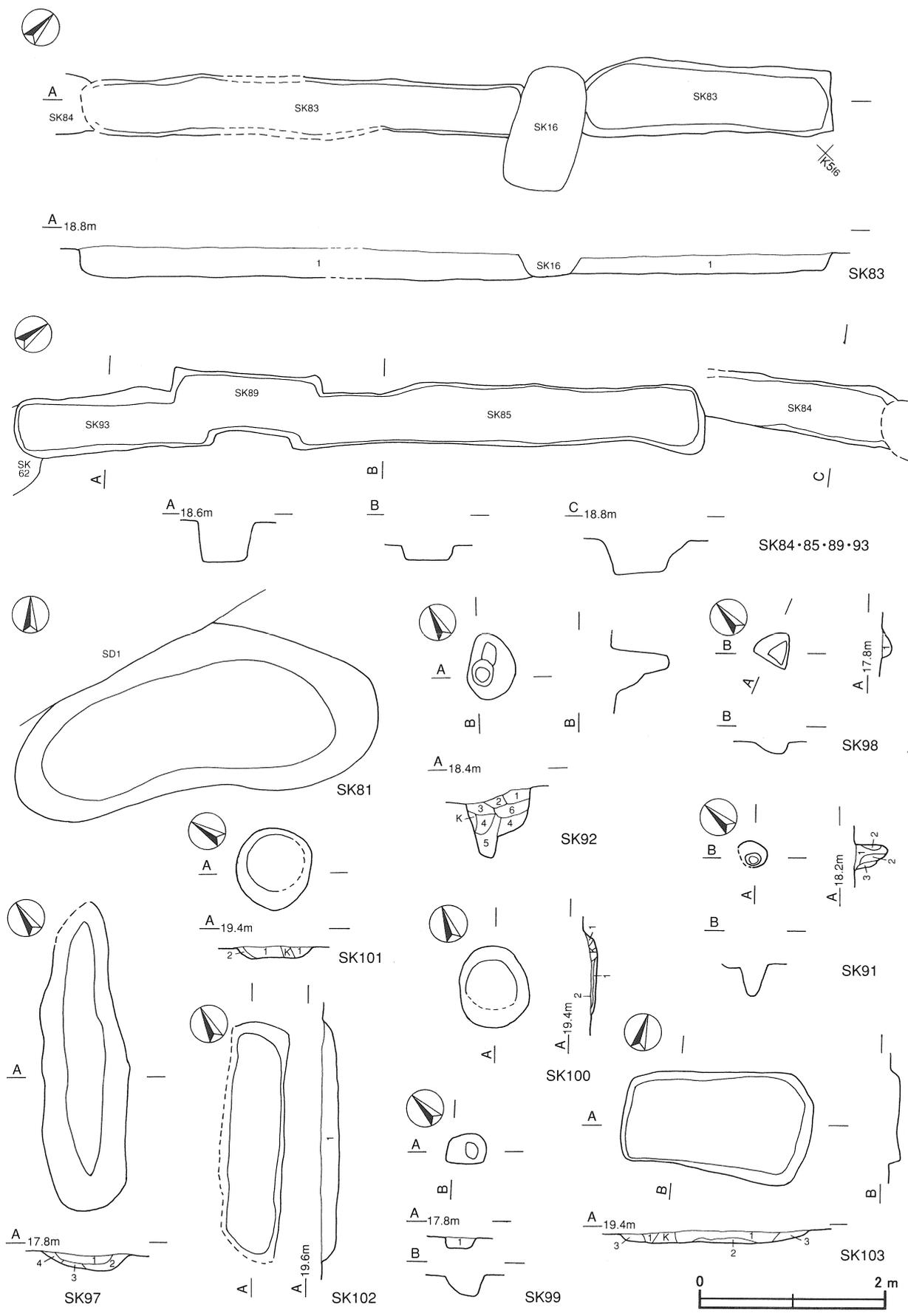
第274图 第1~8·12~14·18·33号土坑实测图



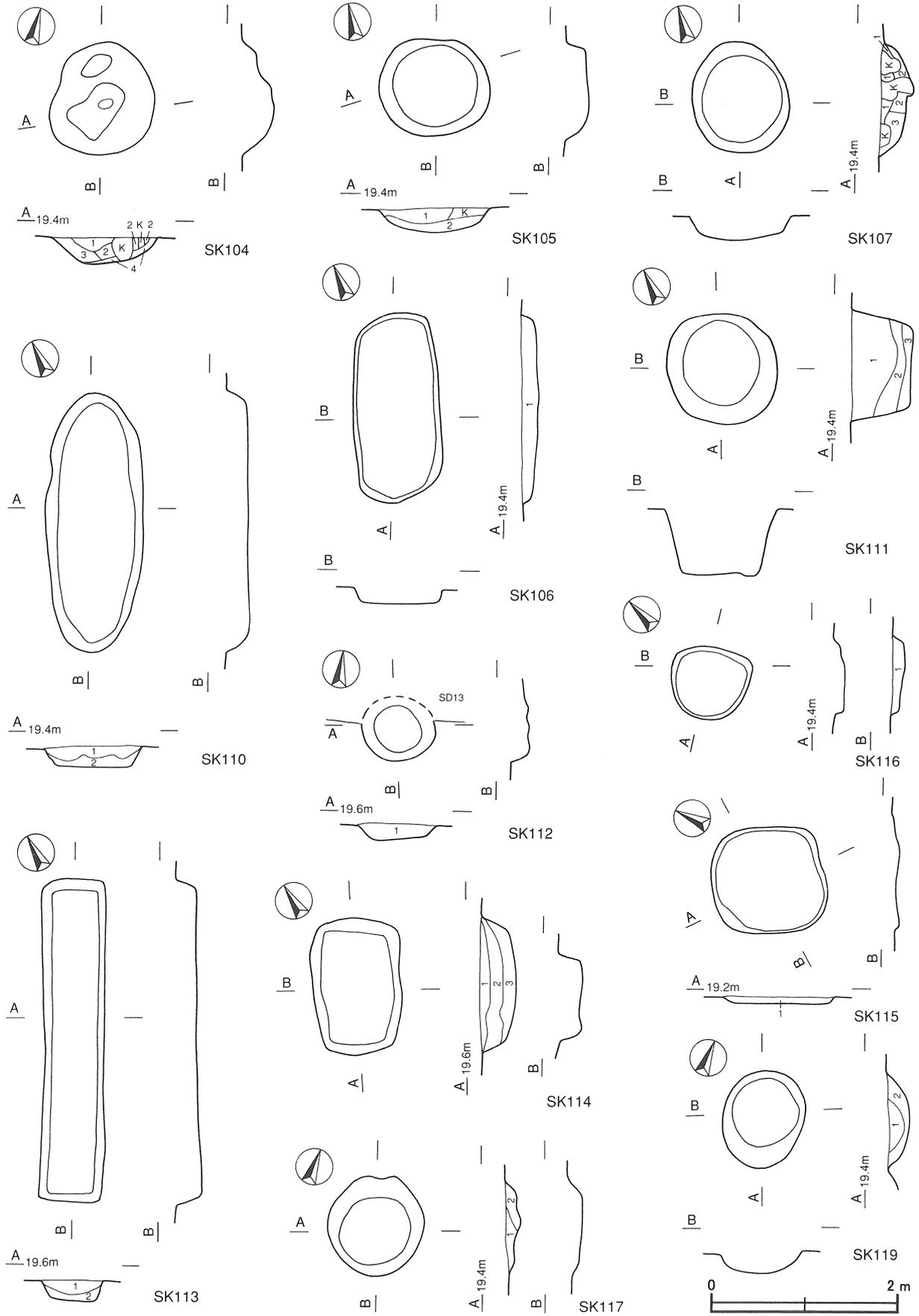
第275图 第32·35·42·45A·45B·45C·46·48·49A·49B·50·53·54·211号土坑实测图



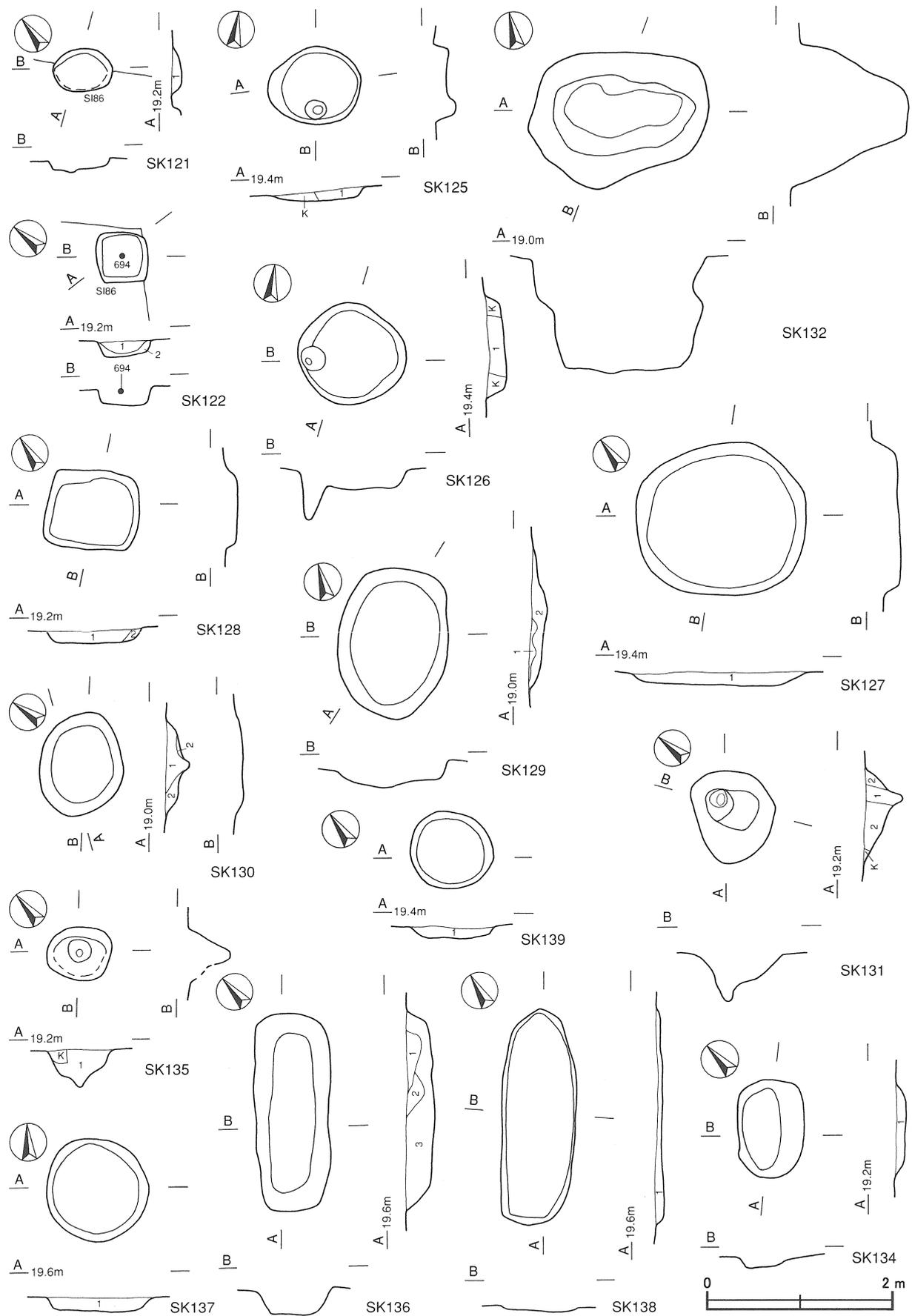
第276图 第56·57·60·61·63·64·66~71·74·75·77·78号土坑实测图



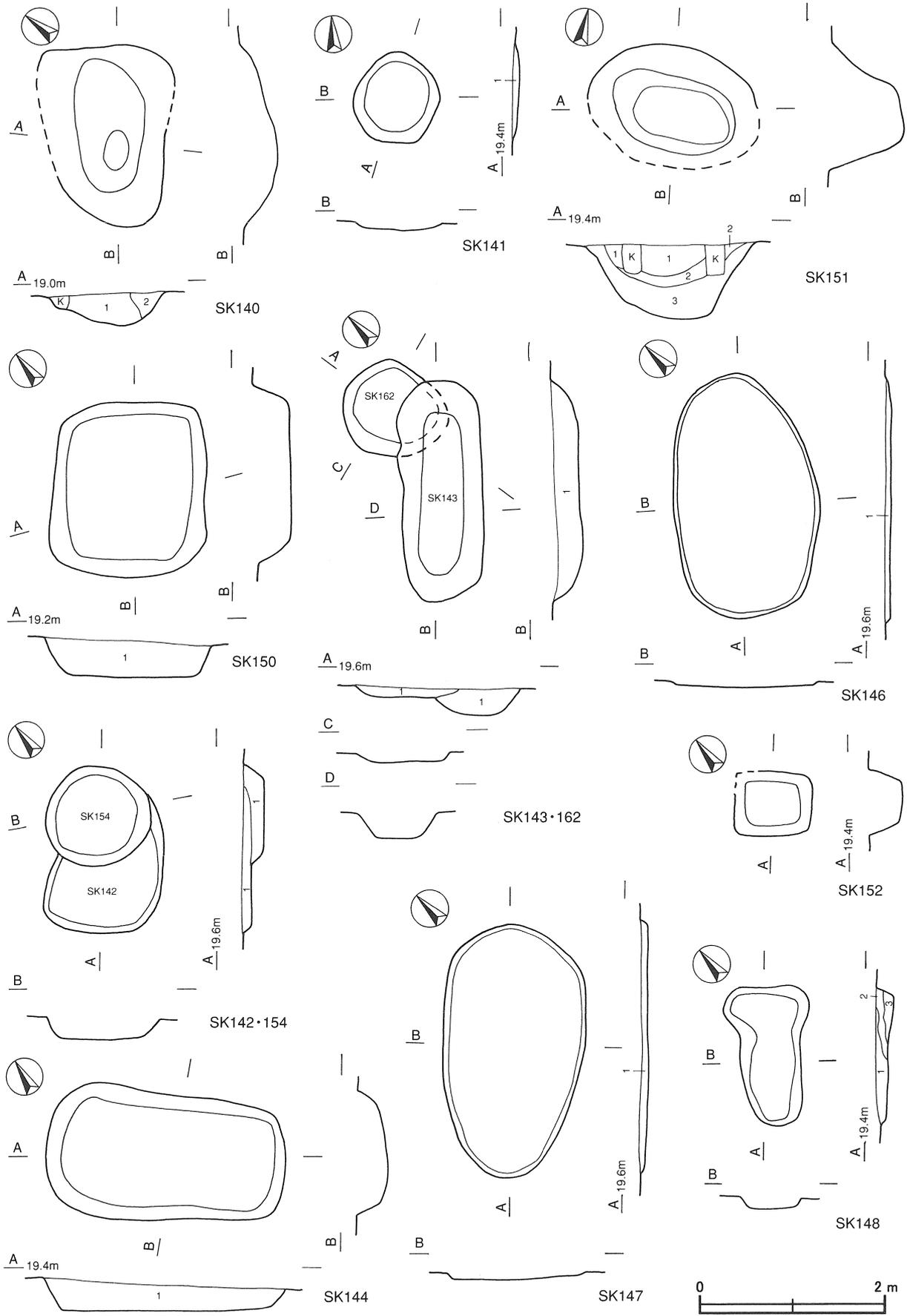
第277图 第81·83~85·89·91~93·97~103号土坑实测图



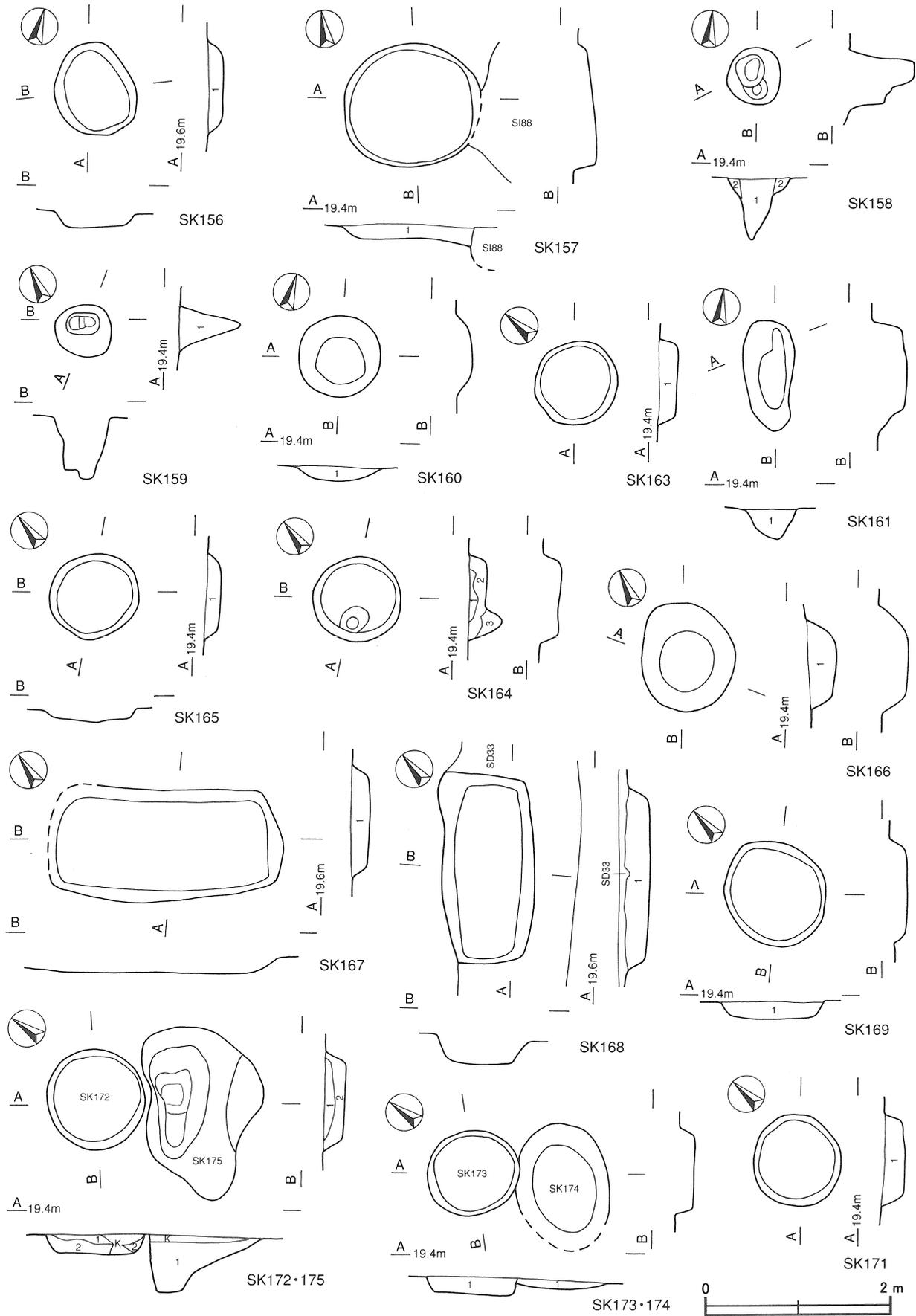
第278图 第104~107·110~117·119号土坑实测图



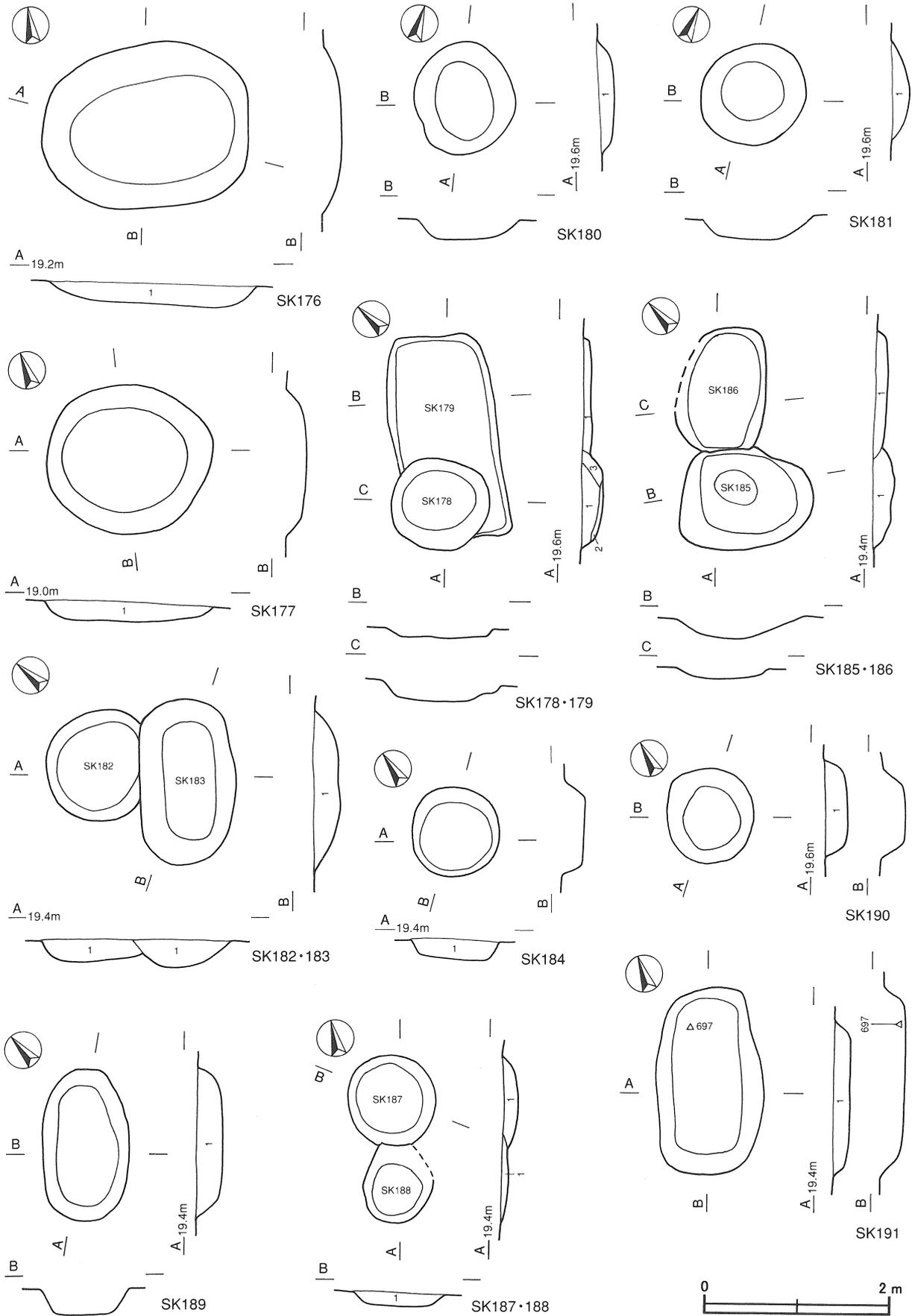
第279图 第121·122·125~132·134~139号土坑实测图



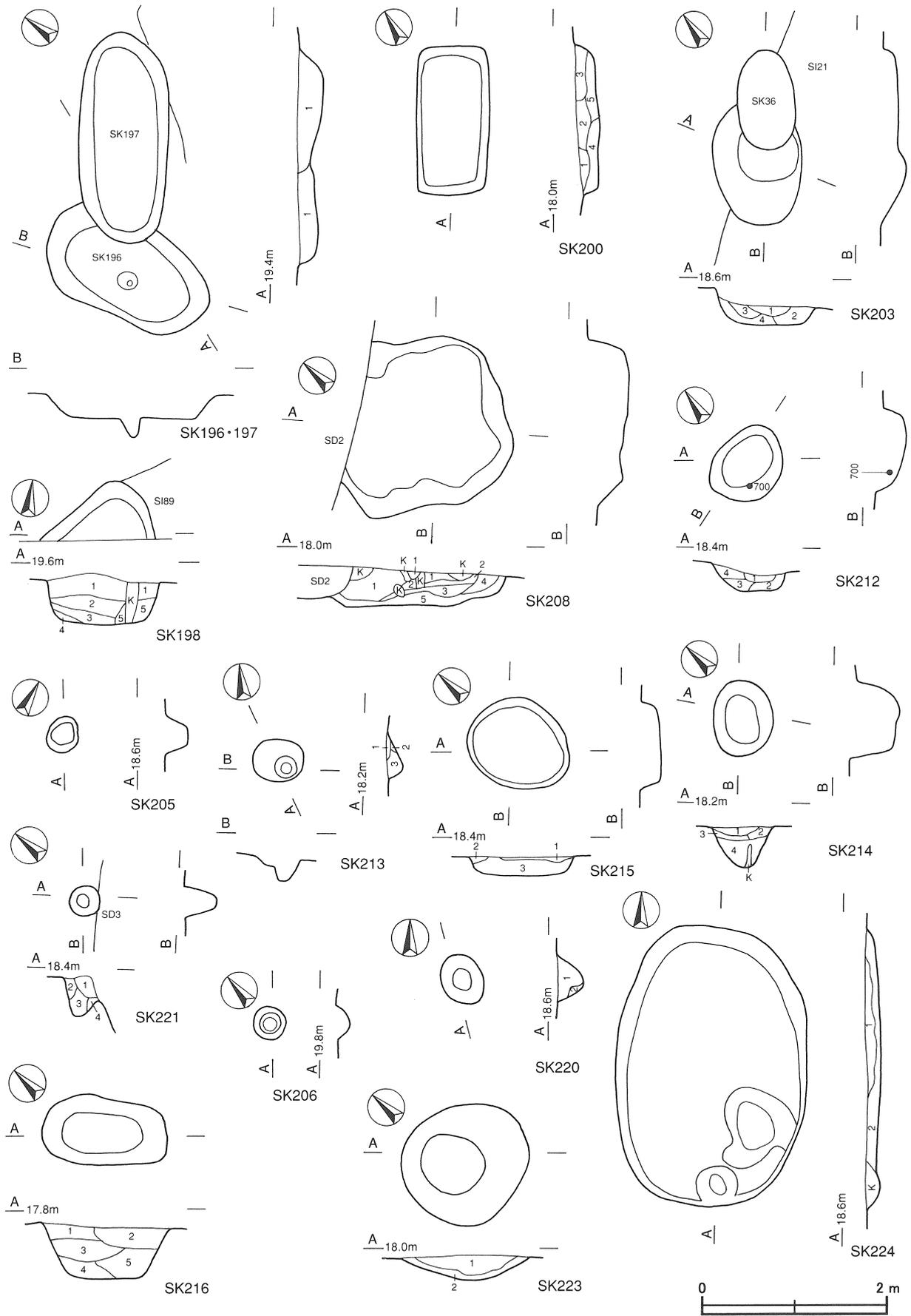
第280图 第140~144·146~148·150~152·154·162号土坑实测图



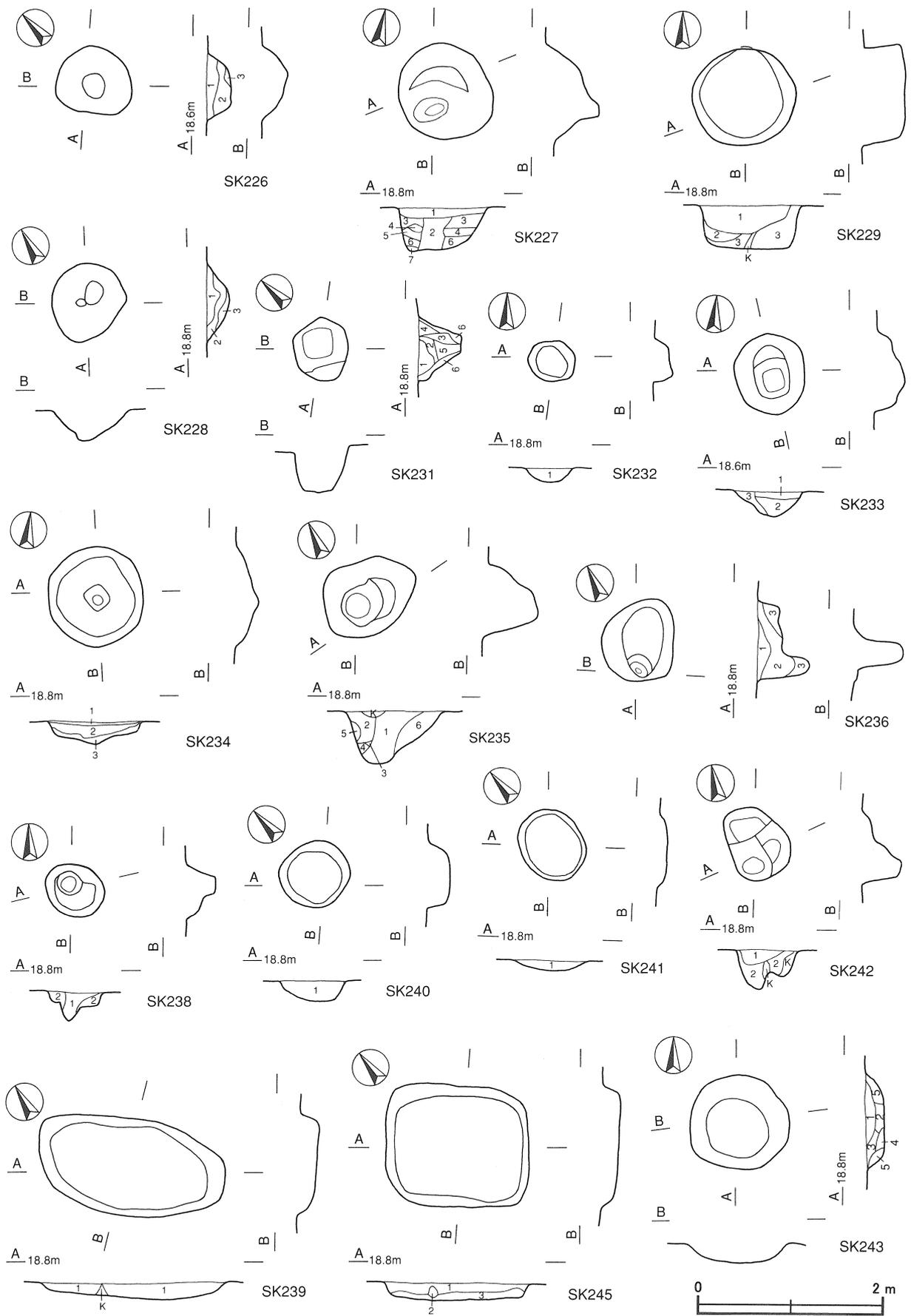
第281图 第156~161·163~169·171~175号土坑实测图



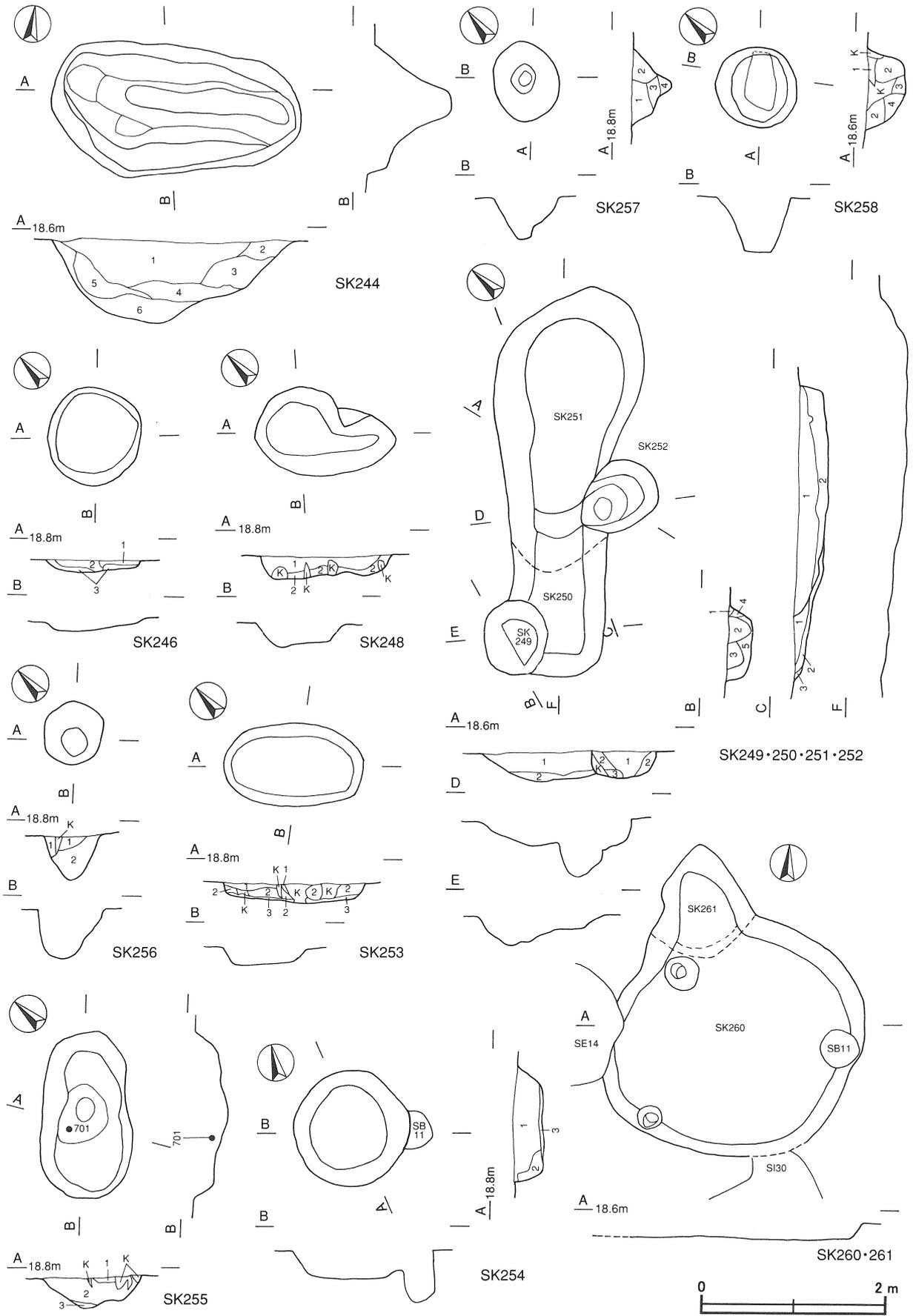
第282图 第176~191号土坑实测图



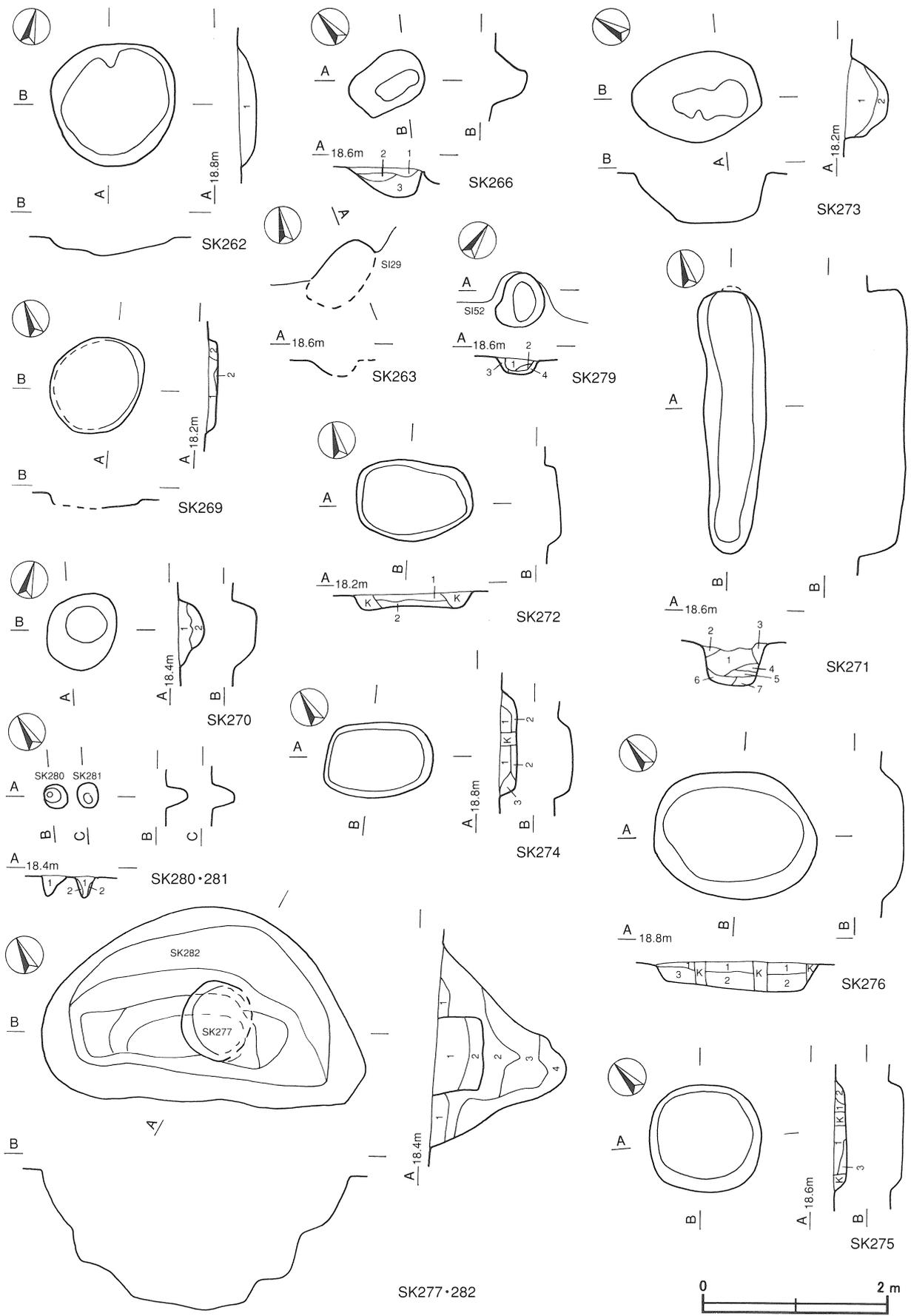
第283图 第196~198·200·203·205·206·208·212~216·220·221·223·224号土坑实测图



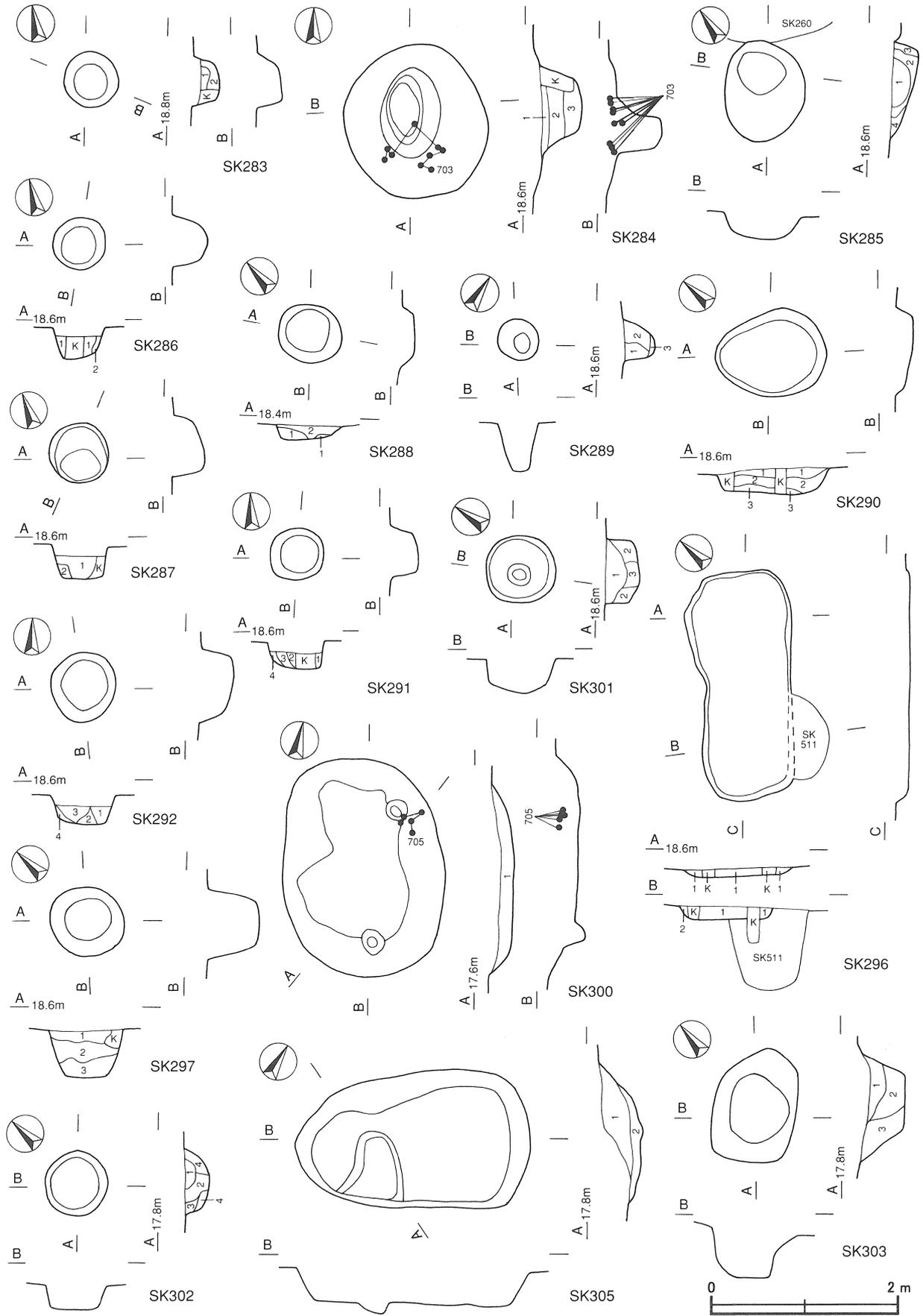
第284图 第226~229·231~236·238~243·245号土坑实测图



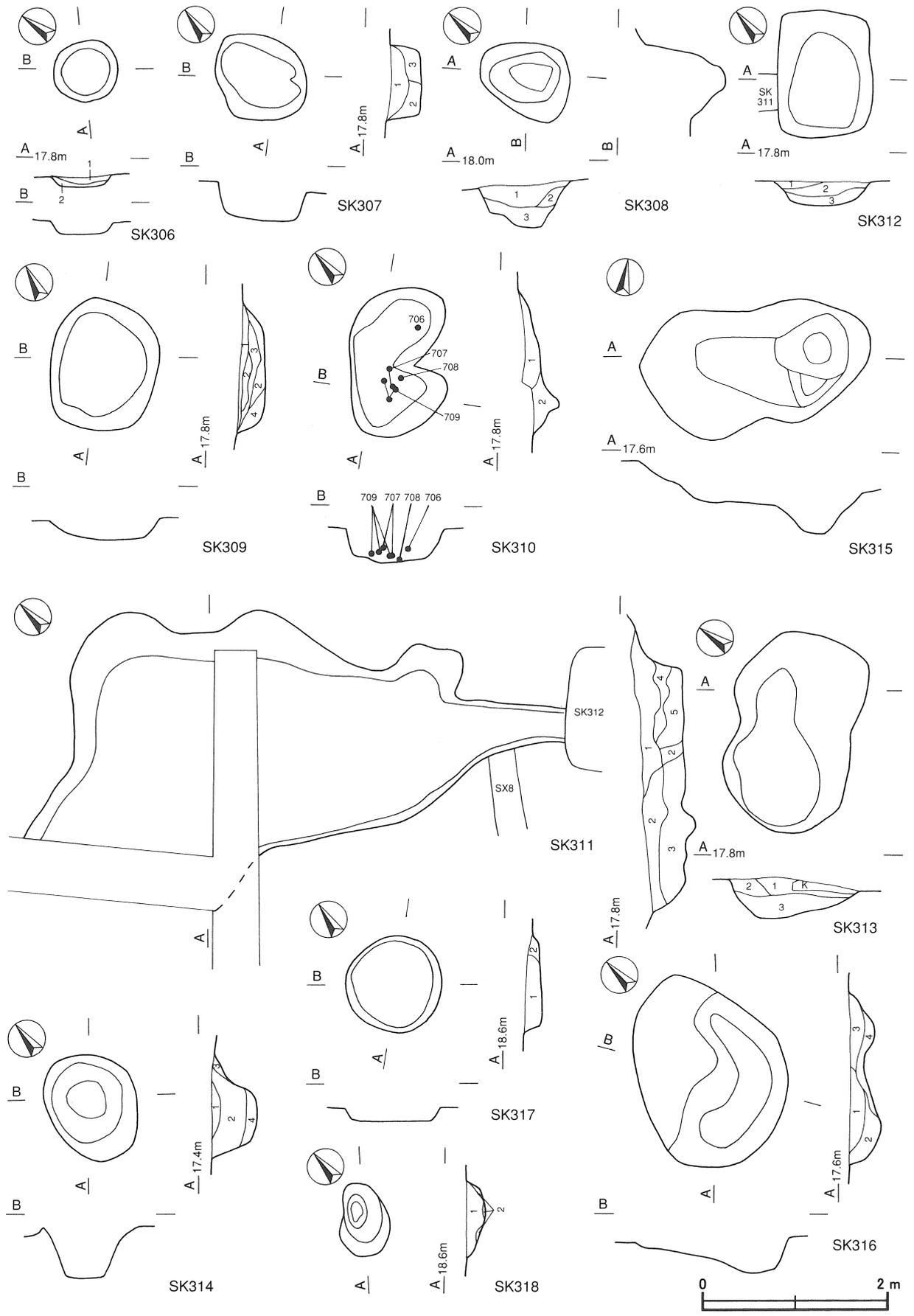
第285图 第244·246·248~258·260·261号土坑实测图



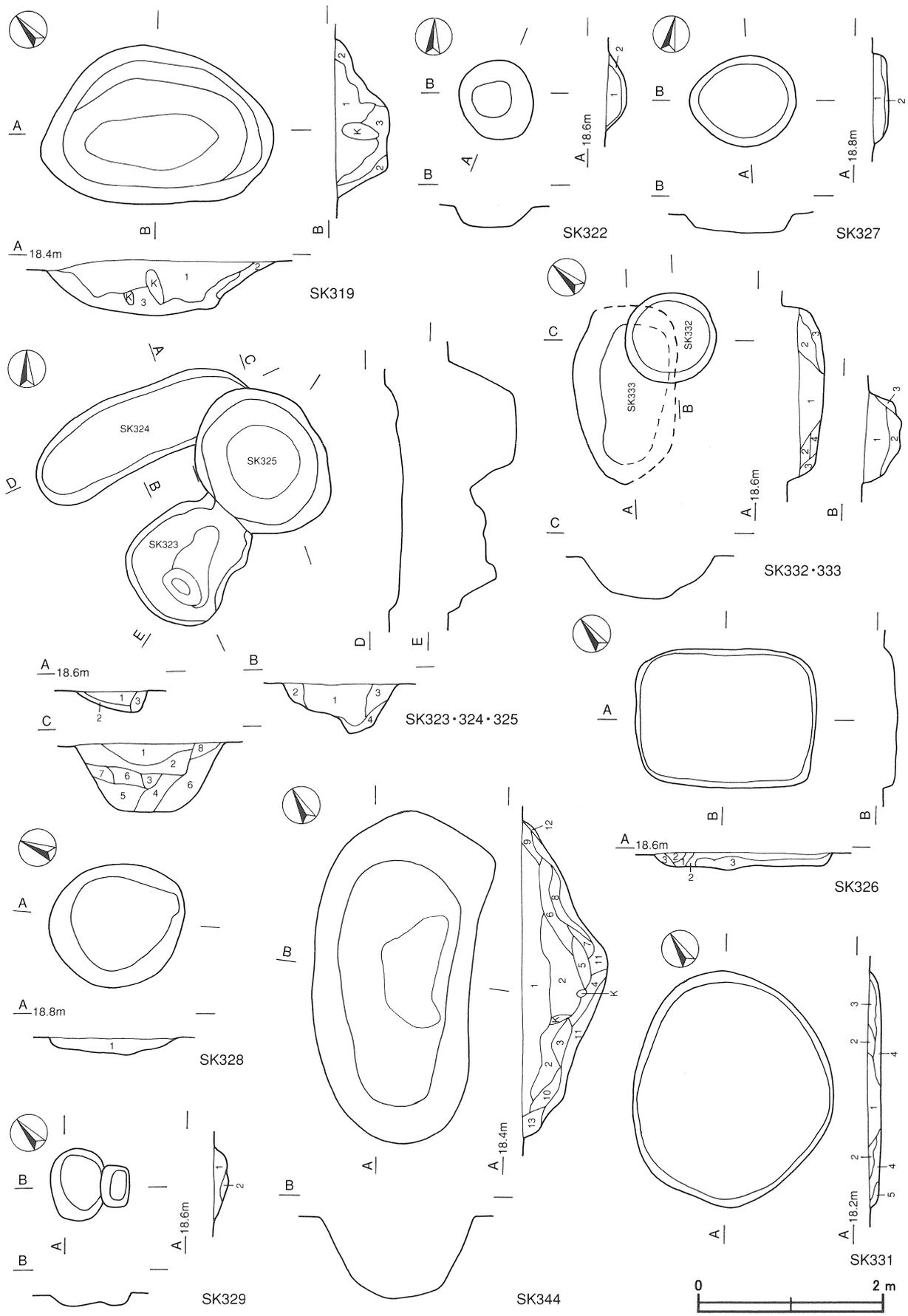
第286图 第262·263·266·269~277·279~282号土坑实测图



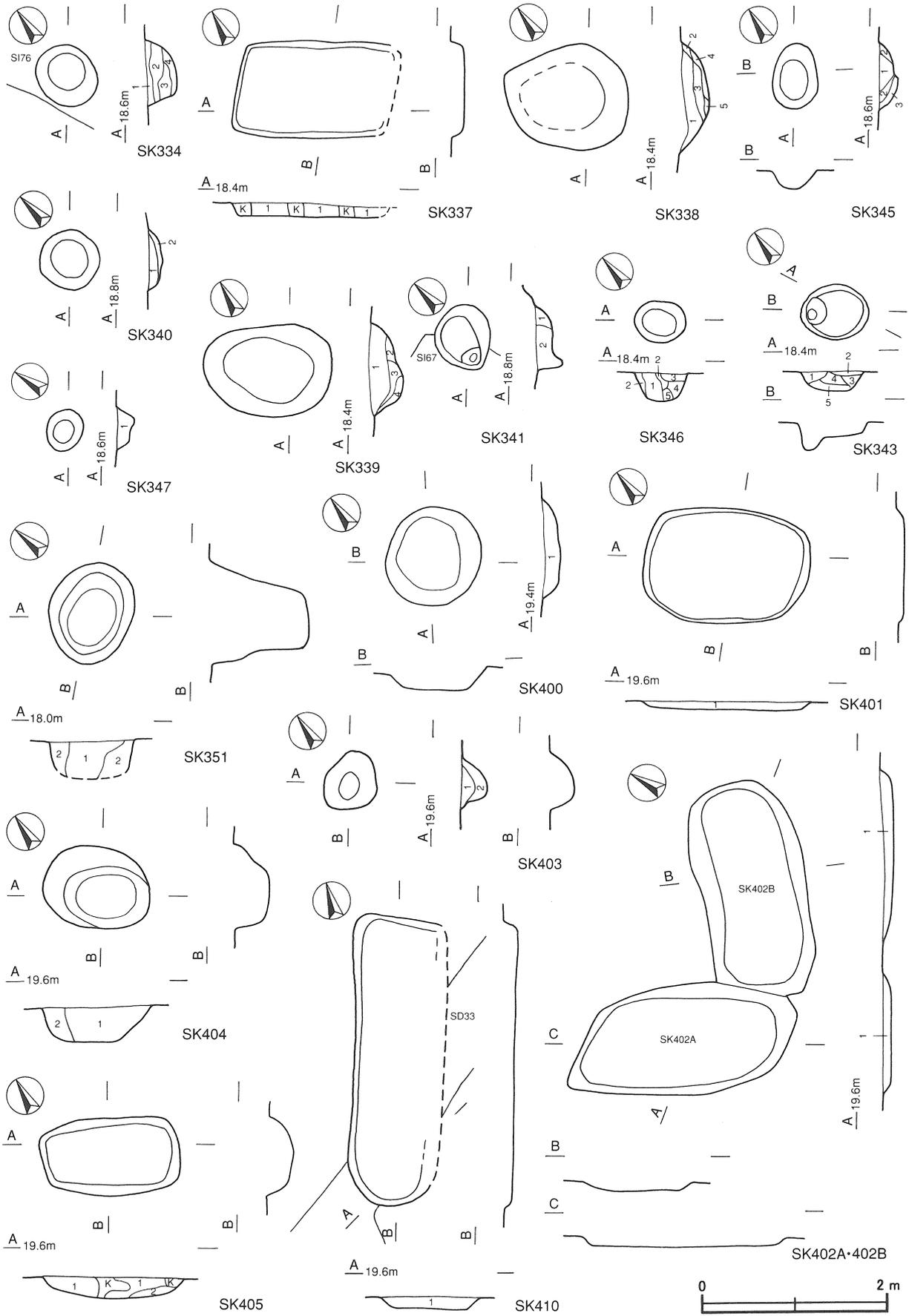
第287图 第283~292·296·297·300~303·305号土坑实测图



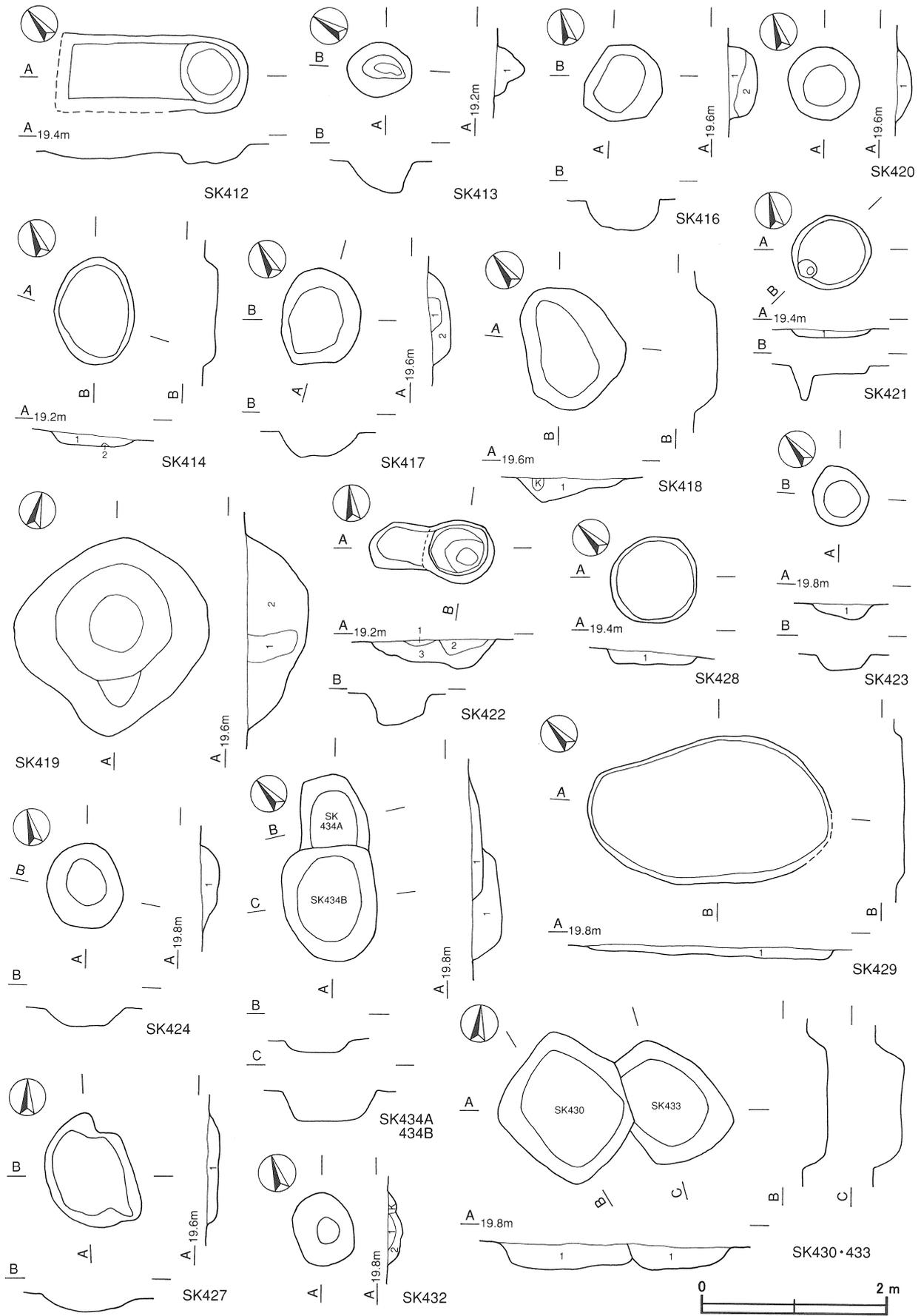
第288图 第306~318号土坑实测图



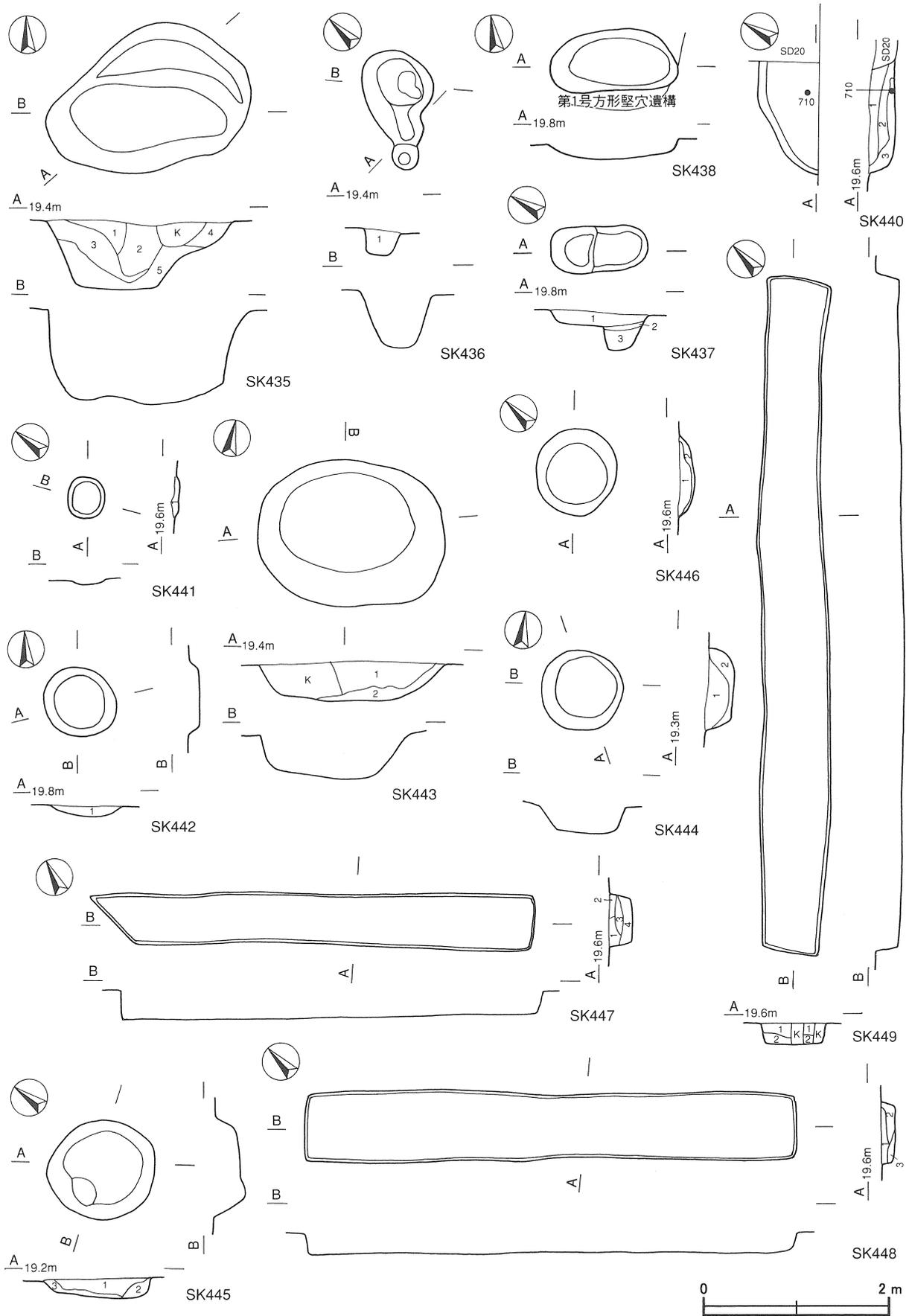
第289图 第319·322~329·331~333·334号土坑实测图



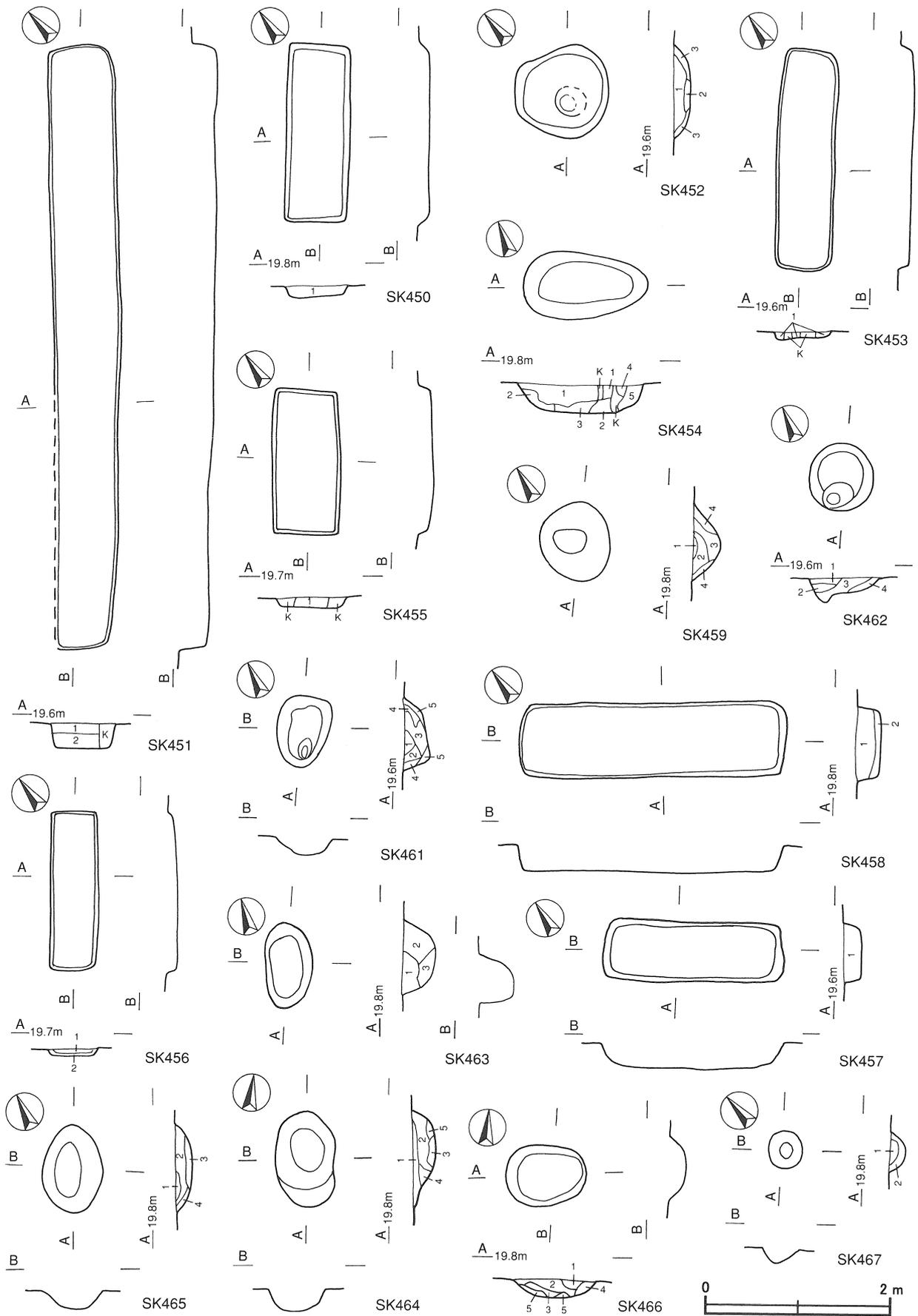
第290图 第334·337~341·343·345~347·351·400~405·410号土坑实测图



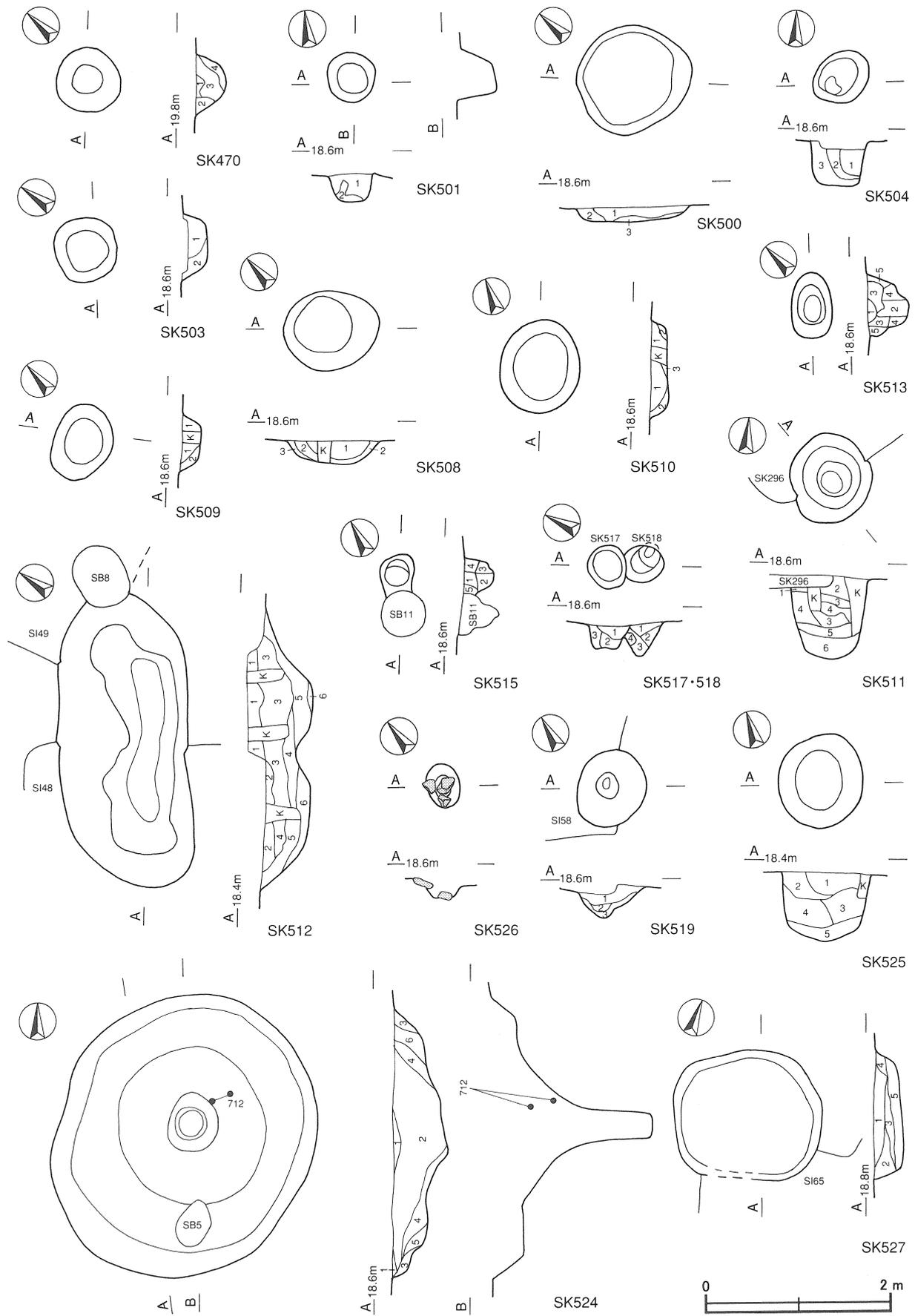
第291图 第412~414·416~424·427~430·432~434B号土坑实测图



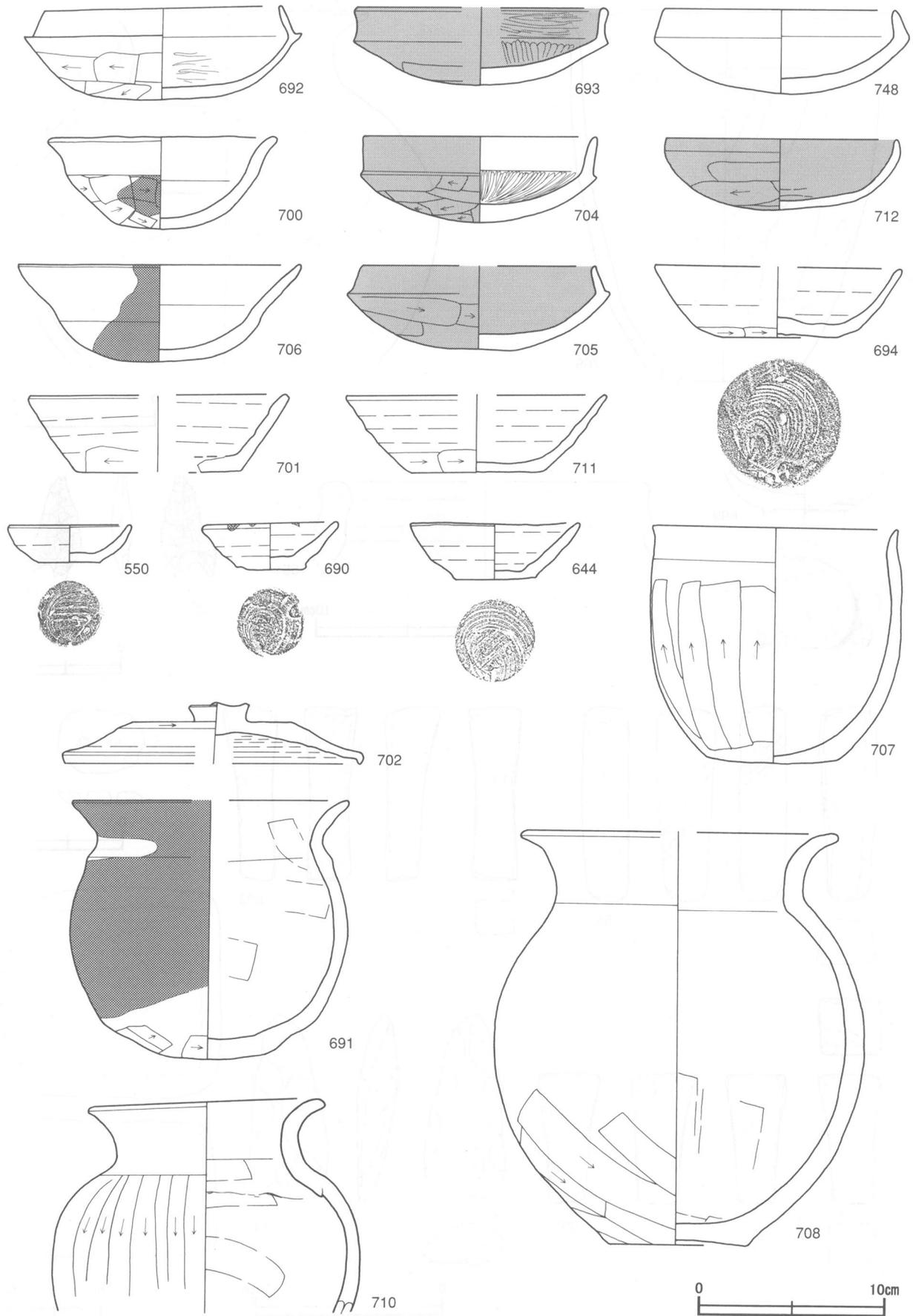
第292図 第435~438・440~449号土坑実測図



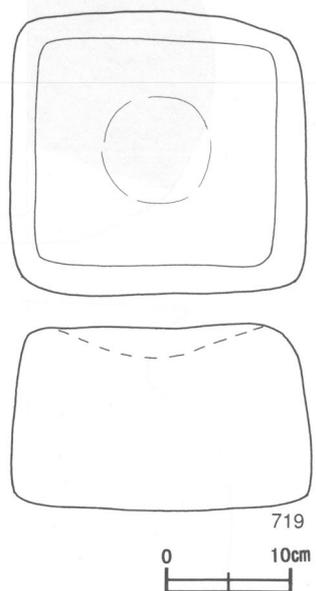
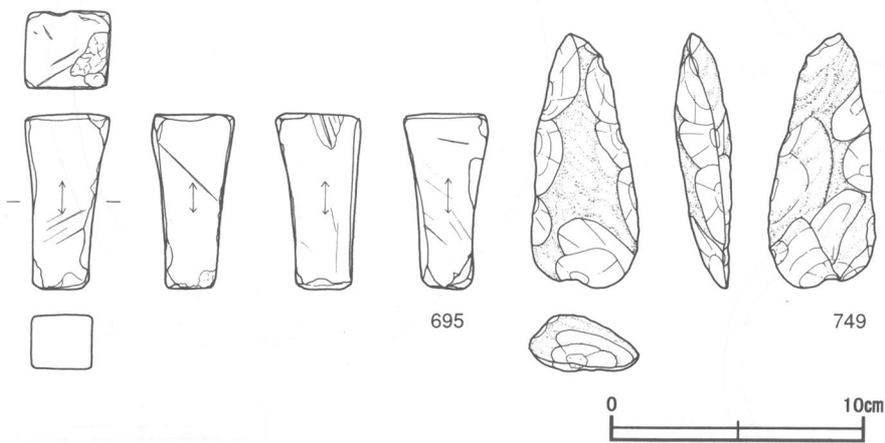
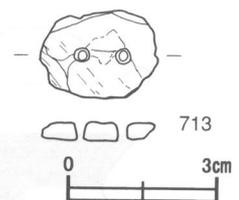
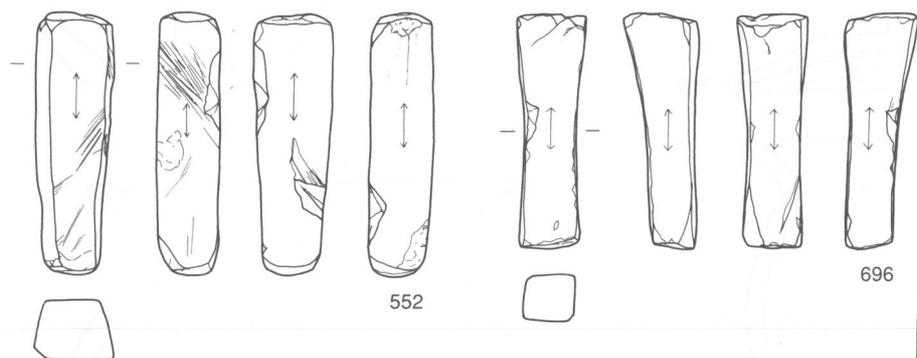
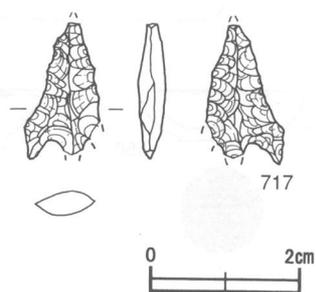
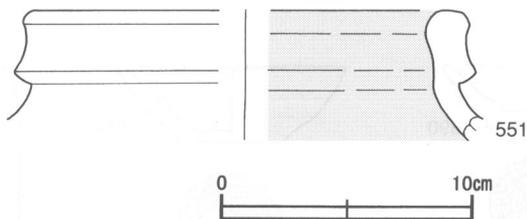
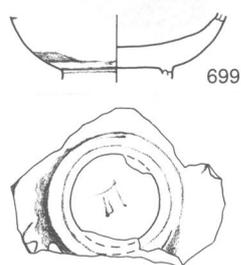
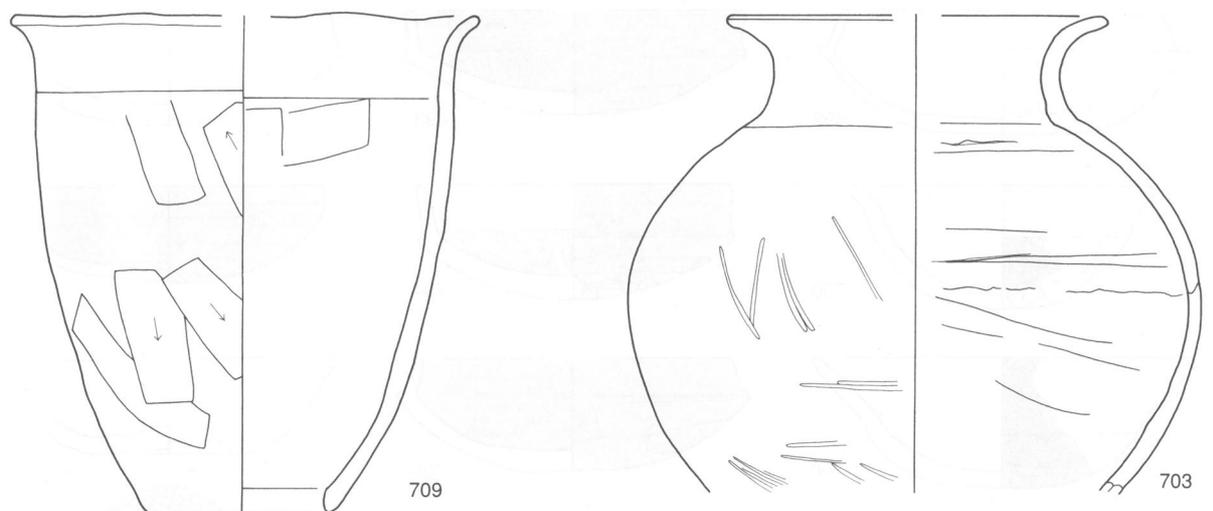
第293图 第450~459·461~467号土坑实测图



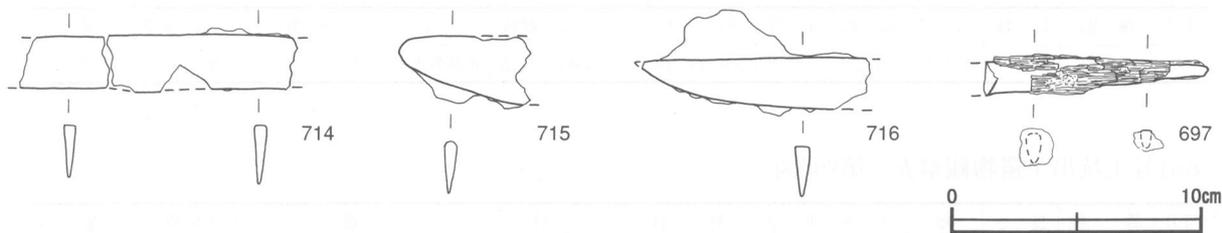
第294图 第470·500·501·503·504·508~513·515·517~519·524~527号土坑实测图



第295图 土坑出土遗物实测图(1)



第296图 土坑出土遺物実測図(2)



第297図 土坑出土遺物実測図(3)

第18号土坑出土遺物観察表 (第295・296図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
550	土師質土器	小皿	6.4	2.1	3.4	長石・雲母	橙	普通	底部内面一方向の指ナデ	覆土中	80% PL59
551	陶器	甕	[16.0]	(4.3)	—	長石・石英	にぶい赤褐	良好	縁帯部が頸部に密着し、折り返し頂部より下位に巡る	覆土中	5% 常滑11型式

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
552	砥石	10.4	3.1	2.5	12.9	凝灰岩	砥面4面	覆土中	PL66

第49号土坑出土遺物観察表 (第296図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
719	五輪塔	23.0	23.7	15.0	1300	花崗岩	地輪	覆土中	PL66

第57号土坑出土遺物観察表 (第295図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
644	土師質土器	小皿	8.9	3.1	4.3	石英・雲母・スコリア	橙	普通	底部内面一方向のナデ	底面	95% PL59

第66号土坑出土遺物観察表 (第295図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
690	土師質土器	小皿	6.8	2.6	3.5	砂粒・スコリア	橙	普通	口縁部内・外面口クロナデ	南部覆土中	70% PL60

第67号土坑出土遺物観察表 (第295図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
691	土師器	小形甕	[14.8]	14.0	6.0	石英・雲母・スコリア	灰黄褐	普通	口縁部内・外面横ナデ, 底部外面ヘラ削り	覆土下層	60%

第75号土坑出土遺物観察表 (第295図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
748	土師器	坏	12.3	4.6	—	石英・雲母・スコリア	明赤褐	普通	内・外面摩耗	下層	70%

第77号土坑出土遺物観察表 (第295図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
692	土師器	坏	12.5	5.1	—	長石・雲母	赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ, 底部外面ヘラ削り	覆土中	60%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
693	土師器	坏	[13.2]	4.2	—	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	底部外面へラ削り	覆土中	40%

第81号土坑出土遺物観察表（第296図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
749	打製石斧	10.3	4.3	2.3	95.3	砂岩	撥形、縁部に加撃調整	覆土中	PL65

第122号土坑出土遺物観察表（第295図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
694	土師器	坏	[12.9]	3.8	6.2	石英・雲母	橙	普通	底部回転糸切り	上層	60%

第150号土坑出土遺物観察表（第296図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
695	砥石	7.0	3.4	3.2	89.7	凝灰岩	砥面5面	覆土中	
696	砥石	9.4	2.8	2.9	86.0	凝灰岩	砥面4面	覆土中	

第191号土坑出土遺物観察表（第297図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
697	刀子	(9.0)	(1.7)	(1.3)	(17.0)	鉄	茎部、木片付着	北部中層	

第206号土坑出土遺物観察表（第296図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
699	磁器	碗	—	(2.6)	—	白色粒子	灰白、透明釉、具類にぶい発色	良好	輪高台	上層	30% 肥前系 PL60

第212号土坑出土遺物観察表（第295図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
700	土師器	坏	11.9	5.0	—	砂粒	赤	普通	口縁部内・外面及び体部内面横ナデ、底部外面へラ削り	上層	70% PL60

第255号土坑出土遺物観察表（第295図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
701	須恵器	坏	[13.6]	4.2	[8.8]	長石・石英	にぶい褐	普通	底部へラ削り	下層	40%

第261号土坑出土遺物観察表（第295図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
702	須恵器	蓋	[15.8]	2.8	—	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部二回転のへラ削り	覆土中	50%

第284号土坑出土遺物観察表（第296図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
703	土師器	甕	[19.3]	(25.1)	—	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部内・外面横ナデ, 体部内面ヘラナデ	上層	50%

第296号土坑出土遺物観察表（第296図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
717	鏃	(1.9)	(1.0)	(0.4)	(0.4)	チャート	無茎鏃, 基部に抉入	覆土中	PL63

第300号土坑出土遺物観察表（第295図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
704	土師器	坏	12.3	4.7	—	雲母・スコリア	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ, 底部外面ヘラ削り	中層	70%
705	土師器	坏	[12.3]	4.6	—	長石・スコリア	灰褐	普通	口縁部内・外面横ナデ, 底部外面ヘラ削り	中層	60%

第310号土坑出土遺物観察表（第295・296図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
706	土師器	坏	14.9	5.2	—	雲母	橙	普通	内・外面摩耗	下層	50%
707	土師器	小形甕	13.0	12.8	6.8	長石・スコリア	灰褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	下層	65%
708	土師器	小形甕	[16.6]	22.3	7.4	石英・パミス	褐	普通	口縁部内・外面横ナデ, 底部内面ヘラナデ	下層	85% PL61
709	土師器	甌	[23.8]	26.4	9.2	礫・長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	下層	80% PL61

第440号土坑出土遺物観察表（第295図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
710	土師器	甕	12.0	(11.6)	—	砂粒・スコリア	にぶい橙	普通	口縁部内・外面横ナデ	中央部中層	50%

第441号土坑出土遺物観察表（第295図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
711	須恵器	坏	[13.7]	4.2	6.8	長石・雲母・スコリア	灰褐	普通	底部一方向のヘラ削り	中央部下層	50%

第524号土坑出土遺物観察表（第295～297図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
712	土師器	坏	12.3	3.9	—	砂粒・スコリア	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ, 底部外面ヘラ削り	覆土中	70% PL60

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
713	双孔円板	1.8	2.3	0.4	2.8	滑石	外面研磨	覆土中	95% PL65
714	刀子	(11.0)	(2.2)	0.5	(22.9)	鉄	刀身部中央残存	覆土上層	
715	刀子	( 5.2)	(2.8)	0.5	(11.8)	鉄	切先残存	覆土中	
716	刀子	( 9.0)	(2.1)	0.5	(46.2)	鉄	刀身部中央から切先残存	覆土中層	

(2) 溝 (第298図)

当遺跡からは、「3 中・近世の遺構と遺物」で記載した第4・31～33号溝を除いて28条の溝が検出されている。第6・7・22・29号溝は出土土器から近世の可能性が考えられ、その他の溝についても覆土の色調から近世と推定されるが明確な時期は不明である。以下、これらの遺構については一覧表での記述とし、ここでは土層断面図と出土遺物を掲載し、平面図は付図に示す。

第6号溝土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第8号溝土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第11号溝土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック微量

第13号溝土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量

第15号溝土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

第17号溝土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第18号溝土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第20号溝土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化ブロック微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子中量

第23号溝土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第25号溝土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

第27号溝土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

第29号溝土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

第7号溝土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量

第10号溝土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量

第12号溝土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

第14号溝土層解説

- 1 黒色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子少量

第16号溝土層解説

- 1 黒色 ローム粒子微量

第19号溝土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック多量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第21号溝土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第22号溝土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第24号溝土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第26号溝土層解説

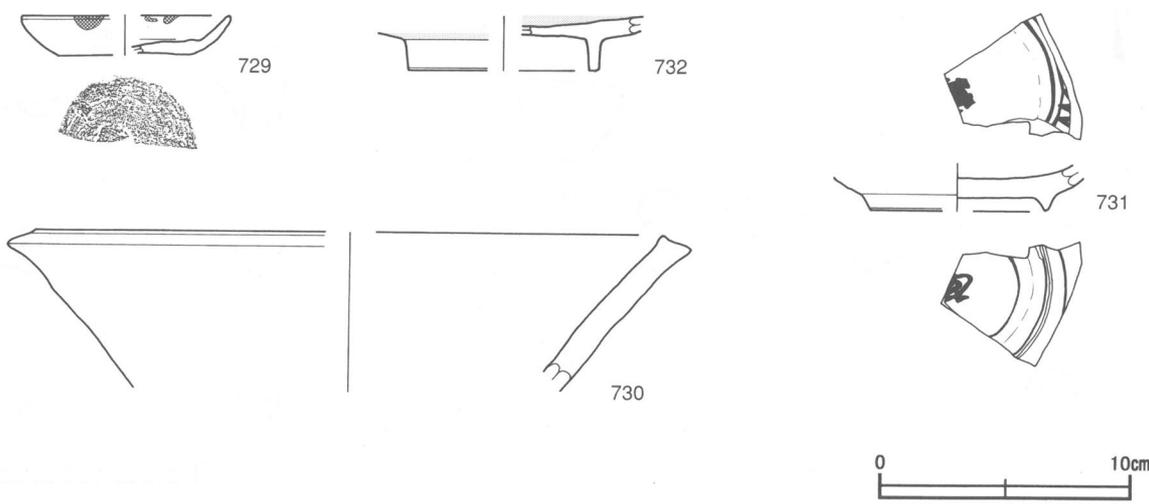
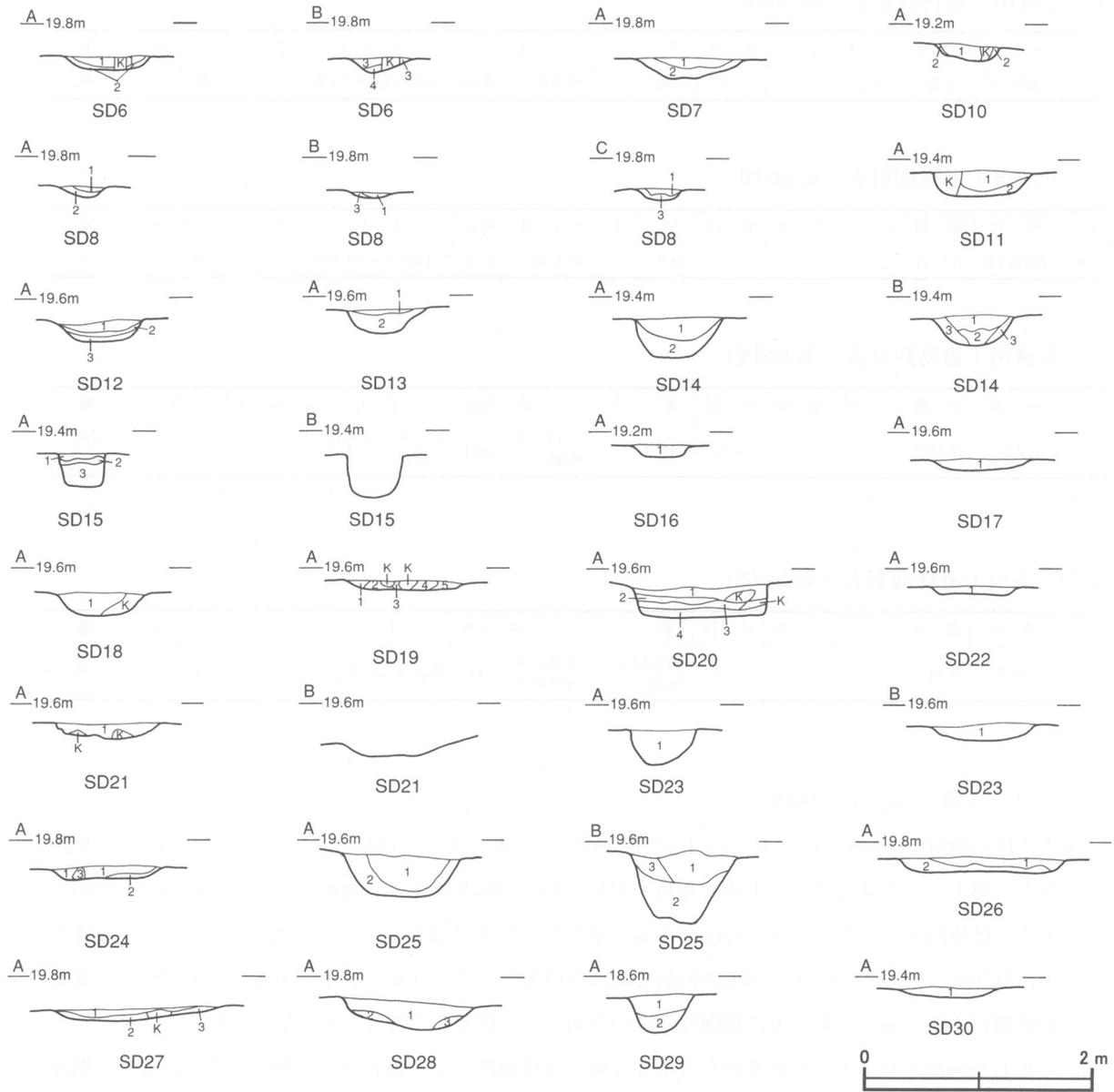
- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第28号溝土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第30号溝土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量



第298図 第6～8・10～30号溝，第6・7・22・29号溝出土遺物・実測図

第6号溝出土遺物観察表（第298図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
729	土師質土器	小皿	[8.2]	1.6	[5.4]	石英	明赤褐	普通	口縁部内・外面及び底部内面ロクロナデ	覆土中	50%

第7号溝出土遺物観察表（第298図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
730	土師質土器	片口鉢	[24.8]	(6.3)	—	石英	明赤褐	普通	口縁部内・外面横ナデ	覆土中	5%

第22号溝出土遺物観察表（第298図）

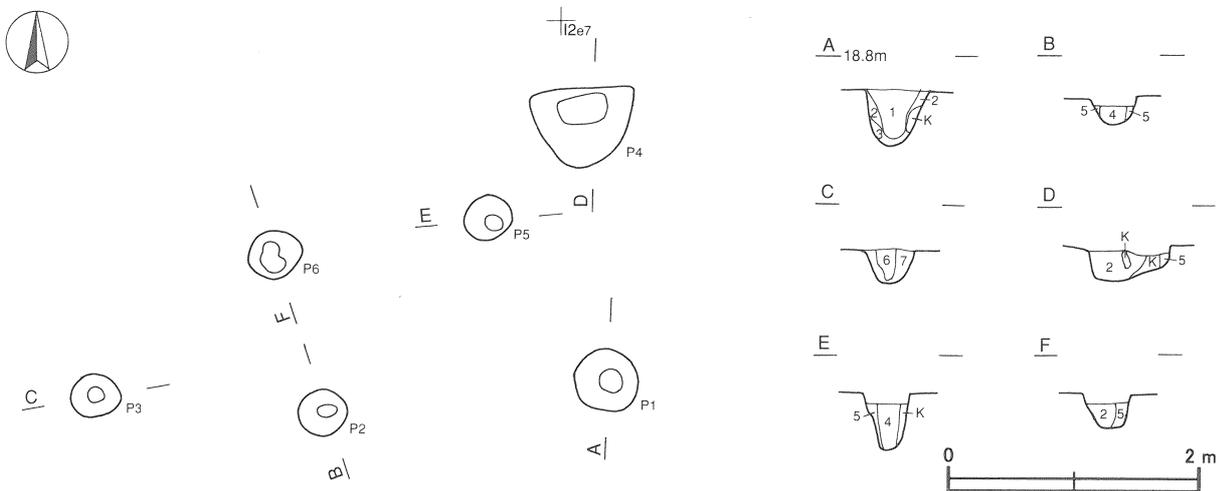
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
731	磁器	染付皿	—	(1.9)	[6.9]	白色粒子	灰白、透明釉	良好	見込みに五弁花文、呉須にぶい発色	覆土中	10% 肥前系

第29号溝出土遺物観察表（第298図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
732	陶器	灰釉皿	—	(2.2)	[7.4]	黒色粒子・気泡	黄橙、黄緑色灰釉	良好	体部下端回転ヘラ削り	覆土中	10%

(3) ピット群（第299・300図）

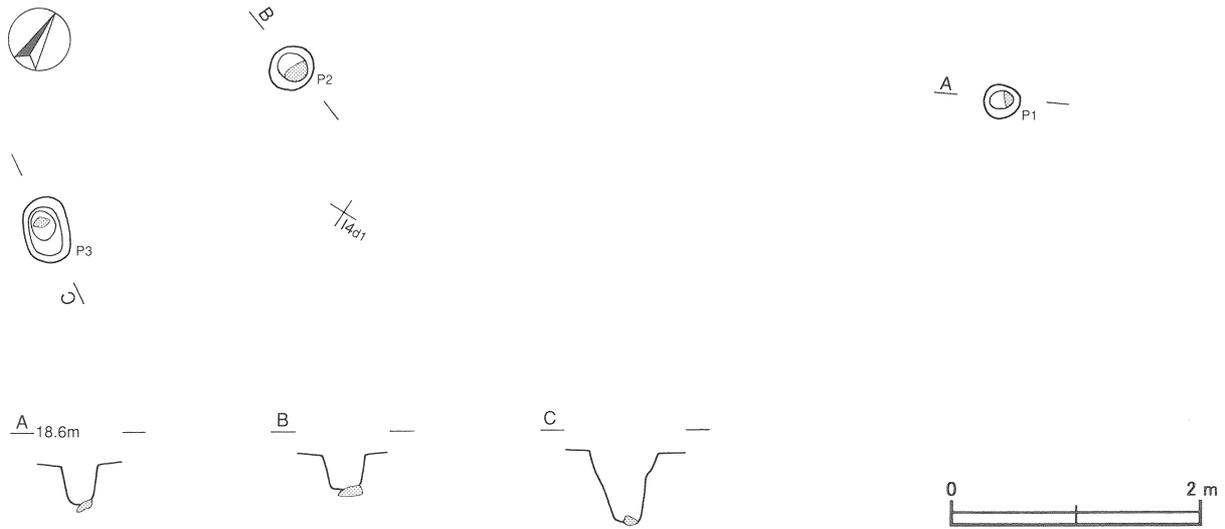
調査I区の西部、I 2 e6区・I 2 e7区で第1号ピット群、I 3 c0区・I 4 c1区で第2号ピット群が確認された。第1ピット群ではピットが6か所（P1～P6）確認され、平面形は長径35～85cm、短径35～80cmの円形または楕円形で、深さは20～45cmである。第2ピット群ではピットが3か所（P1～P3）確認され、平面形は長径30～53cm、短径26～36cmの円形または楕円形で、深さは30～60cmである。いずれも出土遺物がないため時期は不明であり、並び方に規則性がないためピット群として扱ったが、第2号ピット群はピットの底面から根石が検出されており、位置からも第3号掘立柱建物跡などの根石を伴う掘立柱建物跡群との関連性が考えられ、未検出の掘立柱建物跡の柱穴である可能性も考えられる。



第299図 第1号ピット群実測図

第1号ピット群土層解説 (P1~P5)

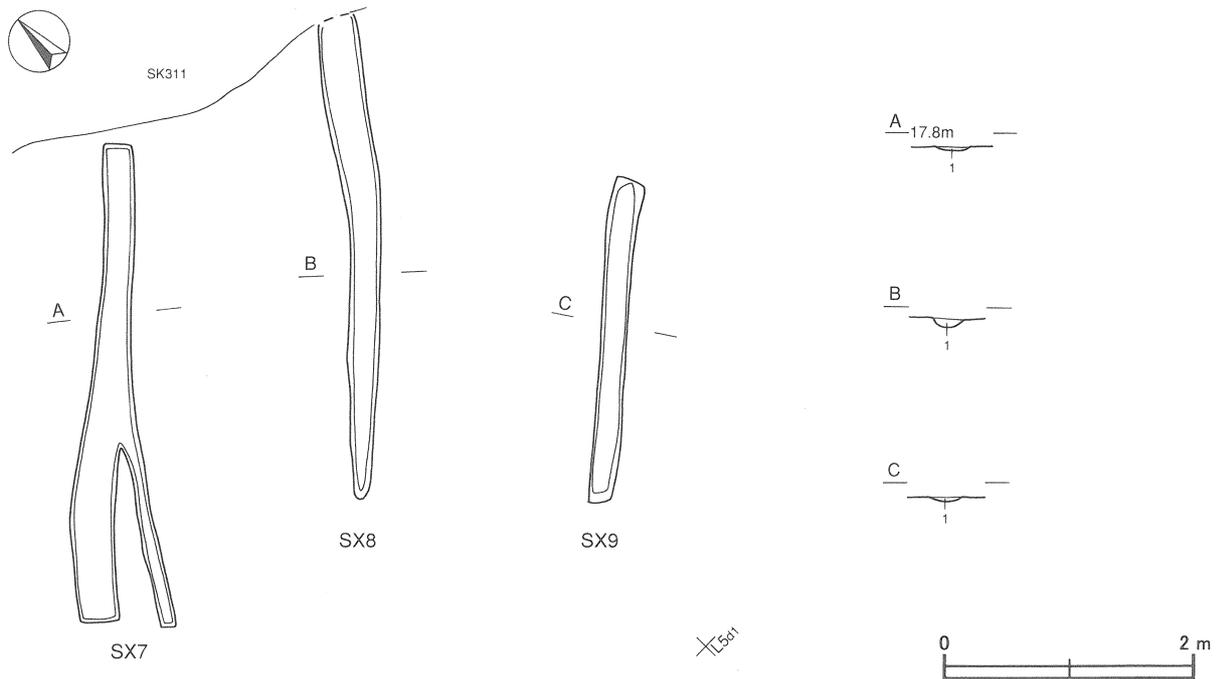
- |                           |               |
|---------------------------|---------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック少量, ロームブロック微量 | 5 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック微量           | 6 黒褐色 ローム粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量           | 7 黒褐色 ローム粒子中量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量     |               |



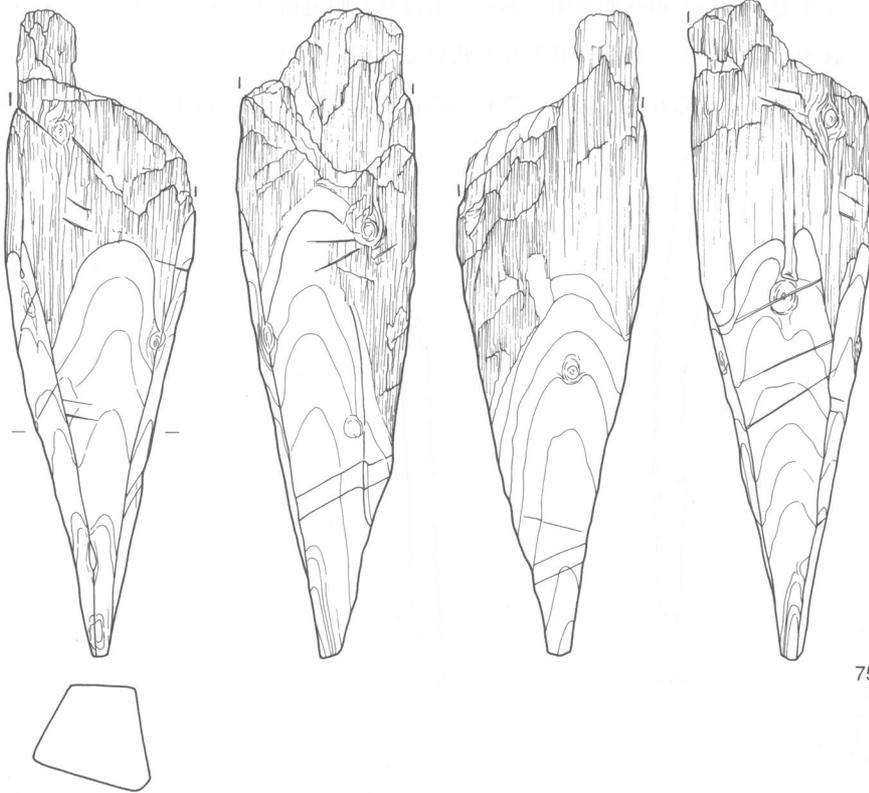
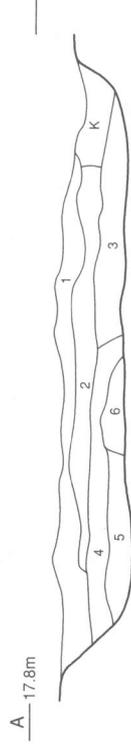
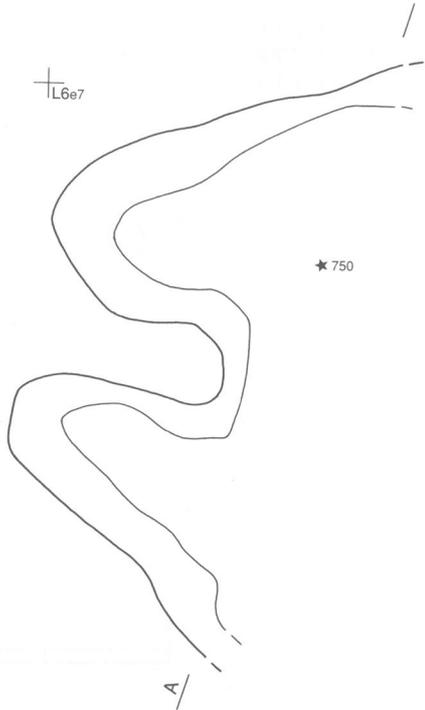
第300図 第2号ピット群実測図

(4) 不明遺構 (第301・302図)

当遺跡からは、「2 古墳時代の遺構と遺物」で記載した第6号不明遺構を除いて不明遺構が4か所で確認されているが、出土土器がないため時期不明である。第11号不明遺構は、第1号溝を掘り込んで、調査区域外の水田に向かって緩やかに傾斜し、底面に刺された状態で木杭が検出され、湿地に面していることなどから舟繋ぎなどの施設の可能性も考えられる。以下、これらの遺構について、平面図と土層断面図を掲載する。



第301図 第7~9号不明遺構実測図



第302図 第11号不明遺構・出土遺物実測図

第7～9号不明遺構土層解説

1 黒褐色 粘土ブロック少量，ローム粒子微量

第11号不明遺構土層解説

1 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物微量

2 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化物微量

3 黒褐色 ローム粒子・鉄分少量

4 暗褐色 鉄分中量，ローム粒子少量

5 極暗褐色 鉄分少量，ロームブロック微量

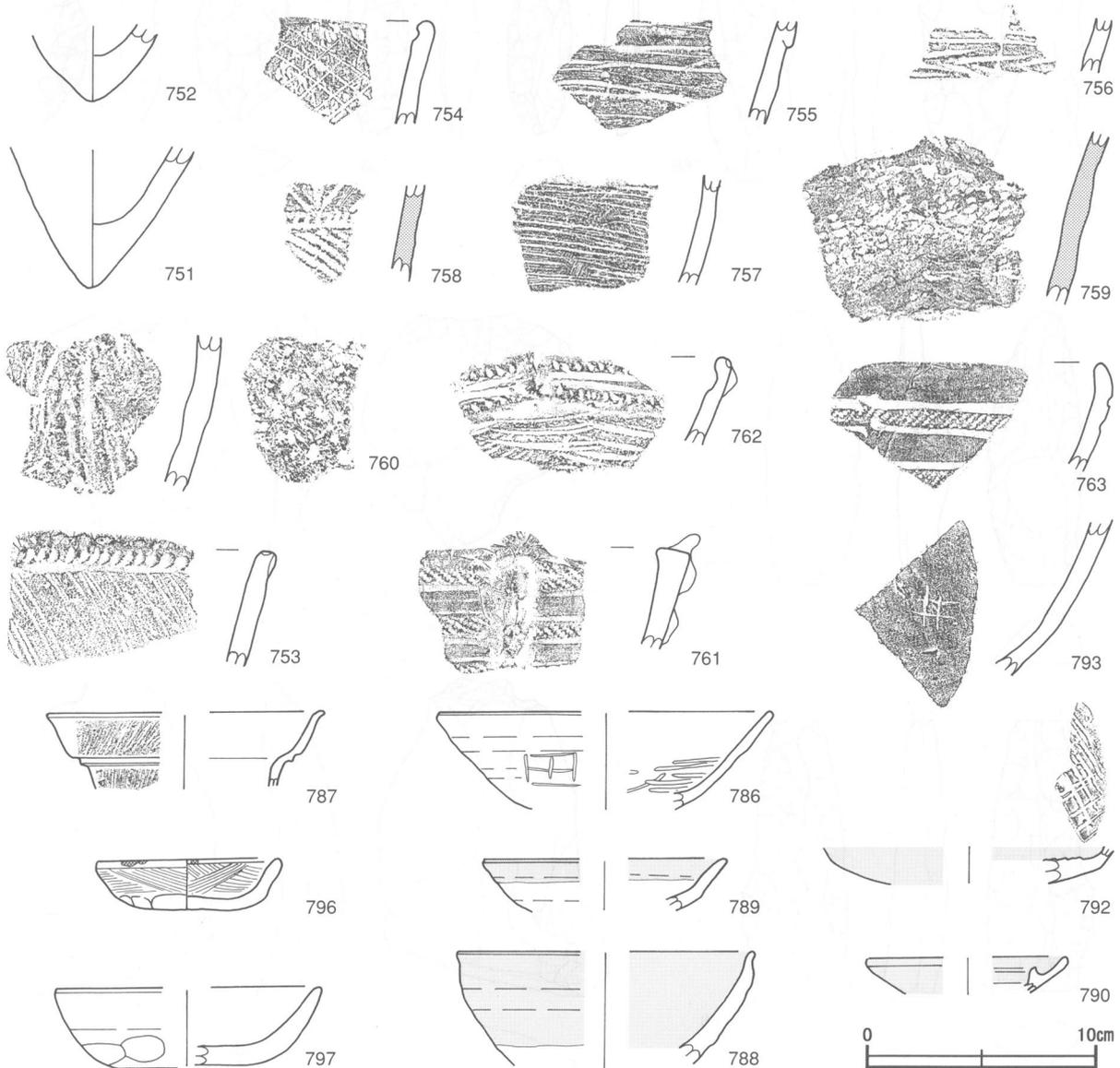
6 極暗褐色 ロームブロック中量，鉄分少量

第11号不明遺構出土遺物観察表（第302図）

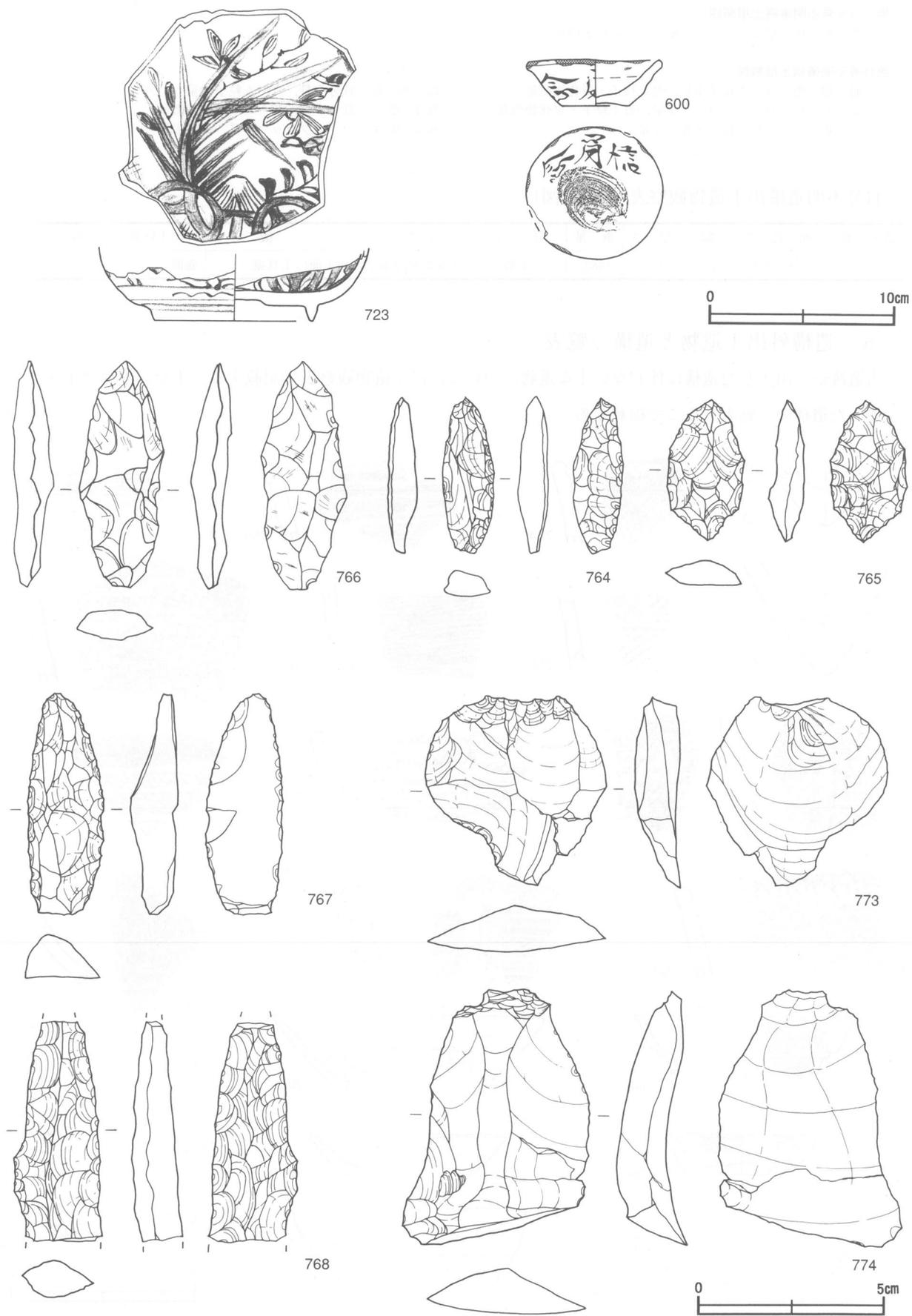
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
750	杭	(26.0)	(7.5)	6.5	(482)	木製	下端部四面加工，加工面に工具痕	底面	

5 遺構外出土遺物と遺構一覧表

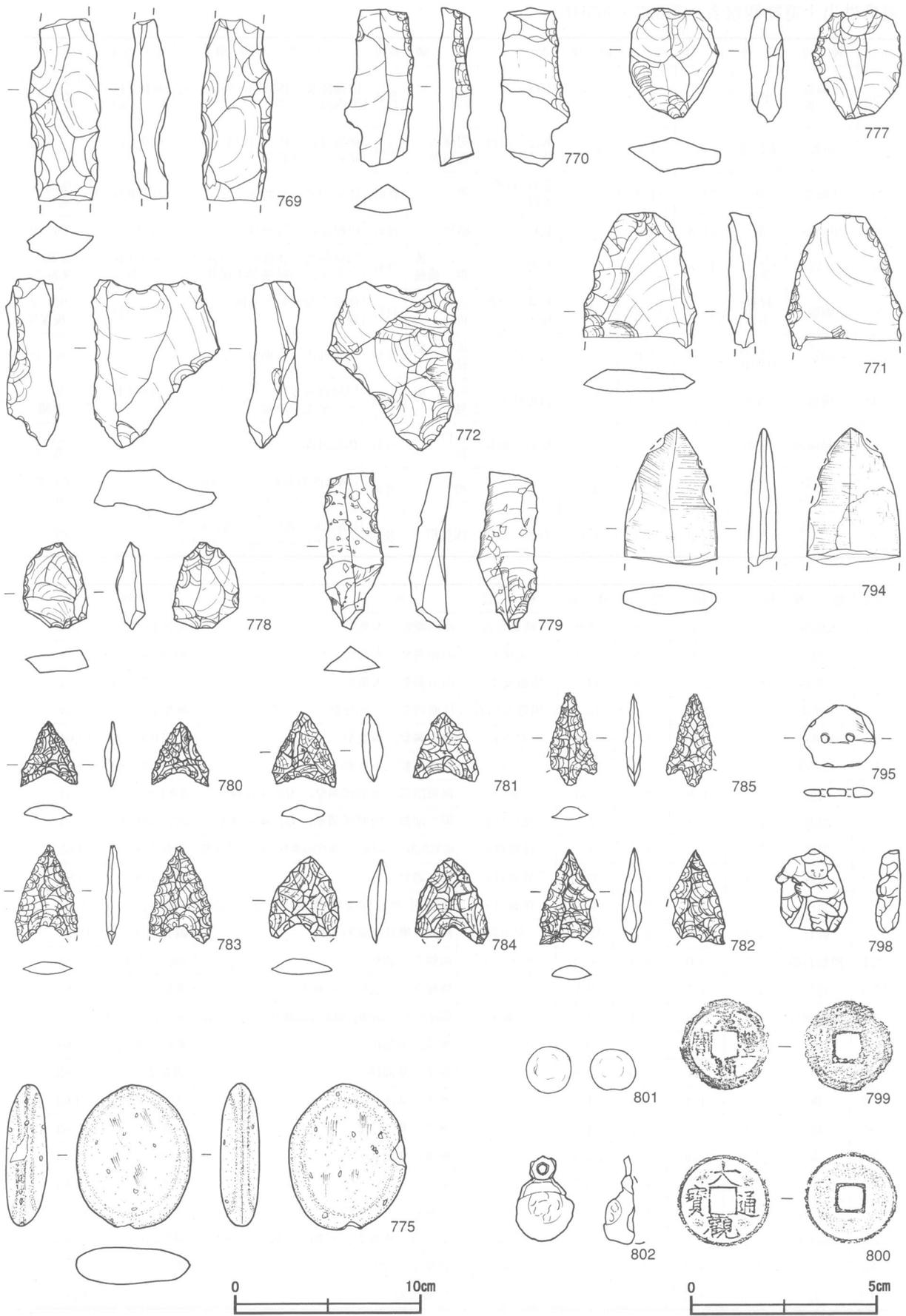
当遺跡から出土した遺構に伴わない主な遺物について，出土遺物観察表で記載する。また，本節の1～4で記述した遺構の一覧表もここで掲載する。



第303図 遺構外出土遺物実測図(1)



第304図 遺構外出土遺物実測図(2)



第305図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表（第303～305図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
600	土師質土器	小皿	7.1	2.5	3.7	雲母・スコリア	橙	普通	口縁部及び体部内・外面、底部内面ロクロナデ	調査I区 K5j5区	95%「念佛講」の墨書タール付着 PL61
723	磁器	染付皿	—	(4.1)	8.3	気泡・白色粒子	明緑灰透明釉	堅緻	釉層薄い、蛇の目凹形高台、見込みに草花文	調査I区 L5区	50% PL60
786	土師器	坏	[14.2]	(4.3)	—	長石・石英・雲母	橙	良好	体部内面ヘラ磨き	調査II区	20%「田」の刻書 PL61
787	須恵器	壺	[11.8]	(3.3)	—	長石	暗灰	良好	口縁部内・外面ロクロナデ		5% PL61
788	陶器	天目茶碗	[12.8]	(5.0)	—	石英	にぶい黄橙、褐釉	良好	口縁部及び体部内・外面ロクロナデ、口縁端部玉縁状	調査I区 I4区	20%瀬戸・美濃大窯第67小期
789	陶器	緑釉小皿	[10.2]	(2.3)	—	石英・白色粒子	浅黄、灰釉	良好	体部下端回転ヘラ削り・薄い錆釉	調査II区	15%古瀬戸後IV期
790	陶器	受付灯明皿	[8.4]	(1.6)	—	白色粒子	黄橙、錆釉	良好	口縁部内・外面ロクロナデ		5% PL61
792	陶器	卸皿	—	(1.7)	[7.0]	白色粒子	灰白、灰釉	堅緻	口縁部及び内・外面ロクロナデ、刷毛塗り釉	調査I区 トレンチ	5%古瀬戸中期
793	灰釉陶器	瓶類	—	(6.6)	—	長石・砂粒	灰白、灰釉	良好	体部外面ヘラ削り	調査I区	5%「井」の刻書 PL61
796	土師質土器	小皿	7.8	2.4	4.4	パミス・スコリア	橙	普通	口縁部内・外面横ナデ、底部内面一方の指ナデ、底部外面指オサエ後ナデ		95% タール付着 PL61
797	土師質土器	小皿	[11.4]	3.4	[6.0]	石英・雲母	浅黄橙	普通	口縁部内・外面横ナデ、底部内面一方の指ナデ、底部外面指オサエ後ナデ		40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
764	尖頭器	4.2	1.3	0.8	3.9	硬質頁岩	両面調整、木葉形	調査I区	PL64
765	尖頭器	3.7	2.0	0.9	5.3	流紋岩	両面調整、木葉形、有舌	調査I区第2号堀	PL64
766	尖頭器	6.2	2.2	1.0	11.3	黒色安山岩	両面調整、木葉形	調査I区第2号堀	PL64
767	尖頭器	6.0	2.1	1.3	13.6	黒色安山岩	片面調整、三日月形	調査I区	PL64
768	尖頭器	(5.9)	2.4	1.4	(18.0)	安山岩	両面調整、木葉形	調査I区第2号堀	PL64
769	尖頭器	(4.9)	1.8	1.0	(7.6)	頁岩	両面調整、木葉形	調査I区第6号不明	PL64
770	削器	4.2	1.8	0.9	5.3	頁岩	縦形削器、両側縁調整、刃部両面調整	調査I区第2号堀	PL64
771	削器	(3.6)	3.1	0.7	(7.7)	硬質頁岩	縦形削器、両側縁調整、刃部両面調整	調査I区第2号堀	PL64
772	削器	4.5	3.4	1.4	16.7	硬質頁岩	縦形削器、一側縁に急角度の調整、刃部片面調整	調査I区	PL65
773	搔器	4.8	4.9	1.4	23.6	硬質頁岩	縁部調整	調査I区	PL65
774	剥片	6.9	5.0	2.0	42.1	硬質頁岩	縦長剥片、縁辺に微細な剝離痕、773と同一母岩か	調査I区	PL65
775	磨石	7.8	6.2	2.0	120.0	安山岩	両面に磨目、敲石兼用	調査I区	PL66
777	楔形石器	2.5	3.0	0.9	6.0	チャート	両側から調整	調査II区第94号住	PL63
778	剥片	2.4	1.7	0.8	2.7	チャート	側縁部に二次加工を有する	調査I区I4区	PL64
779	縦長剥片	4.2	1.6	1.1	4.0	黒曜石	側縁が平行、両側に微細な剝離痕、高原山産か	調査I区I4区	
780	鏃	1.8	1.6	0.4	0.5	チャート	無茎、基部抉入	調査I区第2号堀	PL63
781	鏃	1.9	1.7	0.5	0.9	チャート	無茎、基部抉入	調査I区	PL63
782	鏃	2.5	(1.4)	0.5	(1.3)	黒曜石	無茎、基部抉入	調査I区第2号堀	PL63
783	鏃	2.6	1.6	0.3	(1.2)	チャート	無茎、基部抉入	調査I区	PL63
784	鏃	2.2	1.9	0.4	(1.4)	チャート	無茎、基部抉入	調査I区第1号住	PL63
785	鏃	2.5	(1.2)	0.4	(0.7)	チャート	有茎、基部抉入	調査I区	PL63
794	石製模造品	(3.7)	2.5	0.8	(7.6)	滑石	剣模造、基部欠損	調査I区	PL65
798	泥面子	2.2	1.9	0.7	2.1	土製	七福神、恵比寿、烏帽子を被り魚を抱く	調査I区I3区	PL63
801	玉	1.2	1.2	1.1	(6.7)	銅	鉄砲玉、球形	調査I区K5a8区	
802	鈴	2.3	1.5	(0.8)	(2.0)	銅	片側欠損	調査I区J5i5区	PL67

番号	銭名	径	孔幅	重量	初铸年	材質	特徴	出土位置	備考
799	元豊通宝	2.4	0.7	2.4	1078	銅	北宋銭，無背銭	調査Ⅱ区	PL68
800	大観通宝	2.5	0.6	2.3	1107	銅	北宋銭，無背銭	調査Ⅱ区	PL68

番号	種別	器種	口径	器高	底径	文様の特徴	胎土	焼成	色調	備考(出土位置)
751	縄文土器	深鉢	—	(6.2)	—	尖底部片で，撚糸文施文	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	調査Ⅰ区
752	縄文土器	深鉢	—	(3.4)	—	尖底部片で無文	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	調査Ⅰ区第2号堀

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
795	円板	1.7	1.9	0.2	1.2	滑石	双孔，孔径は0.2m，内・外面研磨，鏡模造	調査Ⅰ区Ⅰ4区	PL65

番号	時期	器形および文様の特徴	出土位置	備考
755～757	早期中葉	胴部片，沈線文土器群，横位の沈線文を有する土器群	755調査Ⅱ区C9区，756第8号住居跡，757調査Ⅱ区	PL62
760	早期末葉	胴部片，条痕文系土器群	調査Ⅰ区Ⅰ4区	PL62
758	前期初頭(花積下層)	胴部片，撚糸圧痕文系土器群	第2号堀	胎土に繊維含む PL62
759	前期中葉(黒浜)	胴部片，粗雑なLRの縄文	調査Ⅰ区Ⅰ4区	胎土に繊維含む PL62
754・763	後期中葉(加曾利B)	口縁部片，763はRLの磨消縄文	第2号堀，調査第Ⅰ区	PL62
753・761・762	後期後半(安行Ⅰ)	口縁部片，761は隆起帯縄文，753・762は細線文	753調査Ⅱ区，761調査Ⅰ区，762第63号住居跡	PL62

表2 梶内山遺跡竪穴住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模	壁高	床面	内部施設						覆土	主な出土遺物	時期	備考・重複関係
							壁溝	主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
1	K5h4	N-44°-W	方形	6.50 × 6.30	25~37	平坦	—	3	1	—	竈	1	自然	土師器	6世紀後葉	本跡→SK28・29・59・74・84・85・89・93
2	K5f5	N-42°-W	長方形	5.76 × 5.16	30~36	平坦	—	3	1	1	竈	1	人為	土師器	6世紀後葉	SI20→本跡→SI3，SK16・83
3	K5e6	N-43°-W	長方形	7.12 × 6.12	10~18	平坦	一部	—	1	10	竈	—	不明	土師器	6世紀末葉	SI2→本跡→SK83
4	K5h7	N-52°-W	方形	5.64 × 5.62	30~36	平坦	一部	4	1	3	竈	2	自然	土師器，石製模造品	6世紀後葉	焼失家屋
5	K5i8	N-45°-W	方形または長方形	5.40 × (1.97)	33~35	平坦	一部	—	—	—	竈	1	不明	土師器，石器	6世紀後葉	本跡→SI6
6	K5j8	N-35°-W	方形	6.90 × 6.80	30~36	平坦	一部	4	2	—	竈	—	人為	土師器	6世紀末葉	焼失家屋，SI5・7→本跡
7	L5a9	N-50°-E	長方形	7.60 × 6.10	30~35	平坦	一部	—	—	2	—	—	人為	土師器	6世紀後葉	焼失家屋，本跡→SI6
8	L5d7	N-34°-E	長方形	5.34 × 4.45	24	平坦	—	1	—	1	—	—	人為	土師器	6世紀中葉	焼失家屋，SI11→本跡→SD4
9	L5b0	N-37°-W	方形	5.25 × 5.07	23~25	平坦	—	2	1	7	竈	1	自然	土師器	6世紀後葉	
10	L5b4	N-45°-W	[方形]	[4.80] × [4.50]	20	平坦	一部	2	—	—	竈	—	不明	土師器，石製模造品	6世紀後葉	SI14・21→本跡→SK12・17・49・51・52・73・204・211・212，SD4
11	L5c8	N-20°-W	[方形]	(5.82) × 2.15	10~14	平坦	—	—	—	1	—	—	不明	土師器，鉄器	5世紀後葉	本跡→SI8・13，SD4
12	K5j6	N-45°-W	長方形	4.25 × 3.07	3~11	平坦	—	3	—	1	—	—	人為	土師器	6世紀	本跡→SK35・60・61・69
13	L5b6	N-50°-W	方形	6.67 × 6.65	16~38	平坦	半周	4	1	1	竈	1	自然	土師器，土製品	6世紀後葉	SI11・14→本跡→SK26・38 AB・44・67・82・95，SD4
14	L5b5	N-45°-W	方形	[6.36] × [6.00]	20~23	平坦	一部	4	—	1	—	1	人為	土師器	6世紀後葉	本跡→SI10・13，SK19・20 AB・31・55・63・66・67・73・78・87，SD4
15	K5f9	N-35°-W	方形	6.83 × 6.25	20	平坦	—	—	—	—	竈	1	不明	土師器，須恵器	6世紀後葉	本跡→SI16
16	K5g0	N-31°-W	[長方形]	[7.50] × [6.50]	—	平坦	—	3	1	—	竈	—	—	土師器，須恵器	6世紀末葉	焼失家屋，SI15→本跡
17	K6h1	N-59°-E	[長方形]	[5.40] × [5.00]	—	平坦	—	3	—	—	—	—	—	土師器	6世紀後葉	
19	L5e6	N-54°-W	方形	4.00 × 3.80	10	平坦	—	3	—	—	竈	—	不明	土師器	6世紀後半	
20	K5f4	N-42°-W	方形または長方形	3.74 × (1.44)	10	平坦	—	—	—	—	—	—	人為	土師器	6世紀中葉	本跡→SI2，SK83・84

住居跡 番号	位置	主軸方向	平面形	規模	壁高	床面	内 部 施 設						覆土	主な出土遺物	時 期	備考・重複関係
							壁溝	主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
21	K 5 j3	N-40°-W	[方形]	[7.30]×[6.95]	10	平坦	—	4	—	3	竈	—	不明	土師器, 須恵器	6世紀後半	本跡→SI10, SK9~12, 36-40, 49 A B 65-70, 71-79, 80-90, 203~205, 211, SD4
22	I 2 h5	N-16°-W	[方形]	3.80 × [3.70]	5~12	平坦	—	3	1	—	竈	—	不明	土師器, 須恵器	8世紀後葉	SK271→本跡→SI23 A・B
23AB	I 2 g5	N-16°-W	方形	4.75 × 4.65	2~8	平坦	一部	4	1	—	竈	—	人為	土師器, 須恵器	9世紀後葉	SI22→本跡
24	I 2 h9	N-15°-W	方形	4.12 × 4.10	15~22	平坦	一部	4	1	—	竈	—	自然	土師器, 須恵器, 鉄器	9世紀前葉	
25	I 2 g0	N-14°-W	長方形	4.11 × 3.77	10~20	平坦	一部	4	1	—	竈	—	人為	土師器, 須恵器	8世紀中葉	
26	I 3 e4	N-5°-W	方形	2.75 × 2.56	7	平坦	—	—	—	—	竈	—	不明	土師器, 須恵器	9世紀前葉	本跡→SK262
27	I 3 i4	N-0°	方形	4.10 × [4.00]	10	—	—	—	1	—	竈	—	不明	土師器, 須恵器	9世紀中葉	
28	I 3 i0	N-7°-W	方形	2.94 × 2.81	15~20	平坦	—	—	1	1	竈	—	自然	土師器, 須恵器	9世紀	
29	I 4 i1	N-9°-W	方形	4.30 × 4.00	18	平坦	—	—	1	—	竈	—	自然	土師器, 須恵器	9世紀中葉	本跡→SK263
30	I 4 g1	N-35°-W	方形	5.40 × 5.20	18~20	平坦	—	4	1	1	竈	1	自然	土師器, 須恵器	6世紀後半	本跡→SI38・SK260
31	I 3 e0	N-15°-W	方形	3.70 × 3.40	9~15	平坦	—	—	1	—	竈	—	人為	土師器, 須恵器, 鉄器	9世紀後葉	本跡→SB 3・5・11
32	I 4 b6	N-21°-W	方形または長方形	2.90 × (1.50)	22~27	平坦	—	—	—	—	—	—	人為	土師器, 須恵器	8~9世紀	本跡→SK269
33	I 4 a8	N-0°	方形または長方形	3.40 × (2.10)	10	平坦	—	—	—	—	—	—	不明	土師器, 鉄器	8~9世紀	
34	I 4 b8	N-0°	長方形	2.95 × 2.30	14~20	平坦	—	—	—	—	竈	—	不明	土師器, 須恵器	8世紀後葉	
35	I 4 c6	N-23°-W	長方形	3.10 × 2.70	15~25	平坦	—	2	1	—	竈	—	自然	土師器, 須恵器	9世紀前葉	
36	I 4 d8	N-45°-W	不整形	5.85 × 5.80	4~10	平坦	—	2	—	—	竈	—	不明	土師器	6世紀中葉	本跡→SI37・SK270
37	I 4 d7	N-23°-W	長方形	3.90 × 3.30	0~10	平坦	—	—	—	—	竈	—	不明	土師器, 須恵器	8~9世紀	SI36→本跡→SK270
38	I 4 g2	N-15°-W	方形	3.70 × 3.40	10	平坦	—	—	1	—	竈	—	人為	土師器, 須恵器, 石器	9世紀中葉	SI30→本跡
39A	I 4 f2	N-14°-W	方形	2.95 × 2.95	5~9	平坦	—	—	—	—	竈	—	不明	土師器, 須恵器	9世紀前葉	SI39 B→本跡
39B	I 4 f2	N-14°-W	方形	2.65 × 2.60	15~20	平坦	—	4	1	—	—	—	—	土師器, 須恵器	9世紀前葉	本跡→SI39 A
40	I 4 d5	N-24°-W	方形	2.60 × 2.35	15	平坦	全周	—	1	—	竈	—	自然	土師器, 須恵器	8世紀後葉	本跡→SI41・SB10
41	I 4 d5	N-19°-W	方形	3.00 × 2.80	11	平坦	一部	—	1	—	竈2	—	自然	土師器, 須恵器, 鉄器	9世紀前葉	SI40→本跡
42	I 4 e6	N-23°-W	方形	3.60 × 3.40	3~7	平坦	—	—	—	—	竈	—	不明	土師器, 須恵器	9世紀前葉	
43	I 4 h2	N-22°-W	長方形	4.30 × 3.70	18~26	平坦	全周	—	1	—	竈2	—	自然	土師器, 須恵器	8世紀中葉	
44	I 4 i5	N-37°-E	長方形	3.00 × 2.60	10	平坦	一部	—	—	1	竈	—	不明	土師器, 須恵器	10世紀後半	
45	I 4 g8	N-39°-W	長方形	4.30 × 3.80	4~10	平坦	—	—	—	—	竈	—	不明	土師器, 須恵器	9世紀前葉	本跡→SB 8
46	I 4 h0	N-7°-W	方形	3.20 × 3.10	11	平坦	全周	—	1	—	竈	—	自然	土製品, 石製品	8世紀後葉	焼失家屋, 本跡→SK272
47A	J 4 c0	N-39°-W	長方形	6.10 × 5.10	5~18	平坦	—	4	1	—	竈	—	人為	土製品, 鉄器	10世紀前半	SI47 B・58→本跡
47B	J 4 c0	N-38°-W	長方形	5.30 × 4.65	5~25	平坦	一部	4	1	—	竈	—	—	土師器, 須恵器	9世紀末葉	SI58→本跡→SI47 A
48	I 4 h9	N-30°-W	方形	3.70 × 3.50	12~18	平坦	—	—	1	—	竈	—	自然	土師器, 須恵器	8世紀中葉	SK512→本跡→SB 8
49	I 4 g0	N-82°-W	[長方形]	[5.50]×[4.75]	—	平坦	—	3	1	—	竈	—	—	須恵器	8~9世紀	SK512→本跡→SB 8
50	J 4 a9	N-3°-W	方形	2.80 × 2.75	15	平坦	—	—	1	—	竈	—	不明	土師器, 須恵器	8~9世紀	
51	J 4 b5	N-22°-W	[方形]	[3.25]×[3.10]	—	平坦	—	—	—	—	竈	—	—	土師器, 須恵器	8~9世紀	
52	J 4 e9	N-32°-W	方形	3.80 × 3.60	18~24	平坦	—	3	—	—	竈	—	自然	土師器, 須恵器	8~9世紀	本跡→SK279~281
53	J 4 a0	N-30°-W	方形	3.50 × 3.45	15~20	平坦	—	4	1	—	竈	—	自然	土師器, 須恵器, 石器	8世紀後半	本跡→SD31
54	J 4 d8	N-52°-E	[方形]	[3.80]×[3.60]	—	平坦	—	4	1	1	竈	—	—	土師器, 須恵器	10世紀後半	
55	J 4 c5	N-5°-W	方形	3.75 × 3.50	2~17	平坦	—	—	1	—	竈	—	—	土師器, 須恵器, 石器	9世紀前半	
56	I 5 f1	N-42°-W	長方形	4.60 × 3.40	2~5	平坦	—	—	—	—	竈	—	不明	土師器, 須恵器	8世紀後葉	
57	J 4 e5	N-32°-W	方形	4.25 × 4.00	5~15	平坦	—	4	1	—	竈	—	自然	土師器, 須恵器	9世紀中葉	
58	I 4 d0	N-42°-W	方形	3.93 × 3.90	14~20	平坦	—	—	—	—	竈	—	自然	土師器	10世紀	本跡→SI47 A・B, SK519
59	E 9 b6	N-65°-W	方形	3.90 × 3.65	30	平坦	一部	—	1	—	竈	—	自然	土師器, 須恵器	9世紀後葉	棚状施設あり, 本跡→SD 7
60	E 9 a7	N-53°-W	方形	2.93 × 2.78	20~25	平坦	—	—	1	—	竈	—	自然	土師器, 須恵器	9世紀後葉	本跡→SD 7
61	J 2 a3	N-20°-W	方形または長方形	3.85 × (3.30)	20~26	平坦	全周	—	2	9	竈	—	自然	土師器, 須恵器	8~9世紀	本跡→SK321
62A	I 2 j5	N-2°-W	方形	3.70 × 3.50	20	平坦	—	—	1	—	竈	—	自然	土師器, 須恵器	9世紀前葉	SI62 B→本跡→SB14
62B	I 2 j5	N-2°-W	方形	3.30 × 3.20	24	平坦	全周	—	—	—	竈	—	—	土師器, 須恵器	8世紀後葉	本跡→SI62 A

住居跡 番号	位置	主軸方向	平面形	規模	壁高	床面	内 部 施 設						覆土	主な出土遺物	時 期	備考・重複関係
							壁溝	主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
63	I 2 d6	N-5°-W	方形または長方形	2.90 × (2.60)	23~28	平坦	—	—	—	—	竈	—	自然	土師器, 須恵器	8世紀中-後葉	
64	J 2 c8	N-20°-W	方形	5.00 × 4.65	5~17	平坦	—	4	1	—	竈	—	不明	土師器, 須恵器	8世紀後葉	
65	I 3 i1	N-15°-W	長方形	3.90 × 3.35	10~20	平坦	—	4	—	—	竈	—	自然	鉄器	9世紀前半	焼失家屋, 本跡→SK527
66	J 2 b9	N-23°-W	方形または長方形	5.90 × (4.10)	10	平坦	—	3	—	—	竈	—	不明	土師器, 須恵器	6世紀前後	SI67→本跡→SK340
67	J 2 a0	N-18°-W	方形または長方形	3.75 × (3.10)	10	平坦	—	2	—	—	—	—	不明	土師器	5世紀	本跡→SI66, SBI7, SK340・341
68	I 2 j0	N-14°-W	方形	3.70 × 3.60	20	平坦	—	4	1	—	竈	—	自然	土師器, 須恵器	9世紀中葉	
69	J 3 a2	N-22°-W	長方形	4.80 × 3.90	30	平坦	—	—	—	—	竈	—	自然	土師器, 須恵器, 鉄器	8世紀後葉	本跡→SK329
70	J 3 b6	N-5°-W	方形	5.65 × 5.60	24~30	平坦	—	—	—	—	竈	—	自然	石器, 鉄器	8世紀後半	
71	J 3 b9	N-15°-W	方形	5.05 × 4.85	18~27	平坦	—	—	—	—	竈	—	自然	土師器, 須恵器	8~9世紀	
72	J 3 c0	N-21°-W	長方形	4.25 × 3.65	20~30	平坦	—	—	—	—	竈	—	自然	土師器, 須恵器	9世紀前半	本跡→SI74
73	J 3 f9	N-10°-W	方形	3.80 × 3.70	10	平坦	—	4	—	—	竈	—	自然	土師器, 須恵器	9世紀後半	
74	J 3 c0	N-39°-E	方形	3.25 × 3.00	38	平坦	—	—	—	—	竈	—	自然	土師器, 須恵器	9世紀後半	SI72→本跡
75A	J 4 e1	N-7°-W	方形	4.05 × 3.70	20~30	平坦	—	4	1	—	竈	—	自然	土師器, 須恵器	8世紀後葉	SI75 B→本跡
75B	J 4 e1	N-7°-W	長方形	3.70 × 3.30	10	平坦	—	4	1	—	竈	—	—	土師器, 須恵器	8世紀後葉	本跡→SI75 A
76	J 4 h5	N-76°-E	方形	3.10 × 2.90	10	平坦	—	—	—	—	竈	—	不明	土師器, 須恵器	8~9世紀	本跡→SK334
80	E11c8	N-47°-W	方形または長方形	(3.35) × (2.20)	10	平坦	—	—	—	—	竈	—	不明	灰釉陶器	9世紀	本跡→SK100・101
81	D11j9	N-50°-W	[長方形]	[3.95] × [3.20]	—	—	—	2	—	—	竈	—	不明	灰釉陶器	9世紀後半	
82	D11h6	N-48°-W	長方形	3.40 × 3.00	20~35	平坦	全周	—	—	—	竈	—	自然	土師器, 須恵器	9世紀後葉	
83	D11b7	N-65°-W	長方形	3.05 × 2.30	25	平坦	全周	—	1	—	竈	—	自然	土師器, 石製品	9世紀後葉	
84	D11b3	N-32°-E	方形	3.65 × 3.40	12~17	平坦	全周	—	1	—	竈	—	自然	土師器, 須恵器	9世紀後葉	焼失家屋か
85	E11c5	N-50°-W	方形	2.90 × 2.80	10~15	平坦	—	—	—	—	竈	—	自然	土師器, 須恵器, 鉄滓	9世紀	
86	E10b9	N-45°-W	長方形	3.50 × 3.15	8~10	平坦	一部	—	—	—	竈	—	不明	土師器, 須恵器	9世紀後半	本跡→SB1, SK121・122
87	E10a7	N-54°-W	[長方形]	[3.40] × [3.00]	—	—	—	4	—	1	竈	—	—	—	9世紀後葉	
88	E10e1	N-47°-W	長方形	3.55 × 3.10	10	平坦	—	4	1	2	竈	—	不明	灰釉陶器, 鉄器	9世紀中葉	本跡→SK157
89	E11e3	N-42°-W	方形または長方形	[3.20] × (1.85)	20	平坦	—	—	—	—	竈	—	人為	土師器, 須恵器	9世紀後葉	本跡→SK197・198
90	E 8 c7	N-45°-W	[長方形]	(3.50) × 3.00	30~45	平坦	一部	—	—	—	竈	—	自然	土師器, 須恵器	9世紀中葉	焼失家屋, 本跡→SD25
91	E 7 a7	N-44°-W	方形	4.78 × 4.76	25~36	平坦	—	4	1	—	炉2	1	人為	土師器	5世紀後半	焼失家屋
92	D 8 f1	N-26°-W	方形	7.00 × 6.92	40~48	平坦	全周	4	—	1	炉	1	自然	土師器	5世紀中葉	焼失家屋, 本跡→SK436, SD25
93	E 7 i0	N-36°-W	方形	4.92 × 4.82	34~48	平坦	全周	4	1	1	炉3	—	自然	土師器	5世紀後葉	焼失家屋
94	E 7 e0	N-67°-W	隅丸方形	4.62 × 4.57	5	平坦	—	—	—	1	—	—	不明	土師器	古墳時代	方形竪穴遺構
95	E 7 g0	N-54°-W	長方形	3.15 × 2.75	4	平坦	—	—	—	—	—	—	不明	—	5世紀後葉	方形竪穴遺構
96	F 8 a6	N-43°-W	長方形	3.40 × 3.05	10~20	平坦	全周	—	1	—	竈	—	自然	土師器, 須恵器	9世紀中葉	
97	E 8 e7	N-45°-W	方形	3.70 × 3.40	35~45	平坦	一部	1	1	—	竈	—	人為	灰釉陶器	9世紀中葉	
98	E 9 a1	N-23°-E	方形	3.55 × 3.40	40~48	平坦	—	—	1	2	竈	—	人為	土師器, 須恵器	9世紀後葉	棚状施設あり
99	F 8 a7	N-52°-W	長方形	6.10 × 5.70	—	平坦	—	4	1	—	竈	1	—	土師器	6世紀中葉	

表3 掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数 (桁×梁)	規模(桁×梁) (m)	構造	桁行柱間 寸法(m)	梁行柱間 寸法(m)	面積 (㎡)	柱 穴			備 考
									平面形	長径×短径(cm)	深さ(cm)	
1	E10d9	N-44°-E	3 × 1	7.20 × 4.40	側柱	2.20~2.66	4.4	31.7	円形, 楕円形	50~68 × 46~50	20~60	中世
2	I 3 e6	N-81°-E	3 × 2	5.00 × 3.55	側柱	1.40~1.80	1.75~1.80	17.9	円形, 楕円形	65~107 × 60~83	18~50	奈良・平安時代
3	I 3 d9	N-73°-W	7 × 4	14.70 × 8.10	総柱	2.00~2.10	2.00~2.10	119.0	円形, 楕円形	40~110 × 36~72	24~48	中世, 柱穴に根石
4	I 3 c9	N-73°-W	5 × 2	12.00 × 4.40	側柱	2.50~2.80	2.00~2.45	52.8	円形, 楕円形	38~76 × 38~56	42~54	中世
5	I 4 d1	N-24°-E	4 × 2	8.90 × 4.20	側柱	1.70~2.60	2.00・2.20	37.4	円形, 楕円形	34~70 × 30~50	35~55	中世, 柱穴に根石

番号	位置	桁行方向	柱間数 (桁×梁)	規模(桁×梁) (m)	構造	桁行柱間 寸法(m)	梁行柱間 寸法(m)	面積 (㎡)	柱 穴			備 考
									平面形	長径×短径(cm)	深さ(cm)	
6	I 4 b1	N-56°-E	(2×1)	3.06×2.00	側柱	1.50~1.57	2.00	(6.1)	円形, 楕円形	34~50×32~40	23~58	中世, 柱穴に根石
7	I 4 b3	N-58°-W	(4×2)	8.60×3.80	側柱	2.10~2.30	1.70・2.10	(32.7)	円形	35~54	26~46	中世
8	I 4 h9	N-74°-E	3×2	5.20×4.30	側柱	1.60~1.84	2.00・2.30	22.4	円形, 楕円形	50~76×44~68	14~52	中世
9	I 4 c2	N-3°-E	2×1	4.50×3.30	側柱	2.00~2.50	3.30	(14.9)	円形, 楕円形	32~50×30~38	26~40	中世, 柱穴に根石
10	I 4 e3	N-75°-E	5×3	12.24×6.36	二面庇	2.40~2.50	3.40	77.8	円形, 楕円形	32~80×30~60	36~60	中世
11	I 4 e1	N-16°-E	6×3	8.94×6.50	二面庇	1.20~2.50	3.20・3.40	58.1	円形, 楕円形	68~74×34~40	21~59	中世
12	I 4 j5	N-37°-E	3×2	6.40×4.30	総柱	2.00~2.20	1.80~2.45	27.5	円形, 楕円形	46~57×45~52	12~50	中世
13	I 4 j7	N-27°-W	3×1	5.53×3.85	側柱	1.70~1.85	3.85	21.3	円形, 楕円形	48~60×44~48	17~50	中世
14	J 2 a6	N-74°-E	3×2	7.55×5.00	総柱	2.20~3.15	2.45~3.00	37.8	円形, 楕円形	36~66×34~53	17~50	中世
15	I 2 j9	N-10°-W	3×2	5.00×3.20	側柱	1.52~1.90	1.50~1.60	16.0	円形, 楕円形	48~70×44~63	34~57	中世
16	I 2 j9	N-8°-W	3×2	5.12×3.20	総柱	1.50~1.90	1.50~1.70	16.4	円形, 楕円形	30~52×26~40	10~38	中世
17	I 2 j9	N-9°-W	3×2	7.36×4.90	側柱	2.10~2.50	2.40~2.50	36.1	円形, 楕円形	34~50×34~40	14~48	中世

表4 梶内向山遺跡井戸跡一覧表

番号	位置	長軸方向	平面形	規模(m)	深さ (cm)	壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	時 期	備 考・重 複
				長径×短径							
1	B11g3	N-0°	円形	1.14×1.12	(100)	外傾	—	自然	—	中・近世	
2	B11j1	N-18°-E	楕円形	2.20×1.55	164	外傾	平坦	人為	—	中・近世	
3	B10j0	N-39°-W	楕円形	1.20×1.00	(120)	外傾	—	自然	—	中・近世	
4	C10b7	N-5°-W	円形	0.94×0.86	(65)	外傾	—	自然	—	中・近世	
5	D11a6	N-0°	円形	1.24×1.20	110	外傾	平坦	自然	石製品	中・近世	
6	E11d3	N-90°	円形	1.10×1.04	(80)	外傾	—	—	—	中・近世	
7	E10e7	N-38°-W	円形	1.45×1.43	(180)	外傾	—	—	陶器, 木製品	14世紀中葉	
8	E10e6	N-78°-W	楕円形	2.80×1.70	(230)	外傾	—	自然	土師質土器	14世紀中葉	
9	E10h2	N-30°-W	楕円形	2.12×1.76	(200)	外傾	—	人為	陶器	14世紀中葉	
10	D10g9	N-50°-W	楕円形	1.72×1.48	(150)	外傾	—	自然	—	中・近世	
11	K 6 f3	N-21°-E	楕円形	1.65×1.15	(130)	外傾・緩斜	—	人為	—	中・近世	SD 2→本跡
12	J 4 g9	N-31°-W	楕円形	1.20×1.05	119	垂直	平坦	自然	土師質土器, 陶器	13世紀前半	
13	I 3 f2	N-53°-E	楕円形	1.38×1.10	140	外傾	皿状	自然	土師器, 須恵器	9世紀前葉	
14	I 3 f0	N-0°	円形	1.30×1.27	135	垂直	平坦	自然	土師器, 須恵器	8~9世紀	SK260→本跡→SB11
15	I 4 c5	N-5°-W	不整楕円形	1.60×1.35	153	外傾	平坦	人為	—	中・近世	SE16→本跡
16	I 4 c5	N-36°-W	円形	1.30×1.30	155	外傾	平坦	人為	石製品	中・近世	本跡→SE15
17	I 3 d4	N-0°	円形	3.30×3.00	(230)	緩斜	—	自然	陶器	15世紀	
18	J 5 a2	N-13°-E	円形	1.26×1.24	138	外傾	平坦	自然	磁器	中世	
19	J 2 a3	N-80°-E	楕円形	2.43×2.05	(170)	外傾	—	自然	土師質土器, 磁器	14世紀前葉	SI61→本跡

表5 土坑一覧表

土坑 番号	位置	長軸方向	平面形	規模(m)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考・重複関係
				長径×短径						
1	L 6 g5	N-46°-W	不定形	[1.70]×0.80	28	緩斜	平坦	自然	土師器	本跡→SD 1
2	L 6 g5	N-16°-W	不定形	[1.66]×0.76	28	緩斜	平坦	自然	—	本跡→SD 1
3	L 6 g4	N-71°-W	不定形	1.52×0.70	18	緩斜	平坦	自然	—	本跡→SD 1
4	L 6 g4	N-68°-W	不定形	[2.34]×0.77	23	緩斜	平坦	自然	—	
5	M 6 b1	N-55°-W	[楕円形]	2.20×(0.50)	52	緩斜	平坦	不明	—	

土坑 番号	位置	長軸方向	平面形	規模 (m)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考・重複関係
				長径×短径						
6	K 4 i 0	N-55°-W	長方形	2.16 × 1.14	12	緩斜	平坦	自然	—	
7	K 4 i 0	N-46°-W	楕円形	1.92 × 1.04	16	緩斜	平坦	自然	—	
8	K 5 j 2	N-31°-W	不整長方形	1.00 × 0.61	17	緩斜	平坦	自然	—	
9	L 5 a 3	N-45°-W	長方形	2.60 × 0.87	41	直立	平坦	人為	土師質土器	土壙墓, SI21・SD 4 →本跡→SK90
10	K 5 j 4	N-52°-E	[不整楕円形]	0.84 × 0.53	11	外傾	皿状	人為	石塔	土壙墓, SI21→本跡→SK40
11	K 5 j 4	N-51°-E	不整楕円形	1.30 × 0.95	28	外傾	皿状	人為	古銭	土壙墓, SI21→本跡
12	L 5 a 4	N-76°-W	不整楕円形	2.55 × 0.62	14	外傾	平坦	不明	土師器	SI21, SK79・204→本跡
13	K 5 g 5	N-50°-W	楕円形	1.14 × 1.00	40	緩斜	平坦	自然	—	
14	K 5 g 5	N-33°-E	楕円形	1.50 × 1.10	40	緩斜	平坦	人為	—	
15	K 5 h 6	N-43°-E	不整楕円形	2.10 × 1.67	48	外傾	皿状	人為	人骨片	土壙墓
16	K 5 f 5	N-30°-W	楕円形	1.40 × 0.90	19	外傾	平坦	人為	—	土壙墓, SI 2・SK83→本跡
17	L 5 b 4	N-5°-W	楕円形	2.10 × 1.05	38	外傾	皿状	人為	土師質土器, 古銭	土壙墓, SI10→本跡
18	L 5 b 5	N-53°-E	楕円形	1.08 × 0.80	31	外傾	平坦	不明	—	SD 4 →本跡
19	L 5 b 5	N-68°-W	楕円形	1.07 × 0.74	21	外傾	皿状	人為	数珠玉, 人骨	土壙墓, SI14→本跡
20A	L 5 b 5	N-20°-W	楕円形	1.55 × 1.20	27	外傾	皿状	人為	陶器, 古銭	土壙墓, SI14・SK20B・SD 4 →本跡→SK55
20B	L 5 b 5	N-67°-W	楕円形	(0.98) × 0.92	11	外傾	皿状	人為	人骨片	土壙墓, SI14・SK78→本跡→SK20A
21	L 5 b 6	N-38°-E	不整楕円形	1.10 × 0.80	25	外傾	皿状	人為	古銭, 人骨片	土壙墓, SK58・82・95→本跡
22	L 5 c 5	N-58°-W	隅丸長方形	2.12 × 0.86	40	外傾	平坦	人為	土師質土器, 古銭	土壙墓, SD 4 →本跡
23	L 5 c 6	N-35°-E	隅丸長方形	1.30 × 0.92	53	外傾	皿状	人為	土師質土器, 古銭	土壙墓
24	L 5 c 6	N-30°-E	隅丸長方形	1.47 × 1.40	64	直立	皿状	人為	陶器, 人骨片	土壙墓, SD 4 →本跡
25	L 5 d 6	N-56°-W	楕円形	1.65 × 0.80	30	外傾	皿状	人為	磁器, 石塔	土壙墓, SD 4 →本跡
26	L 5 b 6	N-38°-E	不整楕円形	1.40 × 1.12	56	外傾	平坦	人為	土師質土器, 古銭	土壙墓, SI13, SK58・95, SD 4 →本跡
27	K 5 j 5	N-41°-E	隅丸長方形	1.12 × 0.83	47	外傾	凹凸	人為	人骨片・歯	土壙墓
28	K 5 h 4	N-18°-W	楕円形	1.17 × 0.90	33	直立	平坦	人為	土師質土器, 石塔	土壙墓, SI 1 →本跡
29	K 5 g 4	N-59°-W	楕円形	1.25 × 0.92	43	外傾	平坦	人為	陶器, 石塔	土壙墓, SI 1 →本跡
30	K 5 g 7	N-90°-W	楕円形	1.00 × 0.60	10	緩斜	皿状	人為	人骨片	土壙墓
31	L 5 a 5	N-32°-E	長方形	1.05 × 0.80	30	直立	平坦	人為	—	土壙墓, SI14→本跡
32	K 5 j 5	N-40°-W	長方形	1.54 × 1.05	37	外傾	平坦	自然	土師質土器	
33	L 5 a 7	N-23°-E	円形	0.95 × 0.92	25	外傾	皿状	自然	—	
34	L 5 a 8	N-38°-W	長方形	2.81 × 1.00	55	直立	平坦	人為	—	土壙墓, SK76→本跡
35	L 5 a 6	N-25°-E	楕円形	1.33 × 0.81	20	外傾	平坦	人為	—	SI12→本跡→SK50
36	K 5 j 3	N-42°-E	[楕円形]	[0.87] × 0.70	32	直立	皿状	人為	古銭, 人骨片	土壙墓, SI21, SK57・203→本跡
37A	L 5 a 2	N-47°-E	楕円形	1.25 × 0.87	36	直立	皿状	人為	人骨片・歯	土壙墓, SK37B・SD 4 →本跡
37B	L 5 a 2	—	—	0.90 × (0.35)	10	外傾	平坦	人為	人骨片	土壙墓, SD 4 →本跡→SK37A
38A	L 5 b 7	N-51°-W	—	1.46 × 0.96	42	外傾	皿状	人為	土師質土器, 古銭	土壙墓, SI13・SK38B→本跡
38B	L 5 b 7	—	—	0.70 × (0.26)	8	外傾	皿状	人為	土師質土器, 古銭	土壙墓, SI13→本跡→SK38A
39	K 5 i 5	N-48°-W	長方形	1.56 × 0.92	15	外傾	平坦	人為	人骨片	土壙墓
40	K 5 j 4	N-40°-E	不整円形	0.88 × 0.83	41	外傾	皿状	人為	土師質土器, 人骨片	土壙墓, SI21・SK10→本跡
41	L 5 c 7	N-43°-E	円形	1.10 × 1.00	30	直立	皿状	人為	—	土壙墓, SI13・SD 4 →本跡
42	K 5 j 4	N-5°-W	楕円形	0.68 × 0.50	18	外傾	皿状	自然	—	
43	K 5 i 4	N-56°-W	楕円形	1.24 × 0.86	34	直立	平坦	人為	—	土壙墓
44	L 5 b 7	N-52°-E	楕円形	1.42 × 0.75	35	外傾	皿状	人為	古銭, 人骨片	土壙墓, SI13・SK47→本跡
45A	L 5 e 7	N-46°-E	長方形	0.92 × 0.82	21	緩斜	平坦	不明	土師質土器, 磁器	本跡→SK45B
45B	L 5 e 7	N-42°-W	長方形	1.04 × 0.72	34	外傾	平坦	自然	—	SK45A・45C→本跡
45C	L 5 f 7	N-42°-E	楕円形	0.94 × 0.78	18	緩斜	平坦	自然	—	本跡→SK45B
46	L 5 e 8	N-34°-E	不整楕円形	1.98 × 1.32	86	緩斜	皿状	自・人	土師器	

土坑 番号	位置	長軸方向	平面形	規模 (m)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考・重複関係
				長径×短径						
47	L 5 b7	N-79°-E	楕円形	1.24 × 0.87	25	外傾	皿状	人為	土師質土器, 古銭	土壙墓, SI13→本跡→SK44
48	L 5 e8	N-38°-E	長楕円形	2.96 × 1.06	100	外傾	平坦	不明	土師器	
49A	L 5 b3	N-22°-W	隅丸長方形	1.19 × 0.86	59	外傾	皿状	不明	土師器	SI10・21, SK211→本跡, SK49B 新旧不明
49B	L 5 b3	N-22°-W	不定形	0.80 × 0.57	30	緩斜	平坦	自然	—	SI10・21, SK211→本跡, SK49A 新旧不明
50	L 5 a6	N-66°-W	不定形	1.85 × 0.97	25	緩斜	平坦	自然	—	SK35→本跡
51	L 5 b4	N-25°-E	楕円形	1.04 × 0.85	33	外傾	皿状	人為	土師質土器, 人骨片	土壙墓, SI10・21→本跡
52	L 5 b4	N-25°-E	楕円形	1.20 × 1.00	23	外傾	平坦	人為	土師質土器, 古銭	土壙墓, SI10→本跡
53	L 5 d9	N-44°-E	楕円形	0.98 × 0.75	15	緩斜	平坦	自然	土師器	
54	L 5 d0	N-52°-E	円形	0.80 × 0.75	45	外傾	皿状	自然	土師器	
55	L 5 b5	N-62°-E	楕円形	1.38 × 0.83	40	外傾	皿状	人為	石塔, 古銭, 人骨片	土壙墓, SI14・SK20A・SD4→本跡
56	L 5 b8	N-42°-W	楕円形	1.26 × 0.64	30	外傾	平坦	自然	—	SD4→本跡
57	K 5 j3	N-37°-W	楕円形	0.53 × 0.46	6	緩斜	平坦	不明	土師質土器	本跡→SK36
58	L 5 c6	N-44°-W	楕円形	1.00 × 0.70	35	外傾	皿状	人為	土師質土器, 古銭	土壙墓, SK95→本跡→SK21・26
59	K 5 i4	N-4°-W	不整楕円形	1.25 × 1.00	50	直立	平坦	人為	陶器, 古銭	土壙墓, SI1→本跡
60	K 5 j6	N-41°-W	楕円形	0.90 × 0.62	31	外傾	平坦	自然	土師器	SI12→本跡
61	K 5 j6	N-35°-E	楕円形	0.67 × 0.46	14	外傾	皿状	不明	—	SI12→本跡
62	K 5 i3	N-3°-W	[楕円形]	(1.10) × 0.86	35	直立	皿状	人為	古銭, 人骨片	土壙墓, 本跡→SK93
63	L 5 b5	N-48°-W	不整形	1.27 × 1.15	39	緩斜	皿状	自然	—	SI14→本跡, SK67 新旧不明
64	K 5 j2	N-49°-W	[長方形]	(1.37) × 0.71	10	緩斜	平坦	自然	—	本跡→SK65・72
65	K 5 j2	N-39°-E	[隅丸方形]	0.80 × (0.75)	26	外傾	皿状	人為	人骨片	土壙墓, SI21・SK64→本跡→SK70
66	L 5 a5	N-7°-E	楕円形	1.43 × 0.89	—	外傾	平坦	—	土師質土器	SI14・21→本跡
67	L 5 b6	N-42°-E	楕円形	0.94 × 0.54	50	外傾	皿状	人為	土師器	SI13・14→本跡, SK63 新旧不明
68	L 5 a6	N-50°-E	長方形	2.30 × 0.85	30	外傾	平坦	自然	土師器	SI13→本跡
69	K 5 j6	N-34°-W	不整楕円形	1.35 × 0.93	27	外傾	平坦	自然	—	SI12→本跡
70	L 5 a3	N-49°-W	長方形	3.75 × 0.88	46	外傾	平坦	人為	磁器, 土師器	SI21・SK65・SD4→本跡
71	K 5 j3	N-57°-E	楕円形	1.18 × 0.87	20	緩斜	平坦	—	—	SI21→本跡
72	K 5 j2	N-43°-E	隅丸長方形	0.92 × 0.60	40	直立	皿状	人為	人骨片	土壙墓, SK64→本跡
73	L 5 a5	N-53°-E	不整楕円形	0.86 × 0.72	45	直立	平坦	人為	人骨片	土壙墓, SI10・14→本跡
74	K 5 i3	N-0°	円形	0.90 × 0.80	20	緩斜	皿状	不明	—	SI1→本跡
75	L 6 i1	N-73°-E	長方形	1.10 × 0.67	7	緩斜	平坦	不明	—	
76	L 5 a8	N-48°-E	[長方形]	(0.70) × 0.60	26	外傾	皿状	人為	古銭	土壙墓, 本跡→SK34
77	K 5 i8	N-56°-E	隅丸長方形	1.02 × 0.83	48	緩斜	皿状	自然	土師器	SI5・6→本跡
78	L 5 b5	N-40°-E	[楕円形]	[1.20] × 1.00	5	緩斜	平坦	不明	—	SI14・SD4→本跡, SK20 新旧不明
79	L 5 a4	N-46°-E	不整楕円形	1.00 × 0.70	20	外傾	皿状	人為	古銭, 人骨片	土壙墓, SI21→本跡→SK12
80	K 5 j4	N-52°-W	楕円形	0.98 × 0.68	20	外傾	皿状	人為	人骨片	土壙墓, SI21→本跡
81	M 6 b1	N-72°-E	不整楕円形	4.00 × 1.60	—	—	—	—	—	SD1→本跡
82	L 5 b6	—	[円形]	0.90 × (0.90)	25	直立	平坦	人為	人骨片	土壙墓, SI14・SD4→本跡→SK21・95
83	K 5 f5	N-45°-E	[長方形]	[8.00] × 0.50	30	直立	平坦	人為	—	SI2・3・20→本跡→SK16・84
84	K 5 g4	N-45°-E	[長方形]	[2.48] × 0.84	36	外傾	平坦	—	—	SI1・20, SK83→本跡→SK85
85	K 5 h3	N-42°-E	[長方形]	[4.43] × 0.64	18	直立	平坦	—	—	SI1, SK84→本跡→SK89
86	L 5 c5	N-68°-E	楕円形	0.65 × 0.50	24	外傾	皿状	—	人骨片	土壙墓
87	L 5 a5	N-56°-W	[楕円形]	[0.90] × [0.80]	7	緩斜	皿状	—	土師質土器, 古銭	土壙墓, SI14→本跡
88	L 5 c6	N-52°-W	[楕円形]	[1.03] × [0.86]	15	外傾	皿状	人為	土師質土器	土壙墓
89	K 5 h3	N-45°-E	[長方形]	[1.60] × 0.62	—	直立	平坦	—	—	SI1, SK85→本跡→SK93
90	L 5 a3	N-3°-E	[楕円形]	[1.10] × [0.70]	—	—	皿状	—	人骨片・歯	土壙墓, SI21・SK9→本跡
91	L 5 d6	N-22°-W	楕円形	0.34 × 0.25	33	外傾	平坦	人為	—	

土坑 番号	位置	長軸方向	平面形	規模 (m)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考・重複関係
				長径×短径						
92	L 5 d 6	N-50°-E	楕円形	0.71 × 0.51	61	外傾	平坦	人為	—	
93	K 5 i 3	N-42°-E	[長方形]	[2.20] × 0.60	64	直立	平坦	—	—	SI 1, SK89→本跡→SK62
94	K 5 j 3	[N-30°-E]	[楕円形]	[1.10] × [0.70]	—	—	平坦	—	人骨片・歯	土壙墓, SI21→本跡
95	L 5 b 6	N-41°-W	不整形円形	0.90 × 0.85	40	外傾	皿状	—	土師質土器, 古銭	土壙墓, SI13・SK82・SD4→本跡→SK21・26・58
97	K 6 c 2	N-31°-E	不整形円形	3.36 × 0.90	15	外傾	皿状	自然	—	本跡→SD 2
98	L 6 f 5	N-50°-W	不整形楕円形	0.38 × 0.35	14	緩斜	皿状	不明	—	
99	L 6 f 4	N-31°-W	隅丸長方形	0.44 × 0.34	22	外傾	皿状	不明	—	
100	E 11 c 8	N-20°-E	楕円形	0.86 × 0.73	10	外傾	平坦	不明	—	SI80→本跡
101	E 11 c 8	N-68°-E	円形	0.91 × 0.81	10	緩斜	平坦	不明	—	SI80→本跡
102	D 11 b 3	N-32°-E	長方形	2.54 × [0.68]	17	緩斜	平坦	不明	—	
103	E 11 b 9	N-72°-E	方形	2.05 × 1.00	10	外傾	平坦	自然	—	
104	E 11 d 6	N-24°-W	楕円形	1.19 × 1.14	33	緩斜	皿状	自然	—	
105	E 11 c 6	N-90°	円形	1.16 × 1.05	25	緩斜	平坦	自然	—	
106	E 11 d 6	N-22°-E	長方形	2.00 × 0.92	15	外傾	平坦	不明	—	
107	D 11 j 6	N-0°	楕円形	1.20 × 1.04	25	外傾	皿状	自然	—	
108	D 11 g 6	N-65°-E	円形	1.26 × [1.20]	20	緩斜	平坦	自然	古銭	土壙墓
110	B 10 i 0	N-35°-E	楕円形	2.80 × 1.01	25	外傾	平坦	自然	—	
111	B 10 i 0	N-23°-W	円形	1.28 × 1.20	69	外傾	平坦	自然	—	
112	C 11 i 6	N-84°-E	[円形]	0.79 × [0.70]	21	緩斜	凹凸	不明	—	SD13新旧不明
113	C 9 e 9	N-30°-E	長方形	3.47 × 0.65	26	緩斜	平坦	自然	—	
114	C 9 f 9	N-26°-E	長方形	1.50 × 0.94	24	緩斜	平坦	自然	—	
115	D 10 j 0	N-30°-W	隅丸長方形	1.20 × 1.16	6	緩斜	平坦	不明	—	
116	E 11 d 4	N-40°-W	不整形楕円形	0.86 × 0.79	10	緩斜	平坦	不明	—	
117	E 11 e 4	N-1°-E	不整形楕円形	1.11 × 1.00	14	緩斜	平坦	自然	—	
119	D 10 i 4	N-0°	楕円形	1.09 × 0.83	22	緩斜	皿状	自然	—	
121	E 10 b 9	N-52°-W	楕円形	0.66 × 0.46	14	緩斜	皿状	不明	土師器, 須恵器	SI86→本跡
122	E 10 b 0	N-45°-W	方形	0.56 × 0.56	20	緩斜	皿状	自然	土師器	SI86→本跡
125	E 11 b 4	N-18°-E	円形	0.85 × 0.78	22	外傾	平坦	不明	須恵器	
126	E 11 c 3	N-90°	円形	1.17 × 1.11	19	緩斜	平坦	不明	土師器	
127	D 11 j 2	N-55°-W	楕円形	1.84 × 1.65	24	外傾	平坦	人為	土師器	
128	E 11 e 1	N-45°-W	長方形	1.00 × 0.87	13	緩斜	平坦	不明	—	
129	E 10 f 8	N-22°-E	楕円形	1.60 × 1.19	23	緩斜	平坦	自然	—	
130	E 10 e 7	N-53°-E	楕円形	1.08 × 0.91	6	緩斜	平坦	不明	—	SK182→本跡
131	E 10 c 7	N-21°-W	不整形円形	1.00 × 0.93	50	緩斜	皿状	人為	—	柱穴カ
132	E 10 d 7	N-74°-W	不整形楕円形	1.83 × 1.48	124	緩斜	平坦	不明	—	本跡→SK186
134	E 10 a 0	N-48°-E	楕円形	1.07 × 0.73	11	外傾	平坦	不明	—	SK185→本跡
135	E 10 b 0	N-46°-W	楕円形	0.68 × 0.58	45	外傾	皿状	人為	—	柱穴カ
136	D 10 i 6	N-43°-E	隅丸長方形	2.15 × 0.72	31	外傾	平坦	人為	—	SK187→本跡
137	D 10 j 5	N-9°-W	円形	1.14 × 1.10	15	外傾	平坦	人為	—	
138	D 10 i 6	N-30°-E	長楕円形	2.31 × 0.89	9	外傾	平坦	不明	—	
139	D 10 i 7	N-50°-W	円形	0.89 × 0.84	11	外傾	平坦	人為	陶器	
140	E 10 b 8	N-53°-E	不整形楕円形	1.94 × 1.46	40	緩斜	平坦	人為	—	本跡→SK197
141	D 10 j 6	N-16°-E	楕円形	1.01 × 0.89	8	緩斜	平坦	不明	—	SI89・SK196→本跡
142	D 10 j 6	N-47°-E	[隅丸長方形]	(1.49) × 1.21	11	外傾	平坦	人為	—	SK154→本跡
143	E 10 a 5	N-38°-E	長楕円形	2.36 × 0.91	28	外傾	平坦	人為	土師器	本跡→SK162
144	E 10 a 6	N-55°-W	隅丸長方形	2.55 × 1.43	33	外傾	平坦	人為	須恵器	SI21→本跡→SK36

土坑 番号	位置	長軸方向	平面形	規模 (m)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考・重複関係
				長径×短径						
146	D10 j3	N-45°-E	楕円形	2.61 × 1.56	5	外傾	平坦	不明	—	土壙墓, SI10・21→本跡→SK12
147	E10a2	N-42°-E	楕円形	2.75 × 1.50	10	外傾	平坦	不明	土師器	SI21→本跡
148	E11b5	N-41°-E	不定形	1.50 × 0.65	15	外傾	平坦	自然	—	
150	E10d6	N-40°-E	長方形	1.89 × 1.63	40	緩斜	平坦	人為	土師器, 石器	SD2→本跡
151	E11b1	N-84°-W	楕円形	1.85 × 1.33	77	緩斜	平坦	自然	—	SI10→本跡→SK49A・49B
152	D11 j1	N-51°-W	長方形	0.82 × 0.69	35	外傾	平坦	自然	—	SI10→本跡
154	D10 j6	N-84°-W	円形	1.14 × 1.08	24	外傾	平坦	自然	—	本跡→SK142
156	E10c3	N-35°-W	楕円形	1.05 × 0.83	18	緩斜	平坦	不明	—	柱穴カ
157	E10e1	N-90°	円形	1.44 × 1.32	25	外傾	平坦	人為	—	SI88→本跡
158	E10c5	N-26°-W	円形	0.62 × 0.56	70	外傾	皿状	人為	—	柱穴カ
159	E10b5	N-58°-W	円形	0.67 × 0.55	69	外傾	皿状	人為	—	柱穴カ
160	E10e3	N-0°	円形	0.88 × 0.88	15	緩斜	平坦	人為	土師器	SD3→本跡
161	E10d4	N-12°-W	長楕円形	1.21 × 0.54	36	外傾	平坦	人為	—	
162	D10 j5	N-70°-E	円形	1.02 × [1.00]	11	外傾	平坦	不明	土師器	SK143→本跡
163	E10b4	N-0°	円形	0.90 × 0.90	19	外傾	平坦	人為	—	
164	E10b4	N-40°-W	円形	0.96 × 0.91	21	外傾	平坦	人為	—	柱穴カ
165	E10a5	N-0°	円形	0.96 × 0.90	14	外傾	平坦	人為	—	
166	E10h1	N-2°-W	楕円形	1.20 × 1.04	31	緩斜	平坦	人為	—	
167	E10c2	N-53°-W	隅丸長方形	[2.53] × 1.20	18	緩斜	平坦	人為	土師器, 瓦質土器	SD33→本跡
168	E10b3	N-41°-E	長方形	2.03 × 0.99	28	緩斜	平坦	自然	—	本跡→SD33
169	E10b3	N-9°-E	楕円形	1.21 × [1.09]	17	緩斜	平坦	人為	—	SD33→本跡
171	E10a4	N-30°-E	円形	1.0 × 0.92	24	外傾	皿状	人為	—	
172	E10a4	N-25°-E	円形	1.08 × 1.02	20	外傾	皿状	自然	—	柱穴カ
173	E10a4	N-40°-W	円形	0.98 × 0.90	18	外傾	皿状	人為	—	SK174→本跡
174	E10a5	N-46°-E	楕円形	[1.38] × 0.90	8	緩斜	皿状	不明	—	
175	E10a4	N-28°-E	不定形	1.92 × 1.30	56	緩斜	皿状	人為	—	
176	E10g3	N-74°-E	楕円形	2.28 × 1.80	20	緩斜	皿状	人為	—	
177	E10g4	N-74°-W	楕円形	1.80 × 1.60	20	緩斜	皿状	人為	—	
178	E9 h9	N-50°-W	円形	1.05 × 1.00	30	緩斜	皿状	自然	土師器	SK179→本跡
179	E9 h9	N-49°-E	長方形	2.16 × 1.14	20	緩斜	皿状	不明	—	本跡→SK178
180	E9 h9	N-11°-W	楕円形	1.23 × 1.08	21	緩斜	平坦	人為	—	
181	E9 i9	N-40°-E	楕円形	1.20 × 1.06	25	緩斜	平坦	人為	—	
182	D10 j5	N-81°-E	円形	1.24 × 1.10	24	外傾	平坦	人為	須恵器	本跡→SK183
183	D10 j5	N-50°-E	隅丸長方形	1.78 × 1.00	27	緩斜	平坦	人為	土師質土器	SK182→本跡
184	E9 g0	N-50°-E	円形	1.00 × 0.90	24	緩斜	平坦	人為	磁器	
185	E9 g0	N-48°-W	楕円形	1.42 × 1.10	23	緩斜	皿状	人為	—	本跡→SK186
186	E9 g0	N-50°-E	楕円形	1.35 × 0.95	12	緩斜	平坦	不明	—	SK185→本跡
187	E10g1	N-18°-W	楕円形	1.03 × 0.93	15	緩斜	平坦	不明	—	本跡→SK188
188	E10g1	N-12°-E	楕円形	0.90 × 0.74	7	緩斜	平坦	不明	—	SK187→本跡
189	E9 f0	N-42°-E	楕円形	1.53 × 0.91	27	外傾	平坦	人為	土師質土器	
190	E9 j5	N-0°	円形	1.03 × 0.95	24	外傾	平坦	自然	—	
191	E9 f9	N-20°-E	隅丸長方形	2.00 × 1.15	24	緩斜	平坦	自然	不明鉄製品	
196	E11e2	N-0°	楕円形	1.85 × [0.98]	26	緩斜	平坦	人為	須恵器	本跡→SK197
197	E11e3	N-58°-E	楕円形	2.29 × 0.94	25	緩斜	平坦	人為	土師器, 須恵器	SI89・SK196→本跡
198	E11e3	不明	不明	(0.85) × (0.61)	47	外傾	平坦	自然	—	SI89→本跡
200	L6 h2	N-62°-E	長方形	1.64 × 0.80	26	外傾	凹凸	人為	土師質土器	

土坑 番号	位置	長軸方向	平面形	規模 (m)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考・重複関係
				長径×短径						
203	K 5 j 3	N-42°-E	[楕円形]	[1.40] × 0.97	25	緩斜	皿状	人為	—	SI21→本跡→SK36
204	L 5 a 4	N-49°-E	楕円形	1.25 × 0.80	33	緩斜	皿状	人為	人骨片・歯	土壙墓, SI10・21→本跡→SK12
205	K 5 j 3	N-17°-E	不整形	0.41 × 0.34	25	外傾	平坦	自然	—	SI21→本跡
206	L 6 e 6	N-0°	円形	0.37 × 0.35	12	緩斜	皿状	不明	土師質土器, 磁器	
208	L 5 h 8	N-77°-E	不定形	2.18 × 1.90	42	緩斜	平坦	自然	土師器, 鉄滓	SD 2→本跡
211	L 5 b 3	[N-25°-W]	不定形	0.76 × [0.45]	20	緩斜	皿状	人為	—	SI10→本跡→SK49A・49B
212	L 5 a 4	N-67°-E	楕円形	0.90 × 0.70	28	外傾	平坦	人為	—	SI10→本跡
213	L 6 g 1	N-53°-W	楕円形	0.53 × 0.45	27	緩斜	凹凸	不明	—	
214	L 6 g 1	N-55°-E	楕円形	0.81 × 0.64	48	直立	平坦	不明	炭化材	柱穴カ
215	K 5 b 9	N-30°-W	楕円形	1.08 × 0.96	20	外傾	平坦	人為	—	
216	L 5 d 0	N-33°-W	長楕円形	1.36 × 0.75	57	外傾	平坦	人為	—	
220	J 4 f 8	N-27°-W	楕円形	0.58 × 0.46	28	外傾	平坦	自然	—	
221	J 4 g 9	N-0°	円形	0.34 × 0.33	34	外傾	平坦	人為	—	SD 3→本跡
223	K 6 d 1	N-62°-W	楕円形	1.40 × 1.29	25	緩斜	皿状	自然	—	
224	I 1 h 0	N-7°-W	長楕円形	3.04 × 2.08	15	緩斜	平坦	自然	—	
226	I 3 f 3	N-22°-W	楕円形	0.82 × 0.72	28	緩斜	皿状	人為	—	
227	I 3 g 3	N-41°-W	円形	1.06 × 0.95	40	緩斜	凹凸	人為	土師器, 須恵器	柱穴カ
228	I 3 e 4	N-22°-E	不整形楕円形	0.85 × 0.81	33	緩斜	凹凸	人為	土師器, 須恵器	
229	I 3 f 4	N-0°	円形	1.10 × 1.05	46	直立	平坦	人為	土師器, 須恵器	
231	I 3 g 1	N-32°-E	楕円形	0.68 × 0.58	45	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
232	I 3 e 6	N-52°-W	楕円形	0.54 × 0.47	20	緩斜	皿状	人為	土師器, 須恵器, 陶器	
233	I 3 e 6	N-11°-W	楕円形	0.88 × 0.75	33	緩斜	皿状	人為	土師器, 須恵器	
234	I 3 e 7	N-0°	円形	1.05 × 1.05	26	緩斜	皿状	人為	土師器, 須恵器	
235	I 3 f 3	N-82°-E	不整形楕円形	1.07 × 0.84	60	外傾	皿状	人為	土師器, 須恵器	柱穴カ
236	I 3 f 9	N-24°-E	楕円形	0.90 × 0.77	27~50	外傾	凹凸	自然	—	
238	I 3 g 8	N-47°-W	楕円形	0.64 × 0.58	31	外傾	皿状	人為	—	柱穴カ
239	I 3 f 8	N-45°-W	楕円形	2.03 × 1.05	20	外傾	平坦	不明	—	
240	I 3 g 7	N-49°-W	円形	0.76 × 0.71	24	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	
241	I 3 g 7	N-22°-E	楕円形	0.80 × 0.68	8	緩斜	平坦	人為	—	
242	I 3 g 7	N-25°-W	楕円形	0.81 × 0.64	43	外傾	凹凸	人為	—	
243	I 3 g 0	N-57°-W	円形	0.56 × 0.56	20	緩斜	皿状	人為	土師器, 須恵器	
244	I 3 d 2	N-86°-W	楕円形	2.70 × 1.40	88	外傾	皿状	人為	—	
245	I 3 h 9	N-58°-W	長方形	1.53 × 0.80	18	緩斜	平坦	人為	土師器, 須恵器	
246	I 3 h 8	N-20°-E	円形	1.06 × 1.02	10	緩斜	平坦	人為	土師器, 須恵器	
248	I 3 e 2	N-49°-W	不整形楕円形	1.50 × 0.95	25	緩斜	平坦	人為	土師器, 須恵器	
249	I 3 e 3	N-39°-E	楕円形	0.82 × 0.65	30	緩斜	皿状	人為	—	SK250→本跡
250	I 3 e 3	N-53°-E	長方形	(1.50) × 1.00	15	緩斜	皿状	人為	—	本跡→SK249・252, SK251新旧不明
251	I 3 e 3	N-56°-E	楕円形	2.20 × 1.56	27	緩斜	平坦	人為	—	本跡→SK252, SK250新旧不明
252	I 3 e 3	N-66°-W	楕円形	0.90 × 0.73	56	外傾	皿状	人為	—	SK250・251→本跡
253	I 3 h 9	N-48°-W	楕円形	1.50 × 0.90	17	緩斜	平坦	人為	—	
254	I 4 f 0	N-0°	円形	1.23 × 1.21	30	緩斜	平坦	人為	土師器, 須恵器	SB11→本跡
255	I 3 g 3	N-67°-E	楕円形	1.70 × 0.98	35	緩斜	凹凸	人為	土師器, 須恵器	
256	I 3 f 0	N-53°-E	円形	0.70 × 0.64	50	外傾	皿状	人為	土師器	
257	I 3 e 9	N-36°-E	楕円形	0.85 × 0.70	45	外傾	皿状	人為	土師器	
258	I 3 e 2	N-55°-E	円形	0.90 × 0.87	58	外傾	皿状	人為	—	
260	I 3 f 0	N-37°-E	楕円形	2.66 × 2.57	17	外傾	平坦	自然	土師器, 須恵器	SI30・SK285→本跡→SK261・S E 14

土坑 番号	位置	長軸方向	平面形	規模 (m)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考・重複関係
				長径×短径						
261	I 3 f 0	N-11°-W	不定形	[1.22]×0.84	18	緩斜	平坦	人為	土師器, 須恵器	SK260→本跡
262	I 3 e 4	N-16°-E	不整円形	1.40×1.35	20	緩斜	平坦	人為	—	SI26→本跡
263	I 4 i 1	N-52°-E	[隅丸長方形]	[0.82]×[0.44]	20	緩斜	皿状	不明	須恵器	SI29→本跡
266	I 3 g 0	N-90°	不整楕円形	0.83×0.59	37	外傾	皿状	人為	土師器, 須恵器	SD 2→本跡
269	I 4 b 6	N-34°-E	円形	1.06×0.98	10	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	SI32→本跡
270	I 4 e 7	N-17°-W	楕円形	0.82×0.72	26	緩斜	平坦	自然	—	SI37→本跡
271	I 2 h 5	N-13°-E	長楕円形	2.39×0.66	46	外傾	平坦	人為	—	本跡→SI22
272	I 4 h 0	N-72°-W	楕円形	1.26×0.85	16	外傾	平坦	自然	土師器, 須恵器	SI46→本跡
273	I 5 g 6	N-37°-W	楕円形	1.37×0.98	53	緩斜	皿状	人為	不明鉄製品	
274	I 4 j 1	N-42°-W	隅丸長方形	1.15×0.82	19	外傾	平坦	自然	土師器, 須恵器	
275	J 4 a 1	N-34°-W	楕円形	1.20×1.15	15	外傾	平坦	自然	—	
276	J 4 a 2	N-38°-W	楕円形	1.17×1.41	24	緩斜	平坦	人為	—	
277	I 5 g 5	N-22°-E	[円形]	[0.83]×[0.75]	50	直立	平坦	自然	土師器	SK282→本跡
279	J 4 d 8	N-30°-W	[楕円形]	[0.57]×0.51	21	緩斜	平坦	自然	—	SI52→本跡
280	J 4 d 8	N-0°	円形	0.26×0.26	25	外傾	皿状	人為	—	SI52→本跡
281	J 4 d 8	N-25°-E	楕円形	0.29×0.24	25	外傾	皿状	人為	須恵器	SI52→本跡
282	I 5 g 5	N-70°-W	不整形	3.30×2.17	147	外傾	凹凸	自然	—	本跡→SK277
283	J 4 a 2	N-0°	円形	0.60×0.57	25	外傾	平坦	不明	—	
284	I 4 j 2	N-13°-E	円形	1.66×1.53	57	外傾	平坦	人為	土師器	
285	I 3 g 0	N-30°-E	楕円形	1.40×1.35	30	外傾	皿状	自然	—	本跡→SK260
286	J 4 a 2	N-0°	円形	0.56×0.56	38	外傾	皿状	人為	—	
287	J 4 a 3	N-0°	円形	0.66×0.64	34	外傾	皿状	人為	—	
288	I 5 j 5	N-0°	円形	0.69×0.64	15	緩斜	平坦	人為	—	
289	J 5 a 5	N-46°-W	楕円形	0.49×0.41	52	外傾	平坦	人為	—	
290	I 4 g 4	N-40°-W	楕円形	1.18×0.95	28	緩斜	平坦	自然	土師器, 須恵器	
291	J 4 a 3	N-47°-E	円形	0.61×0.58	30	外傾	平坦	人為	—	柱穴カ
292	J 4 a 4	N-9°-W	円形	0.76×0.71	32	外傾	平坦	人為	—	柱穴カ
296	I 4 g 3	N-55°-E	不整長方形	2.49×1.20	12	緩斜	平坦	不明	土師器, 須恵器	SK511→本跡
297	I 5 j 4	N-0°	楕円形	0.82×0.75	51	外傾	平坦	人為	—	
300	L 6 b 5	N-7°-W	楕円形	2.36×1.72	24	緩斜	皿状	不明	土師器	SD 2→本跡
301	K 6 f 3	N-0°	円形	0.78×0.78	38	直立	皿状	人為	土師器	柱穴カ, SD 2→本跡
302	J 5 j 0	N-90°	円形	0.71×0.67	26	外傾	平坦	人為	土師器, 須恵器	柱穴カ, SD 2→本跡
303	K 4 g 9	N-57°-E	不整楕円形	1.24×0.87	49	外傾	平坦	人為	土師器	SD 2→本跡
305	K 4 h 8	N-66°-E	楕円形	2.51×1.50	48	外傾	平坦	人為	土師器	SD 2→本跡
306	K 4 j 0	N-61°-W	円形	0.70×0.65	15	外傾	平坦	自然	—	SD 2→本跡
307	K 4 i 7	N-9°-W	楕円形	1.11×0.92	37	外傾	平坦	人為	土師器	SD 2→本跡
308	K 4 j 0	N-37°-W	楕円形	0.98×0.81	45	外傾	皿状	自然	土師器	SD 2→本跡
309	L 4 b 9	N-45°-E	楕円形	1.40×1.14	22	緩斜	皿状	人為	土師器	SD 2→本跡
310	L 4 a 0	N-50°-E	不定形	1.60×1.04	38	緩斜	皿状	人為	土師器	SD 2→本跡
311	L 4 a 0	N-35°-W	不整形	(5.50)×(2.50)	22	緩斜	平坦	人為	—	本跡→SK312・SD 2・SX 8
312	L 5 b 1	N-53°-E	隅丸長方形	1.40×1.03	29	緩斜	平坦	人為	—	SK311・SD 2→本跡
313	L 5 c 2	N-54°-E	不整形	2.20×1.43	34	緩斜	平坦	人為	—	SD 2→本跡
314	L 5 h 7	N-30°-E	楕円形	1.19×0.99	55	外傾	平坦	自然	—	SD 2→本跡
315	L 5 g 7	N-72°-E	不整形	2.50×1.42	50	緩斜	凹凸	不明	—	SD 2→本跡
316	L 5 g 9	N-42°-E	楕円形	2.03×1.61	36	緩斜	皿状	自然	縄文土器	SD 2→本跡
317	I 2 i 2	N-55°-W	楕円形	1.40×1.00	18	外傾	平坦	自然	—	

土坑 番号	位置	長軸方向	平面形	規模 (m)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考・重複関係
				長径×短径						
318	I 2 i 3	N-40°-E	楕円形	0.80 × 0.44	26	外傾	皿状	人為	土師器	
319	I 1 i 0	N-51°-W	楕円形	2.48 × 1.72	57	外傾	平坦	自然	—	
322	I 2 j 3	N-25°-W	円形	0.86 × 0.80	26	外傾	皿状	自然	土師器	
323	I 2 j 4	N-39°-E	不定形	(1.36) × 1.16	52	緩斜	凹凸	自然	—	本跡→SK325
324	I 2 i 4	N-63°-E	長楕円形	1.42 × 0.82	17	緩斜	平坦	自然	—	本跡→SK325
325	I 2 j 5	N-33°-W	楕円形	1.68 × 1.33	72	外傾	皿状	人為	土師器, 須恵器	SK323・324→本跡
326	J 2 b 6	N-38°-W	隅丸長方形	1.92 × 1.52	12	外傾	平坦	自然	土師器, 須恵器	
327	J 2 a 0	N-67°-E	楕円形	1.12 × 0.97	21	外傾	平坦	自然	土師器, 須恵器	
328	J 2 c 6	N-42°-W	楕円形	1.49 × 1.36	15	緩斜	平坦	自然	—	
329	J 3 a 3	N-55°-W	不定形	0.85 × 0.77	14	外傾	凹凸	自然	土師器, 須恵器	SI69→本跡
331	J 3 i 0	N-28°-E	楕円形	2.54 × 2.15	16	緩斜	平坦	自然	土師器, 須恵器	
332	J 4 h 5	N-0°	円形	1.00 × 1.00	40	緩斜	皿状	自然	—	SK333新旧不明
333	J 4 h 5	N-46°-E	楕円形	[1.94] × [1.10]	44	緩斜	平坦	自然	—	SK332新旧不明
334	J 4 h 5	N-7°-W	楕円形	0.72 × 0.64	35	外傾	皿状	自然	—	SI76→本跡
337	J 4 f 1	N-58°-W	[長方形]	(1.55) × 1.05	15	緩斜	平坦	不明	—	
338	J 4 g 1	N-42°-W	不整楕円形	1.36 × 1.19	47	緩斜	平坦	自然	—	
339	J 4 g 1	N-50°-W	楕円形	1.35 × 1.00	45	緩斜	皿状	自然	—	
340	J 2 a 0	N-9°-W	円形	0.65 × 0.62	15	緩斜	皿状	自然	—	SI67→本跡
341	J 2 a 0	N-21°-E	楕円形	0.70 × 0.60	18	外傾	平坦	自然	土師器	SI67→本跡
343	J 4 f 6	N-46°-W	楕円形	0.73 × 0.62	32	外傾	皿状	人為	—	
344	J 4 i 2	N-37°-E	不整楕円形	3.65 × 1.68	91	外傾	皿状	自然	土師器	
345	J 2 a 6	N-34°-E	楕円形	0.73 × 0.49	20	緩斜	皿状	自然	—	
346	J 2 a 6	N-43°-W	楕円形	0.55 × 0.46	30	外傾	皿状	人為	—	
347	I 2 j 5	N-72°-E	楕円形	0.47 × 0.39	19	緩斜	皿状	不明	土師器	
351	J 4 h 9	N-60°-E	楕円形	1.09 × 0.91	10.4	外傾	平坦	不明	土師器	SD 3 →本跡
400	E 9 h 0	N-33°-E	円形	1.11 × 1.01	22	緩斜	平坦	人為	—	
401	D10 f 9	N-40°-W	隅丸長方形	1.77 × 1.24	8	緩斜	平坦	不明	—	
402A	D10 f 8	N-31°-W	不整長方形	2.18 × 1.22	9	緩斜	平坦	不明	土師器	SK402B新旧不明
402B	D10 f 8	N-49°-E	隅丸長方形	2.36 × 1.15	10	緩斜	平坦	不明	—	SK402A新旧不明
403	D10 g 7	N-36°-E	不整楕円形	0.62 × 0.56	28	外傾	皿状	自然	—	
404	D10 g 7	N-37°-W	楕円形	1.13 × 0.88	39	外傾	平坦	自然	—	
405	D10 g 7	N-59°-W	長方形	1.30 × 0.83	26	緩斜	皿状	自然	—	
410	D10 h 6	N-16°-E	不定形	3.08 × [0.97]	14	外傾	平坦	不明	—	SD33新旧不明
412	D10 i 6	N-49°-W	不定形	[2.05] × 0.83	19	緩斜	凹凸	—	—	
413	E11 b 6	N-25°-W	楕円形	0.70 × 0.60	36	緩斜	平坦	人為	—	
414	E10 c 5	N-17°-E	楕円形	1.18 × 0.86	16	緩斜	平坦	不明	—	
416	E10 b 2	N-44°-E	楕円形	0.87 × 0.78	32	緩斜	平坦	自然	—	
417	E10 b 2	N-33°-E	楕円形	1.05 × 0.84	25	緩斜	平坦	自然	—	
418	B10 f 5	N-8°-E	不整楕円形	1.36 × 1.08	24	緩斜	平坦	自然	—	
419	B10 f 6	N-7°-W	不整円形	2.17 × 2.08	67	緩斜	平坦	—	—	
420	B10 g 6	N-17°-E	円形	0.80 × 0.78	15	緩斜	平坦	不明	—	
421	B10 h 9	N-65°-E	楕円形	0.87 × 0.79	10	外傾	平坦	不明	—	
422	B10 j 8	N-80°-W	不整楕円形	1.33 × 0.66	34	外傾	平坦	不明	—	
423	D 8 b 1	N-17°-E	楕円形	0.69 × 0.56	16	緩斜	平坦	不明	—	
424	D 7 c 0	N-5°-W	楕円形	0.95 × 0.78	20	緩斜	平坦	自然	土師器	
427	E 8 h 1	N-21°-W	不整楕円形	1.24 × 0.92	16	緩斜	皿状	人為	—	

土坑 番号	位置	長軸方向	平面形	規模 (m)	深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考・重複関係
				長径×短径						
428	E10d1	N-48°-W	円形	0.96 × 0.93	14	外傾	平坦	人為	—	
429	D8e1	N-44°-W	楕円形	2.61 × 1.60	9	緩斜	平坦	不明	土師器	
430	D8j0	N-54°-W	方形	13.4 × 13.0	27	緩斜	平坦	人為	—	本跡→SK433
432	E8c2	N-2°-E	楕円形	0.78 × 0.61	18	緩斜	皿状	自然	—	
433	D9j1	N-49°-W	長方形	13.8 × 1.01	28	緩斜	平坦	人為	—	SK430→本跡
434A	E8e0	N-41°-E	楕円形	1.35 × 0.71	13	緩斜	平坦	人為	土師器, 瓦質土器	SK434B→本跡
434B	E8e0	N-36°-E	楕円形	1.24 × 1.01	32	緩斜	平坦	人為	—	本跡→SK434A
435	F8b5	N-79°-E	不整楕円形	2.21 × 1.52	101	外傾	平坦	人為	—	
436	D8f1	N-52°-E	不定形	(1.02) × 0.74	57	外傾	平坦	人為	土師器	SI92→本跡
437	E8f1	N-32°-W	長楕円形	1.02 × 0.50	50	外傾	皿状	自然	—	第1号方形竪穴→本跡
438	E8f1	N-68°-W	不整楕円形	0.39 × 0.27	43	外傾	平坦	—	—	第1号方形竪穴→本跡
440	F9a4	N-69°-E	[楕円形]	[1.24] × (0.67)	14	外傾	平坦	自然	—	本跡→SD20
441	E8d9	N-50°-E	楕円形	0.45 × 0.40	5	緩斜	皿状	不明	土師器	
442	D8f9	N-43°-W	円形	0.80 × 0.74	10	緩斜	皿状	自然	—	
443	F8c5	N-90°	楕円形	2.00 × 1.58	45	緩斜	平坦	自然	—	
444	F8c2	N-50°-W	円形	0.90 × 0.85	29	緩斜	平坦	自然	—	
445	B9i7	N-40°-W	円形	1.15 × 1.07	35	緩斜	平坦	自然	—	
446	E9c5	N-41°-E	円形	0.92 × 0.86	16	緩斜	平坦	自然	土師器	
447	D9i4	N-58°-W	長方形	(4.75) × 0.64	65	直立	平坦	自然	—	
448	D9h5	N-54°-W	長方形	5.25 × 0.76	26	直立	平坦	自然	—	
449	D9f4	N-45°-E	長方形	7.27 × 0.76	30	直立	平坦	自然	土師器	
450	D9g8	N-44°-E	長方形	1.93 × 0.65	15	緩斜	平坦	不明	土師器	
451	D9i7	N-42°-E	長方形	6.55 × 0.74	32	直立	平坦	自然	土師器	
452	D9f8	N-42°-E	不整円形	1.00 × 0.98	17	緩斜	平坦	自然	土師器	
453	D9f6	N-41°-E	長方形	2.39 × 0.61	13	直立	平坦	不明	土師器	
454	D9e4	N-68°-W	楕円形	1.33 × 0.72	27	直立	平坦	人為	—	
455	D9h9	N-43°-E	長方形	1.57 × 0.72	14	直立	平坦	不明	—	
456	D9a9	N-38°-E	長方形	1.74 × 0.51	12	直立	平坦	自然	土師器	
457	D10c4	N-55°-W	長方形	1.93 × 0.69	30	外傾	平坦	人為	—	
458	D10a1	N-55°-W	長方形	2.85 × 0.80	27	直立	平坦	自然	陶器, 磁器	
459	D10b5	N-0°	楕円形	0.84 × 0.73	28	緩斜	皿状	自然	—	
461	C10j4	N-26°-E	楕円形	0.80 × 0.57	20	緩斜	皿状	人為	—	
462	C10j4	N-28°-E	円形	0.75 × 0.69	15	緩斜	皿状	自然	—	
463	D10b4	N-8°-E	楕円形	0.95 × 0.50	38	外傾	皿状	人為	—	
464	D10b3	N-6°-W	楕円形	1.05 × 0.64	24	緩斜	皿状	人為	—	
465	C10j2	N-24°-E	楕円形	0.96 × 0.64	22	緩斜	皿状	自然	—	
466	D10a1	N-69°-E	楕円形	0.87 × 0.71	18	緩斜	皿状	人為	—	
467	C10j1	N-39°-E	楕円形	0.41 × 0.35	15	緩斜	皿状	自然	—	
470	D9e3	N-0°	円形	0.70 × 0.70	31	緩斜	皿状	人為	—	
500	J5a4	N-23°-W	円形	1.24 × 1.18	17	緩斜	平坦	自然	—	
501	J4b4	N-38°-W	円形	0.54 × 0.50	39	外傾	平坦	人為	—	
503	J4b3	N-0°	円形	0.70 × 0.70	26	緩斜	皿状	人為	—	
504	J4b2	N-48°-E	楕円形	0.64 × 0.54	50	外傾	平坦	人為	土師器	柱穴カ
508	J4b3	N-45°-W	楕円形	1.03 × 0.87	27	外傾	平坦	自然	—	
509	J4b3	N-62°-E	楕円形	0.85 × 0.65	23	緩斜	皿状	自然	—	
510	J4c2	N-20°-E	楕円形	1.01 × 0.88	18	緩斜	平坦	自然	—	

土坑 番号	位置	長軸方向	平面形	規模 (m)		深さ (cm)	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考・重複関係
				長径×短径							
511	I 4 h3	N-30°-E	不整形	1.01 × 0.87		93	直立	平坦	自然	土師器	本跡→SK296
512	I 4 h9	N-60°-E	長楕円形	3.19 × 1.43		58	緩斜	皿状	自然	土師器	本跡→SI48・49, SB 8
513	I 4 d1	N-38°-E	長楕円形	0.69 × 0.42		43	外傾	平坦	人為	—	柱穴カ
515	I 4 d1	N-11°-E	[楕円形]	[0.40] × 0.36		31	緩斜	皿状	不明	—	本跡→SB11
517	I 4 d2	N-42°-E	円形	0.46 × 0.44		23	外傾	皿状	人為	—	SK518→本跡
518	I 4 d2	N-16°-W	円形	[0.43] × 0.39		34	外傾	皿状	人為	土師器	本跡→SK517
519	I 4 d0	N-35°-E	円形	0.80 × 0.72		30	緩斜	皿状	自然	土師器	SI58→本跡
524	I 4 c1	N-30°-E	楕円形	3.12 × 2.67		171	緩斜・ 直立	平坦	自然	石製模造品, 鉄器	本跡→SB 5
525	I 4 h6	N-32°-E	楕円形	1.04 × 0.93		74	外傾	平坦	人為	土師器, 陶器	
526	I 4 c3	N-42°-E	楕円形	0.48 × 0.35		15	緩斜	皿状	不明	石 (根石)	柱穴カ, SI65→本跡, SB 7 新旧不明
527	I 3 i3	N-58°-W	楕円形	1.60 × 1.40		33	外傾	平坦	人為	—	SI65→本跡

表 6 梶内山遺跡堀・溝一覽表

番号	位置	方向	形状	規模				壁面	底面	覆土	主な出土遺物	時代・時期	備考
				確認長(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)						
1	M5 a0 ~ L6 f7	N-52°-E	直線状	40	7.00~7.40	6.40~6.80	40	外傾	平坦	自然	土師器, 須恵器	6世紀後半	本跡→SX11, SK 1・2・ 3・81
2	K4 ~ L6	N-40°-W	ほぼ方形 状	248	7.00~7.40	6.40~6.80	50~100	外傾	平坦	自然	土師器, 須恵器	6世紀後半	SK311→本跡→SX6~9, SK 208~305・307~310・312~317
3	K4 a3 ~ J5 d7	N-50°-E	直線状	(70)	8.60~9.6	7.60~8.60	30~80	外傾	平坦	自然	土師器, 須恵器, 土 製品, 鉄滓	6世紀後半	本跡→SK211・351
4	K5 j2 ~ L5 c8	N-42°-W	クランク 状	51	0.30~2.00	0.10~0.80	27~50	緩斜	皿状	自然	土師質土器, 陶器, 石塔	16世紀後半	SI8・10・11・13・14・21→本跡→ SK9・18・20A・22・24~26・37A B・41・55・56・70・78・81・82・88
6	E9 e5 ~ E9 a8	N-37°-E N-80°-W	クランク 状	11	0.21~0.52	0.08~0.40	11	緩斜	皿状	不明	土師質土器, 陶器	中・近世	
7	E9 e4 ~ E9 a9	N-40°-E N-61°-W	クランク 状	16	0.40~0.54	0.12~0.43	18	緩斜	皿状	不明	土師質土器, 陶器	中・近世	SI59・60→本跡
8	D9 c6 ~ C9 j9	N-43°-E	直線状	7	0.15~0.26	0.04~0.15	7~10	緩斜	皿状	自然	—	近世以降カ	SD23
10	C11 a6 ~ B11 h7	N-20°-E	直線状	(12)	0.36~0.60	0.12~0.41	13	緩斜	平坦	自然	—	近世以降カ	
11	E11 b7 ~ E11 d7	N-21°-W	直線状	(5)	0.80~0.90	0.58~0.69	22	緩斜	平坦	自然	—	近世以降カ	
12	D11 f5	N-45°-E	直線状	3	0.62~0.71	0.41~0.51	24	緩斜	平坦	自然	—	近世以降カ	
13	C11 i4 ~ C11 i8	N-83°-E	直線状	(16)	0.49~0.80	0.30~0.52	21	緩斜	平坦	自然	—	近世以降カ	SK112
14	B9 e6 ~ C10 d9	N-24°-W	弓状	71	0.6~1.00	0.28~0.6	36~44	緩斜	皿状	自然	土師器, 須恵器	近世以降カ	
15	B9 f5 ~ B9 f6	N-65°-W	直線状	5	0.44~0.52	0.22~0.3	28~36	外傾	皿状	自然	—	近世以降カ	
16	B9 g4 ~ B9 f3	N-54°-W	直線状	5	0.49~0.58	0.25~0.32	11~17	緩斜	皿状	不明	—	近世以降カ	
17	E9 i7・ E9 h7	N-30°-W	直線状	5.6	0.59~0.95	0.36~0.72	10	緩斜	皿状	不明	—	近世以降カ	SD18
18	E9 j8 ~ E9 i7	N-44°-W	直線状	6.7	0.49~0.74	0.31~0.49	20	緩斜	皿状	自然	—	近世以降カ	SD17
19	E9 j6 ~ E9 i4	N-48°-W	直線状	8	0.58~1.04	0.40~0.92	7	緩斜	平坦	人為	—	近世以降カ	
20	E9 a4 ~ E9 h3	N-9°-W	直線状	5	0.75~1.22	0.42~0.87	22~27	緩斜	平坦	人為	—	近世以降カ	本跡→SK40

番号	位置	方向	形状	規模				壁面	底面	覆土	主な出土遺物	時代・時期	備考
				確認長(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)						
21	B10i7 ~ B10e8	N-20°-E	直線状	(6)	0.58~1.00	0.89~0.43	11	緩斜	平坦	自然	—	近世以降か	
22	D10d6 ~ D10a8	N-55°-E	直線状	20	0.45~0.97	0.34~0.81	7	緩斜	平坦	人為	磁器	中・近世	SD23
23	E9a9 ~ D10a8	N-44°-E N-46°-W	クランク 状	60	0.35~1.12	0.15~1.00	15	緩斜	皿状	自然	陶器	近世以降か	SD7・22
24	C8g4 ~ C8j4	N-14°-E	直線状	(13)	0.56~1.02	0.33~0.72	14	緩斜	平坦	自然	—	近世以降か	
25	D7a0 ~ E9g1	N-43°-W	クランク 状	(87)	0.65~12.60	0.10~0.60	36~60	緩斜	平坦	自然	土師質土器, 磁器	近世以降か	SI92・90→本跡
26	D8f4 ~ D8d9	N-84°-E N-34°-E	直線状	(23)	0.52~1.47	0.38~1.26	13	緩斜	平坦	不明	—	近世以降か	
27	D8b4 ~ C8h7	N-40°-E	直線状	22	0.45~2.46	0.30~1.86	10	緩斜	平坦	自然	土師質土器	近世以降か	
28	D8j7 ~ E8f6	N-57°-W	直線状	(46)	0.80~1.30	0.48~0.66	22	緩斜	皿状	自然	土師器, 古銭	近世以降か	
29	I1h9 ~ I2f2	N-48°-E	直線状	(15)	0.37~0.72	0.13~0.36	34	緩斜	U字 状	自然	—	中・近世	
30	E7b6 ~ E7b7	N-48°-E	直線状	(6)	0.71~0.83	0.40~0.66	8	緩斜	皿状	自然	—	近世以降か	
31	I4i5 ~ I5b3	N-75°-W N-16°-E	L字状	(56)	1.10~2.04	0.40~0.80	80	緩斜	皿状	自然	土師質土器, 陶器, 磁器, 鉄滓	13~14世紀	SI53→本跡, SB13, SD32新 旧不明
32	I4f6 ~ I4i5	N-16°-E	直線状	12	0.24~0.56	0.10~0.30	20	緩斜	平坦	自然	土師質土器	13~14世紀	SD31
33	E10g2 ~ D10h6	N-47°-W N-40°-E	L字状	(49)	0.47~1.88	0.24~1.58	20	緩斜	平坦	自然	土師質土器, 陶器	16世紀	本跡→SK167~169・410・ 412

## 第4節 ま と め

今回の調査によって、当遺跡は古墳時代中期終末段階から後期、奈良時代後半から平安時代後期、中世前期の集落跡と、中世末期から近世前期の墓域であったことが明らかになった。また、遺構外で後期旧石器時代や縄文時代早期中葉から前期中葉、縄文時代後期の遺物も出土している。それらの遺物の大半は居館内から出土しており、当該期の遺構が存在した可能性も考えられるが、居館の構築に伴い破壊されたものと推定される。ここでは、各時代の様相について概要を述べ、まとめとしたい。

### 1 古墳時代

5世紀代から7世紀前後にかけての住居跡28軒と方形竪穴遺構2基、堀3条、不明遺構1基等が検出されており<sup>1)</sup>、その内、住居跡20軒は二重の堀で区画された居館跡の内部から確認されている。ここでは、今回調査された居館内住居跡と外縁部の住居跡の変遷について記述するとともに、居館の各施設や構造に検討を加え、当遺跡で確認された居館跡の特性と性格について考察する。

#### (1) 居館の名称と定義について

まず、本書で使用している「居館」はいわゆる「豪族居館」を指すものであるが、古墳時代の社会構造についての認識の相違から「豪族」の解釈が分かれているために、実際の遺跡を「豪族居館」と呼称するのを避けることが多く、他に「首長居館」や「首長居宅」、「首長館」などが使用され、その使われ方には「豪族居館」に対する捉え方や時代認識に微妙な相違を見ることができ<sup>2)</sup>。しかし、「居宅は防備性の特色より首長施設の一般的成立に重点がおかれており、居館を中世の豪族の施設概念から延長させて、居住性と防備性を兼ね持った施設として捉え、古墳時代の在地首長層の施設というニュアンスに含めながら、居館の概念を広げて類別を包括する考え方<sup>3)</sup>に従い、本書では「居館」の名称を使用している。

次に居館の定義であるが、四周に方形あるいは長方形に濠あるいは堀が巡り、内側に柵、土塁が外郭施設として伴い、内部には掘立柱式の平地式建物あるいは大型の竪穴住居を中心とした建物配置がなされているものが一般的に「豪族居館」といわれている<sup>4)</sup>。

これに対して都出比呂志氏は、黒井峯遺跡の事例<sup>5)</sup>などから、古墳時代の住居や集落の設計原理は正方形プランであり、一般民衆も方形の屋敷地を採用しており、方形プラン＝首長居館と決める根拠になりえず、それまで「豪族居館」とされてきた大藪タイプ<sup>6)</sup>は有力農民など中間層の屋敷地、小深田遺跡タイプ<sup>7)</sup>は一般農民の屋敷地としている。そして、首長居館を認定する基準として、方格プランや規模のみではなく、生計維持機能以外の家政機構を支える特別な施設を付随させていたかをあげている<sup>8)</sup>。

しかしながら、古墳時代の段階で、豪族層—中間層（有力農民層）—一般農民層といった階級的枠組みの中で理解しようとするには疑問視する考えもあり、堰と水路を使った灌漑水田の形態から基本的な階級関係は首長と農民であり、農民層の階層分解はさほど進んでなく<sup>9)</sup>、また、典型的な「豪族居館」として居館関連の論文に頻出する三ツ寺I遺跡は「国」の王レベルのものであり、その下には、少なくとも大共同体（クニ）のオウ、小共同体首長、村落首長、といった3段階の首長層がさらに存在すると考えられ、やはり「居館たる最大の要素」は壕や堀・柵を巡らすという階級的な隔絶性と独立した防御性である<sup>10)</sup>とされている。

従って、当遺跡で確認された二重の堀で区画された諸施設は首長層が居住した「居館」であり、その特性と性格について考察するなかで、対応する首長層についても検討する。

## (2) 居館の立地と環境

居館は、つくば市小野崎から霞ヶ浦西岸に流れる小野川上流左岸の標高17～20mの洪積台地上にある。この台地はほぼ平坦であり、1～2mの比高をもって小野川流域の沖積地に臨んでいる。ボーリング調査<sup>11)</sup>によると、居館の北側を除く外縁部は、表土である耕作土の下0.7～1.2mの厚さまで含水が多く、腐植物が混入する黒色土であり、当時は小野川まで続く湿地であったと考えられる。

また、居館は、牛久沼に流入する東谷田川から約3.5km西、小野川支流の乙戸川から約2km東に位置し、他の水系への移動が容易であったと考えられる。これらの下流の下君山地区や半田地区は、古代の駅屋である榎浦駅と榛谷駅の比定地<sup>12)</sup>であり、律令期の官道は古墳時代の道路を継承したもので、新設されたものではないと考えられており<sup>13)</sup>、居館は交易に適した地点に占地されていたと考えられる。このように居館の立地は、河川流域や港湾部、古道の近くなどの交通の要衝に面していることが多く<sup>14)</sup>、当遺跡も生産基盤を近接する低湿地に確保し、交通の要衝をおさえる位置に占地してまさに居館の立地条件を満たしているといえる。

## (3) 居館の変遷

居館の内部からは20軒の堅穴住居跡が確認されているが、その内19軒が居館に伴い、1軒は居館構築前の住居跡である。これらは、内堀である第2号堀の内側にあり、出土土器や重複関係から少なくとも3期の画期をもって変遷をたどることができる。

### ①居館構築前

5世紀後葉の第11号住居跡が館内から確認されている以外は、外縁部では280mほど北に5世紀中葉から後葉の第91～93号住居跡、70mほど北西に5世紀末葉から6世紀初頭の第66・67号住居跡が検出されているだけである。第1～3号堀からは、これらの時期やそれよりもやや後出的な土器も出土しており、それらの時期の遺構が居館内に存在した可能性が考えられるが、居館構築時に破壊され、それに伴い遺物が混入したものと推定される。従って、5世紀後葉から居館構築前にかけて、微高地上の南東端部と中央部にわずかの世帯<sup>15)</sup>が散居していた状況と考えられる。

### ②I期

出土土器や重複関係から、第8・20・21号住居跡がこの時期の住居と考えられる。また、第12号住居跡もⅡ・Ⅲ期の住居跡と隣接する位置にあるために、それらと同時期よりは当期になる可能性が高いと考えられる。

内堀である第2号堀では、第1・2号土橋周辺や北東辺を中心に、覆土下層から底面にかけてこの時期の土器が出土している。また、第2号堀の南コーナー部底面を掘り込んでいる第6号不明遺構の出土土器も当期に比定され、住居と堀の主軸方向が一致することなどから、この時期には内堀が構築されていたと考えられる。しかしながら、スロープ状施設南東側の堅穴状の掘り込みや粘土貼りの壁、土壇部の周辺ではこの時期の土器は出土していないため、これらの施設はまだ構築されていなかったものと考えられる。

なお、第1・2号土橋周辺の底面からは当期よりは古い段階の須恵器坏（第20図101）や高坏（第21図149）が出土しており、当期以前に第2号堀が構築されていた可能性も残されるが、その時期の住居跡が居館内からは確認されず、堀の底面から同時期の土師器坏なども出土していないため、当期よりも古い時期に第2号堀が構築されていたかどうかは判断しがたい。しかし、遅くとも当期には内堀が確実に構築されていたものと考えられる。

また、第1号堀は遺物の出土総数が少なく、第3号堀では覆土下層から常総甕前段階のものが出土してはいるものの、当遺跡ではⅡ期まで常総甕前段階のものが主体的である上に、当期の土師器坏が底面や覆土下層から検出されていないため、この時期に第1・3号堀が構築されたかどうかは不明である。

郭内の住居は南西部に偏り、北東部が広い空閑地になっている。第21号住居跡からは手捏土器が出土しているが、住居の規模が突出しており、中心的な世帯の住居と推定される。また、第12号住居跡は床面積が約13㎡と小形で竈や炉が設けられていない。この住居跡は一般の住居とは異なる機能を有していたものと考えられるが、作業場的な痕跡は確認できず、収穫物等の貯蔵施設も想定できるが、その機能については明らかではない。

また、外縁部では、内堀から60mほど北西に第36号住居跡、270mほど北に第99号住居跡が確認されているだけであり、調査区内では目立った集落は形成されていないが、いずれも主軸方向が居館と近く、居館を意識して建てられた可能性が考えられる。

### ③Ⅱ期

出土土器や重複関係から、第1・2・4・5・7・9・13～15・17・19号住居跡がこの時期の住居と考えられる。これらの中で、第13号住居跡は重複関係から第14号住居跡よりも新しく、第4号住居跡と第5号住居跡、第7号住居跡と第9号住居跡は位置関係から同時存在とは考えられず、さらに2期に細分が可能であり、新期は次のⅢ期まで存続する可能性も想定されるが、新旧の判別は第13・14号住居跡以外は明確ではない。

遺構の配置は、第9・19号住居跡を除き、いずれの住居も内堀から6m以上内側に位置し、郭内に円形状に展開している。また、大半の住居は主軸方向が内堀とほぼ一致しているが、第4・5・14号住居跡は若干西に振れている。

住居の規模は、大形住居の第1・7・13・15号住居跡と中形住居の第4・5・14・17号住居跡、小形住居の第2・9・19号住居跡に分けられるが、特に突出して大規模な住居跡はなく、出土遺物からも住居跡の規模だけでは居館内での階層差について明確に捉えることはできない。これらの中で、第7号住居跡は中央部の床面からピットを伴う粘土貼りの施設が検出されており、一般の住居とは異なる機能を果たしていた可能性も考えられるが、その性格は明確ではない。各住居に貯蔵穴は備えられているが、収穫物を大量に保管できる倉庫のような施設は確認されていない。

第2号堀では、土器の出土状況などから見て、当期にスロープ状施設周辺の竪穴状掘り込みや粘土貼りの壁などが整備されたものと考えられる。これらは、形状や位置などから、外部の湿地へ移動するための施設と想定される。また、外堀である第1・3号堀は、Ⅱ期にはほぼ確実に構築されていたものと考えられる。なお、内郭と外郭の間には当期の遺構は確認されていない。また、47m北西には第30号住居跡が確認されている。主軸方向が同じであることから、居館を意識して建てられた住居と考えられる。このように、調査区内で確認された住居跡は前述したものだけであり、周縁部に集落は形成されていなかったと推定される。

### ④Ⅲ期

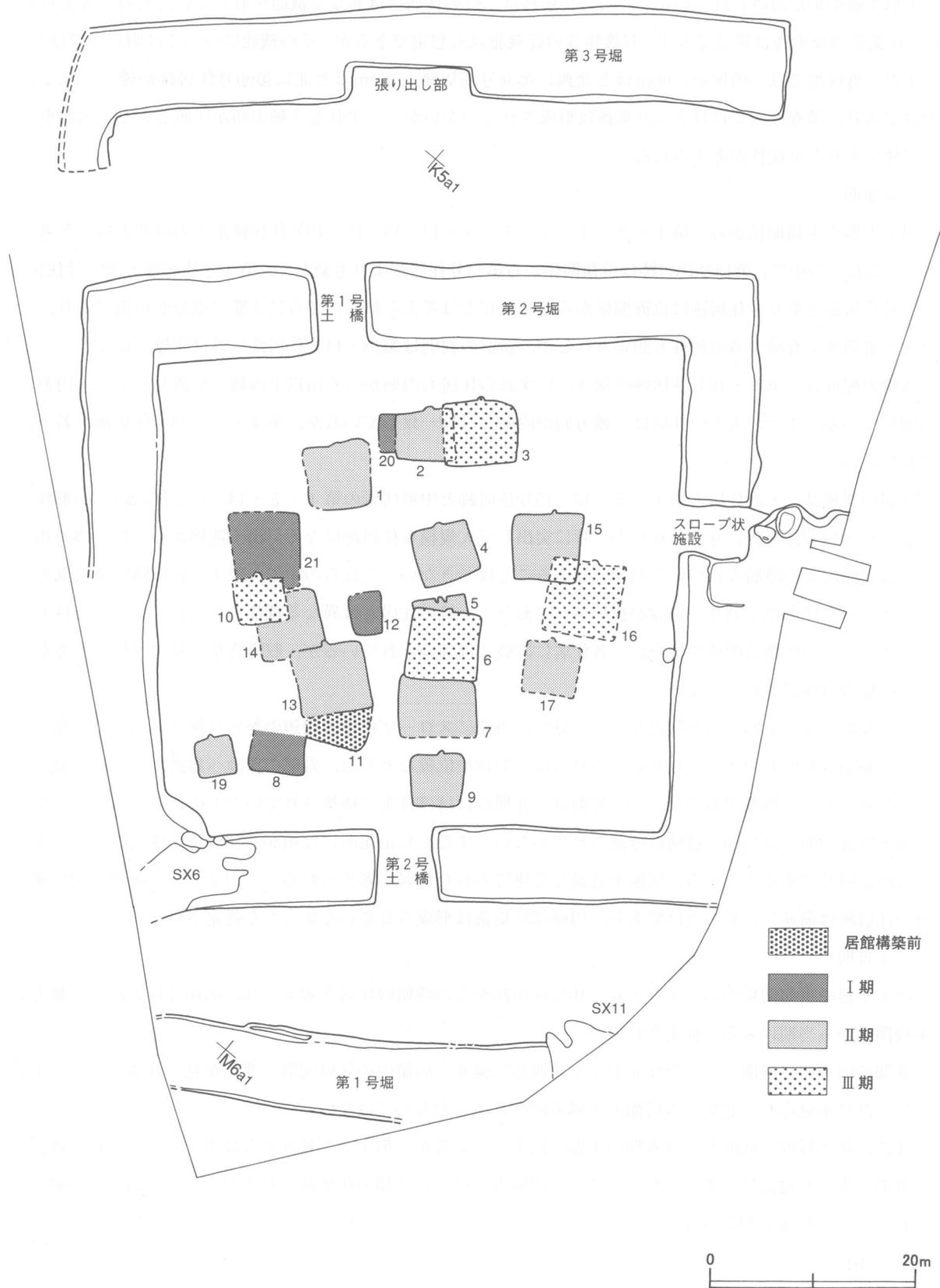
出土土器や重複関係から、第3・6・10号住居跡がこの時期の住居と考えられ、第16号住居跡も主軸方向や重複関係から当期に入ると推定される。

Ⅱ期で円形状に展開していた住居がやや北西部に偏り、居館内の住居配置に変化が見られる。また、主軸方向にも乱れが見られ、必ずしも居館の主軸方向を意識したものではない。

また、第2号堀の底面からはⅢ期の土器が出土しているが、第1・3号堀からは出土していないため、外堀が機能を失った可能性も考えられる。また、周縁部にはこの時期の住居跡が見当たらず、居館だけが隔絶して存在していた状況が想定される。

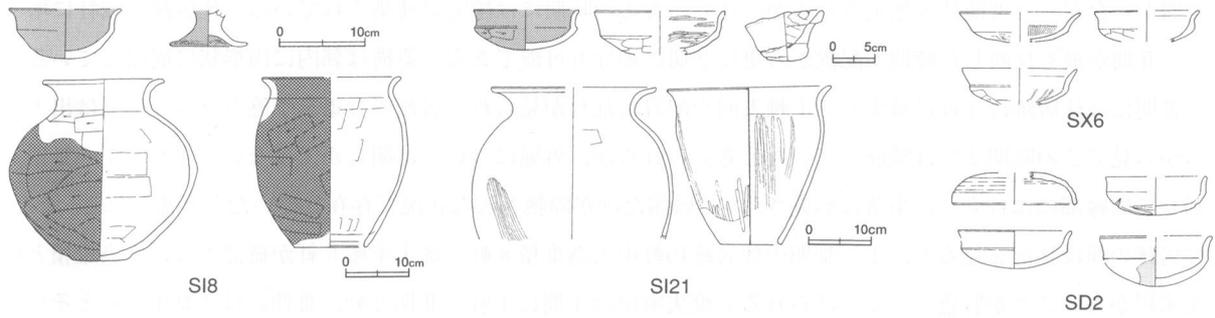
### ⑤小括

以上のことから、Ⅰ期には外堀については不明ながら確実に居館が構築されていたが、まだ十分に整備されていなかったと考えられる。また、郭内の住居跡も4軒と少なく、南西部に偏在している。Ⅱ期になると内堀

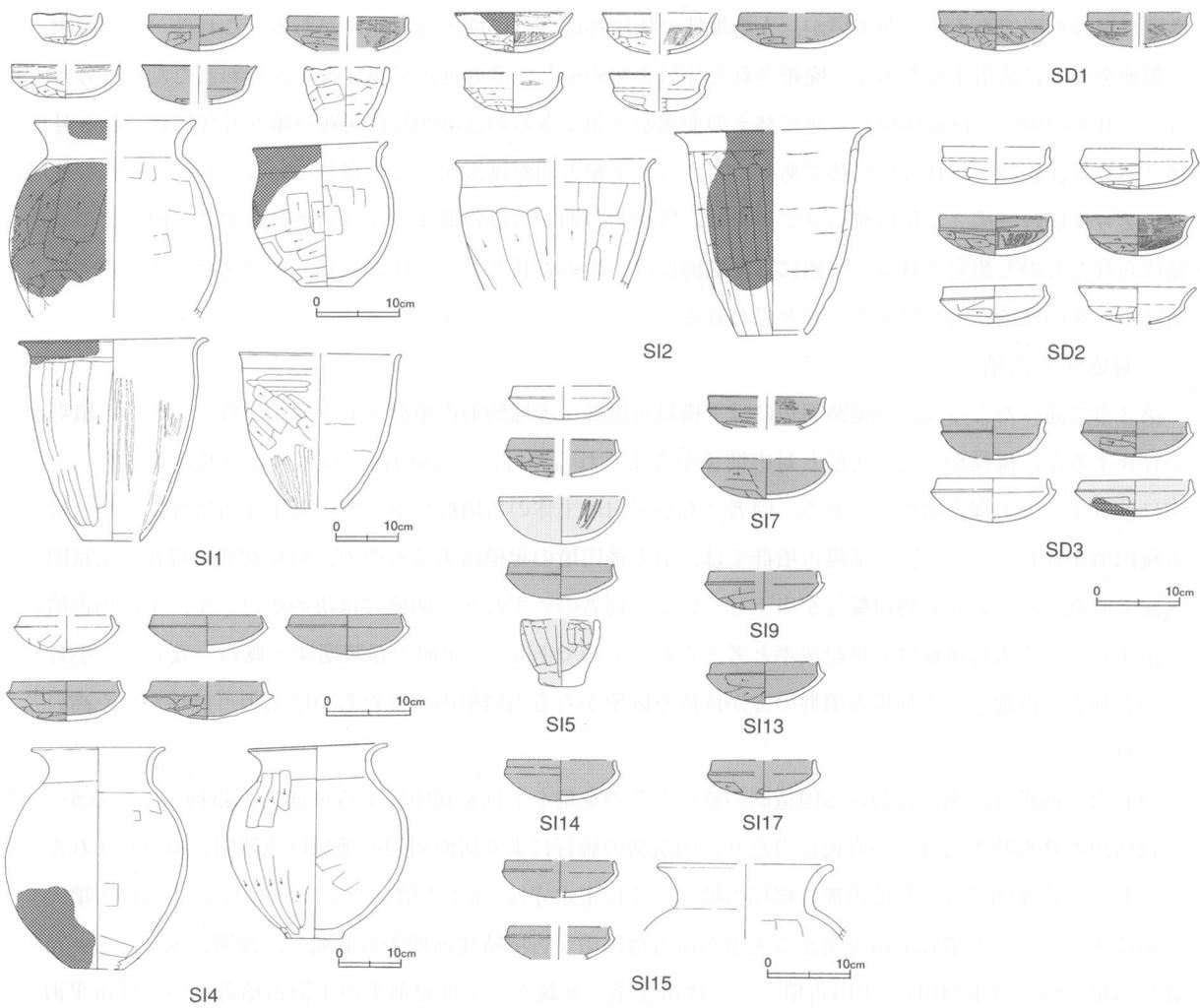


第306図 居館内住居の変遷

I 期



II 期



III 期



第307図 居館内出土土器の変遷

の整備が進み、スロープ状施設近辺の粘土貼りの壁部や竪穴状の掘り込みなどが作られる。外堀については、Ⅰ期から存在した可能性も想定されるが、遅くともこの時期には確実に構築されている。住居跡も12軒に増加し、Ⅱ期が最も反映した時期で配置から更にⅡ期に細分も可能である。遺構は郭内に円形状に展開している。

Ⅲ期には住居跡は4軒に減少して主軸方向や配置に乱れが見られ、居館の衰退を予感させる。内堀は出土土器から見てこの時期までは機能していたと考えられるが、外堀については明らかではない。また、Ⅰ～Ⅲ期を通して周縁部には目立った集落は形成されず、居館だけが隔絶された状況で存在していたと考えられる。また、住居跡の埋没状況を見ると、Ⅰ～Ⅲ期の住居跡19軒中人為堆積8軒、焼失家屋5軒が確認され、人為堆積と焼失家屋が多いことが特色として上げられる。焼失家屋はⅠ期に1軒、Ⅱ期2軒、Ⅲ期には4軒中2軒とその割合が高くなる。さらに、人為堆積は、Ⅰ・Ⅱ期に7軒と集中している。さらにⅠ・Ⅱ期は、覆土が薄いために堆積状況は不明であるものが多いが、人為堆積の住居跡はさらに増える可能性がある。これは、郭内の限られた敷地を有効に活用するために、廃絶された住居を埋め戻してその近辺で建て替えが行われたためと考えられる。これらの中で、位置関係から建て替えの変遷が予想できるのは第20号住居跡→第2号住居跡→第3号住居跡と第15号住居跡→第16号住居跡であり、これらは主軸方向がほぼ同じで重複している。特に、第20号住居跡→第2号住居跡→第3号住居跡の立て替えは、居館の初期から最終期まで繰り返されており、同族での居住が続けられたものと想定される。居館には原則的には一人の首長とその一族が居住したと考えられており<sup>16)</sup>、当遺跡でもその原則が当てはまるものと思われる。

#### (4) 対応する古墳

第2章で述べたように、当遺跡周辺には下横場古墳群・赤塚駒形古墳群・五十塚古墳群・下大井古墳群などが存在するが、規模から見て居館と対応関係が考えられるのは、0.5km南西に位置する下横場古墳群<sup>17)</sup>と3km南に位置する五十塚古墳群<sup>18)</sup>である。両者とも小形円墳主体の古墳群であるが、五十塚古墳群には40m級の前方後円墳が存在しており、下横場古墳群では、前方後円墳の規模は劣るものの、昭和初期に現在は東京国立博物館で所蔵されている人物埴輪等が出土している。両者のいずれかは明確には決めたいが、下横場古墳群から出土している人物埴輪は6世紀後半と考えられるものであり<sup>19)</sup>、居館の存続期間と概ね一致して、小野川対岸の台地上に占地する下横場古墳群の方が位置や眺望からも当居館の首長たちの墳墓の可能性がやや高いと考えられる。

白石太一郎氏は、東国における国造制の施行とその整備を7世紀初頭に下る可能性を指摘しているが<sup>20)</sup>、それは居館の終焉時またはその直後に当たり、国造制の施行により居館周辺の地域は筑波国に組み込まれたと考えられる。筑波国では、筑波山麓に桜塚古墳(つくば市水守)、山木古墳(つくば市山木)、土塔山古墳(つくば市漆所)といった墳長50mを超える大型の前方後円墳が古墳時代前期から展開し、後期に入っても95mの八幡塚古墳(つくば市沼田)、甲山古墳(つくば市北条)と続き、7世紀前半の平沢古墳群(つくば市平沢)には、35×25mの長方墳で横穴式石室をもつ佐渡ヶ窟古墳が存在しており、この首長層が筑波国造となったと考えられている<sup>21)</sup>。これらの古墳は、律令期の筑波郡内に当たる地域を移動しているが、河内郡域に当たるつくば市旧桜村や土浦市では、墳長約80mの栗原天神塚古墳、75mの横町古墳や松塚1・2号墳、大日山1号墳など50m以上の前方後円墳が後期に輩出しており、桜川流域では後の筑波・河内郡域にそれぞれ有力な首長層が存在したことが窺える。

ところが、小野川流域には墳丘長が50mを超える古墳はなく、桜川流域の国造級の「国」首長と比肩し得る首長層が存在した可能性は低い。当時の小野川は、下流までが「榎浦流海」<sup>22)</sup>の一部で<sup>23)</sup>、明治時代までは霞ヶ浦の入海になっていた<sup>24)</sup>。そして、河口から中流域までは中小の古墳群が間断なく続くが、上流域になるとそ

の古墳の間隔が疎らになり、中・下流域とは異なる様相を示しており、小野川流域の首長層の勢力範囲のあり方との関連性も想定できる。

#### (5) 居館の性格と階級的 position づけ

ここでは、居館の規模や構造、さらに出土遺物などから、居館の性格と首長の階級的 position づけについて検討し、当遺跡における居館のまとめとする。

まず、面積と堀幅の広さや二重区画構造が居館の特徴としてあげられる。外堀も含めた占地面積が約7,150㎡、外郭を含めた郭内の面積が約5,980㎡で、これは小笠原好彦氏の分類に基づけば「中型居館」の上位、寺沢薫氏の分類によれば「中形」の上位に位置づけられる<sup>25)</sup>。また、「豪族居館」の堀幅は群馬県群馬町三ツ寺I遺<sup>26)</sup>跡や同県伊勢崎市原之城遺跡<sup>27)</sup>を除くと5m以下が大部分であり、当遺跡の7～8mという堀幅は、小笠原分類では「大型居館」に当てはまる本宿・郷戸遺跡<sup>28)</sup>よりも広い規模である。さらに、堀により二重区画された構造は関東地方にはほとんど類例がなく<sup>29)</sup>、東日本でも福島県塩川町の古屋敷遺跡<sup>30)</sup>で確認されているだけである<sup>31)</sup>。

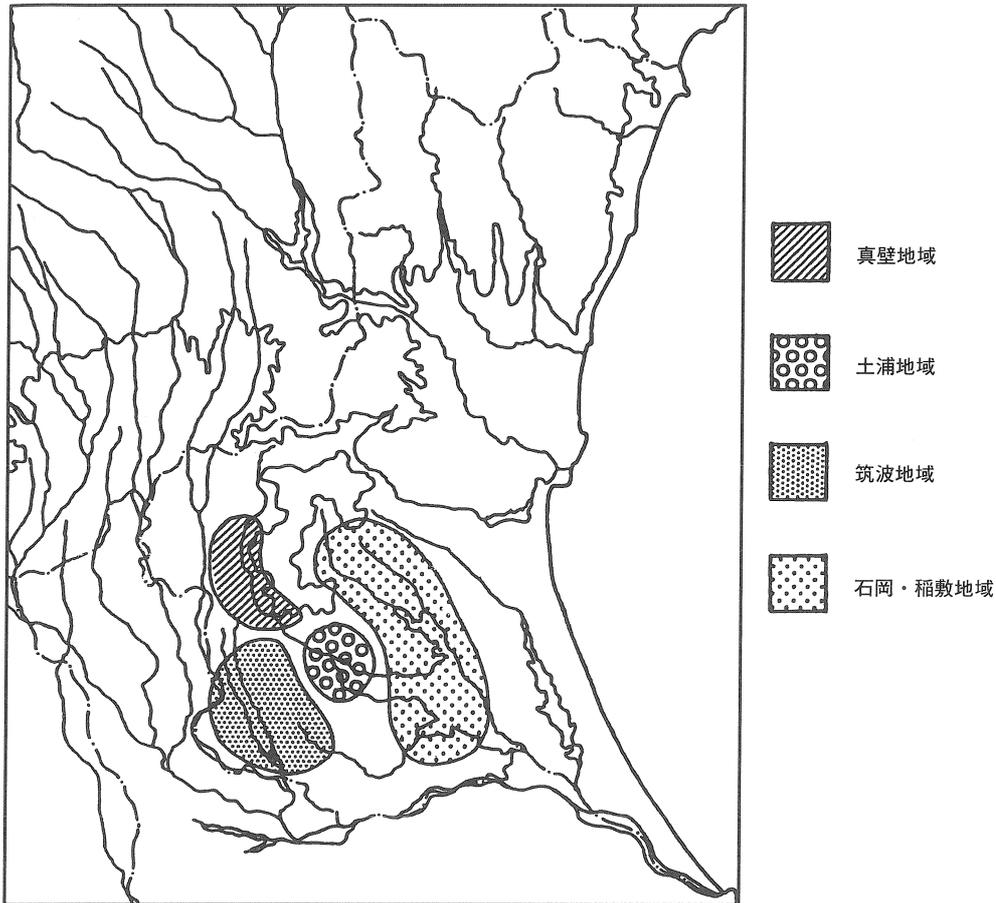
また、館内では、内堀の第1号土橋と第2号土橋は直線上ではなく、さらに第1号土橋と外堀の張り出し部の位置関係も同様で、互いに見通せない構造となっている。堀の深さが1m程度であり、第3号堀も張り出し部周辺でクランクしておらず、張り出し部が形骸化していることを考慮すると、これは居館の防衛的機能を高めるためだけでなく、外界からの遮蔽的機能を重視した構造と考えられ、I～III期を通して居館周辺から目立った集落跡が見当たらないことも含めて、周縁部からの強い隔絶性を意識したものと考えられる。さらに、出土遺物の中に手捏土器や石製模造品が見られ、第1・2号土橋やスロープ状施設、張り出し部、第6号不明遺構から多量の遺物が出土している状況から、居館内で祭祀行為が行われた可能性も考えられる。

このような居館の規模や隔絶性と対比して、その内部施設は貧弱ともいえる。郭内には竪穴住居跡が存在するだけで掘立柱建物跡などは確認されず、経済的活動による首長自身の「私富」<sup>32)</sup>を保管するための施設が不明である。第7・12号住居跡のように居住以外の機能を果たしていたと推定される施設もあるが、館内施設の機能分化は不十分であり、首長の政治的・経済的活動の場たる家政機関が存在したとは考えにくい。また、館内での祭祀行為の可能性は考えられるが明瞭な形での祭祀遺構は検出されておらず、「マツリゴト」を執行する場としての「ハレの空間」が整備されていたとは考えられない<sup>33)</sup>。橋本博文氏は、祭祀遺構は大型居館ほど充実し、「マツリゴト」は下位から上位、地方から中央に行くほどより整備される<sup>34)</sup>と言及しており、本跡はその点で最上位の居館には位置づけられない。

また、寺沢薫氏は、居館の分析視点と階層性について、階級的隔絶性・規模・防衛性と観念性・内部の機能分化・建物の機能分化の五つの観点からI～IVの類型に分け、さらに12の型に細分類している<sup>35)</sup>。それに基づく、当遺跡は階級的隔絶性が上位、建物の機能分化が下位に位置づけられるのを除けば、ほぼ中位に位置づけられ、これを類型化すると第II類型の本宿・郷戸型に分類される。寺沢氏は第II類型の首長を「国」首長の下位に位置する大共同体(クニ)規模の首長と想定しているが、前述したように当遺跡の面する小野川流域には国造級の首長層が存在したとは考えられず、当遺跡の首長もその下位に位置するものと推定される。

このことについて土器の面から見ると、吹野富美夫氏が常陸国南部におけるこの時期の地域性を土師器坏の様相から追求し、真壁地域、土浦地域、筑波地域、石岡・稲敷地域に小地域区分をしている<sup>36)</sup>。

それによれば、筑波山西麓側の桜川中流域の真壁地域では、八幡前遺跡・中台遺跡が代表的な遺跡としてあげている。坏は6世紀前葉から中葉まで、須恵器坏蓋模倣で口縁部と体部との境に稜が中位にあり、口縁部が大きく外反するもの(E類)が主体であり、内面に放射状磨きが施される割合が高く、E類と同タイプながら



第308図 常陸南部小地域区分（註36文献より転載）

口縁部と体部との境の稜が下位にあるもの（F類）や須恵器坏蓋模倣で口縁部が直線的に外傾するもの（G類）はこの地域だけのものとしている。

桜川・花室川下流域の土浦地域では、向原遺跡・大儘遺跡が代表的な遺跡としてあげられている。坏は、内面に放射状磨きが施される割合が高く、須恵器坏蓋模倣で口縁部と体部との境に稜があり、口縁部が小さく外反するもの（D類）の割合が他地域よりも高いとしている。

花室川・小野川・東谷田川・西谷田川・小貝川の中流域の筑波地域では、ヤツノ上遺跡・東山遺跡・馬場遺跡・柴崎遺跡・ツバタ遺跡を代表的な遺跡としてあげている。坏は赤彩・黒色処理の割合が他地域を卓越しており、須恵器坏身模倣（H類）主体で、放射状磨きはほとんど導入されていないとしている。

霞ヶ浦沿岸の小野川下流域・恋瀬川流域の石岡・稲敷地域では、二の宮遺跡・柏木遺跡・半田原遺跡を代表的な遺跡としてあげている。坏はE類主体であるが赤彩率は低いとしている。

当遺跡の坏は、I期はE類主体であるがII期はH類主体となり、黒色処理率はほぼ100%と筑波地域や石岡・稲敷地域両者の様相を備えている。また、真壁地域特有とされているF・G類も出土しており、当遺跡と真壁地域との関連性も考えられる。

小地域における土器様相の地域性については、土器の流通の一部が、首長制の分配構造にある<sup>37)</sup>という捉え方と、狭義の土器型式圏は交易活動という経済的諸関係を表す概念としての「経済領域」であり、首長層の政治的支配領域とは直接的つながりをもたない<sup>38)</sup>という見解に分かれている。そのいずれにしても、当遺跡の土

器様相は、複数の経済領域または首長圏との交流が行われていたことを示しており、「(2) 立地と環境」で記述したように、当遺跡が他水系への移動が容易な地点に立地していることがその証左になり得ると想定できる。そして、その地域性は、吹野氏が抽出した小地域の空白部分を埋めるとともに、さらに細分した一つの経済領域または首長圏となる可能性が予測できる<sup>39)</sup>。

以上のことから当遺跡の居館跡は、古墳時代後期にⅠ～Ⅲ期にわたって他集落から隔絶されて存続し、下横場古墳群と五十塚古墳群が対応する古墳の候補としてあげられる。またその居住者は、国造級首長の下位に位置づけられる首長層と推定され、小野川上流域を中心に、中・下流域や他水系との交易活動を営んでいたと想定される。しかしながら、居館周縁部からは目立った集落が確認されておらず、首長層を支えた農民層の実体は明確ではない。

## 2 奈良・平安時代

居館消滅後の古墳時代終末期から奈良時代初期にかけての遺構は確認されていないが、その後の8世紀中葉から10世紀後半にかけての集落跡が検出されている。それらは、住居跡57軒、掘立柱建物跡1棟、井戸跡2基であり、出土遺物が細片のために時期を明確にはできないものの、奈良・平安時代と推定される住居跡13軒も検出されている<sup>40)</sup>。住居跡は、調査Ⅰ区から54軒、調査Ⅱ区から16軒が検出されているが、調査Ⅰ区では8世紀中葉から10世紀後半まで間断なく集落が続くのに対し、調査Ⅱ区では9世紀中葉から後葉の間だけ集落が形成されている。また、調査Ⅰ区ではすべての住居跡が居館跡の北西側に位置し、居館跡内からは1軒も確認されていない。居館跡が存在した区域は中世末期に墓域が形成されるまでの間まったく遺構が構築されておらず、これは居館跡の存在が後生まで記憶され、周囲から畏怖されていた可能性も考えられる。なお、調査Ⅱ区では遺構が南部に集中しており、北部からは確認されていない。

ここで集落の変遷について見ると、まず8世紀中葉では第25・43・48号住居跡が確認され、46m・20mほどの間隔で同じ主軸線上に並んでいる。これらは、長軸長が3.70～4.30mのほぼ同規模の住居跡である。

8世紀後葉になると第22・34・39B・40・46・56・62B・64・69・75A・75B号住居跡が確認され、住居跡は11軒に増加する。また、第53・70号住居跡は8世紀後半、第63号住居跡は8世紀中葉から後葉で、この時期となる可能性もある。これらは主軸方向をほぼ同じくして調査Ⅰ区の西部全域に展開している。

次の9世紀前葉では、第24・26・35・39A・41・42・45・62A号住居跡の8軒が確認されている。また、第55・65・72号住居跡は9世紀前半である。第35・45号住居跡以外は主軸方向はほぼ同じであるが、位置的に西部の第24・26・62A号住居跡と東部の第35・39A・41・42・45号住居跡の二つの集団に分かれ、後者の方が狭い範囲に集中し、密集度が高い。

9世紀中葉は第27・29・38・57・68号住居跡のほかに、調査Ⅱ区で第88・90・96・97号住居跡が確認されている。9世紀前葉に東西に分かれていた調査Ⅰ区の住居跡は、西部中央に集中するが、調査Ⅱ区の住居跡は南部西寄りにまとまり、調査Ⅰ区の住居跡よりも主軸方向が西に傾いてⅠ区とは異なる集落であったと考えられる。

9世紀後葉の調査Ⅰ区は、第23・31・47B号住居跡と減少するが、調査Ⅱ区では第59・60・82～84・87・89・98号住居跡の8軒と増加する。また、第73・74・81・89号住居跡は9世紀後半と考えられる。調査Ⅰ区の住居跡の主軸方向はほぼ同じであるが、50mほど離れており、それぞれ孤立した分布を示している。一方、調査Ⅱ区の住居跡は南部中央から南部東寄りに集中し、第59・60・98号住居跡、第88・89号住居跡、第82～84号住居跡の三つのまとまりが見られる。また、9世紀中葉と同様に調査Ⅰ区と調査Ⅱ区とでは住居跡の主軸方向に違



第309図 奈良・平安時代住居跡の変遷 (調査I区)



第310図 奈良・平安時代住居跡の変遷（調査Ⅱ区）

いが見られる。

10世紀になると調査Ⅰ区では第44・47A・54・58号住居跡が第3号堀と第31号溝の間に集中して確認されるだけとなり、主軸方向が北東に変化する。このように、調査Ⅰ区と調査Ⅱ区では住居跡の主軸方向に違いが認められ、それはそれぞれに別の集落を形成していたと考えられる。調査Ⅰ区では、8世紀中葉から10世紀後半まで継続する中で、8世紀後葉から9世紀中葉の間が最も栄えていた時期である。また、集落はその配置からいくつかの集団に分けることができ、それらの集団の何単位かが集まって集落が形成されていたと推定される。調査Ⅱ区では9世紀中葉から集落が形成されて、後葉に拡大するが、10世紀には検出されず、消滅または調査区域外に移動したと考えられる。

当遺跡は前述したような変遷が認められるが、灰釉陶器の細片も出土しており、ある程度勢力をもった集落であったことが想定される。

### 3 中・近世

10世紀後半まで続いた平安時代の集落が消滅した後、この地に再び人々の営みが確認できるようになるのは13世紀代になってからであり、13～14世紀にかけて第31号溝とそれに区画された掘立柱建物跡群がこの時期を代表する遺構となる。その後、時期は明確でないが小規模な掘立柱建物跡が断続的に建てられ、さらに16世紀後半になると第4号溝に区画された墓域となり、区画溝の機能喪失後も18世紀前半頃までは墓域となっている<sup>41)</sup>。

この時代の遺構としては、掘立柱建物跡16棟、柵列跡1条、井戸跡17基、土壙墓53基、土坑4基、溝8条が確認されているが、ここでは、重複関係や長軸方向から変遷がたどれる第31号溝に区画された掘立柱建物跡群と、第4号溝に区画された中世末から近世前期の土壙墓群を中心にまとめる。

#### (1) 掘立柱建物跡について

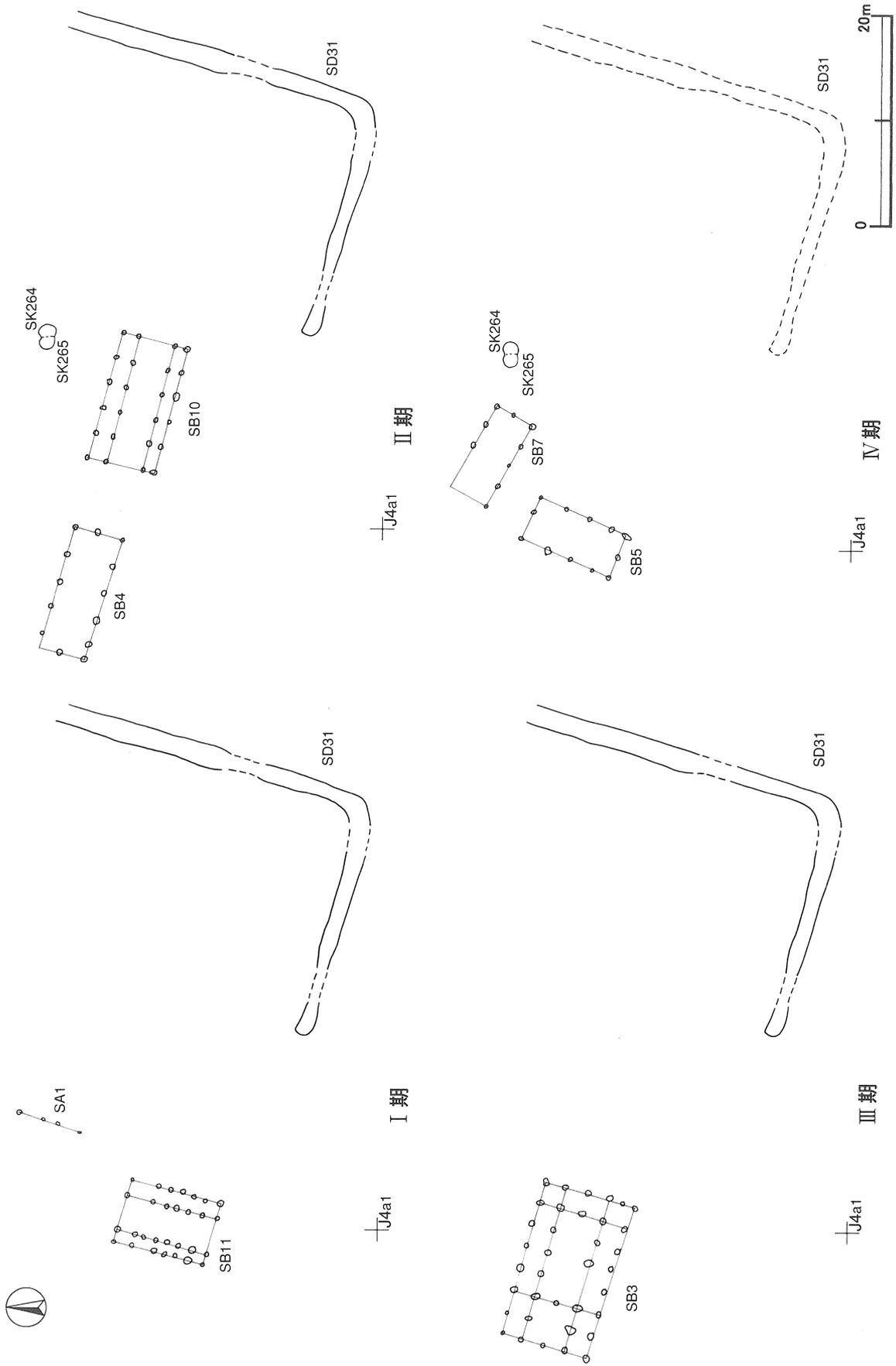
調査Ⅰ区西部の西側から確認された第3・4・10・11号掘立柱建物跡と第1号柵列跡は、長軸方向と位置関係から第31号溝に区画された屋敷地と考えられる。第31号溝は出土遺物から13世紀後半から14世紀前葉まで機能していたと考えられるため、掘立柱建物跡もその時期のものと推定され、重複関係からⅠ～Ⅳ期に変遷を想定することができる。

Ⅰ期：第11号掘立柱建物跡と第1号柵列跡がこの時期の遺構である。第11号掘立柱建物跡は桁行6間、梁行1間の南北棟で、東面5尺、西面4尺の庇（縁）が付き、各柱穴には根石が認められて、庇を含めた面積は約58㎡ある。また、第1号柵列跡の柱穴にも根石が認められている。両者とも根石が使用されていることから、一般の掘立柱建物跡よりも格上の上屋構造であったと想定され、第11号掘立柱建物跡は主屋的な機能を果たしたと考えられる。さらに、建物跡から第31号溝までは40mほどあり、その間が空地になっている。

Ⅱ期：第4・10号掘立柱建物跡がこの時期の遺構である。根石は使用されておらず、建物の棟方向も南北から東西に変化している。第4号掘立柱建物跡は桁行5間、梁行2間であり、第10号掘立柱建物跡は桁行5間、梁行1間で南面4尺、北面6尺の庇（縁）が付く。根石は使用されていないがその規模はⅠ期に劣ることはなく、第31号溝まで25mほどの距離を有し、その間は空地になっている。

Ⅲ期：第3号掘立柱建物跡がこの時期の遺構である。棟方向は東西棟であり、桁行7間、梁行4間で、すべての柱穴に根石が認められた当遺跡最大規模の掘立柱建物跡であるが上屋構造は不明である。この建物も第31号溝から40mほど離れており、その間は空地となっている。

Ⅳ期：第5・7号掘立柱建物跡がこの時期の掘立柱建物跡である。長軸方向が区画溝からややずれているた



第311図 中世掘立柱建物跡の変遷

め、第31号溝が機能しなくなった時期に建てられたものと推定される。しかし、長軸方向にそれほどの違いが認められず、区画溝の意識がまだ残っていたと考えられる。両者とも根石が使用されているが、その規模はⅠ～Ⅲ期に比べると明らかに劣り、これら掘立柱建物跡群の衰退を感じさせる。

このほかにも、第1・6・8・9・12～17号掘立柱建物跡が確認されている。第1号掘立柱建物跡は調査Ⅱ区に位置し、第33号溝に区画されている。時期は14世紀前半と推定され、第31号溝に区画されたⅢ～Ⅳ期の掘立柱建物跡群と時期が一致するが、長軸方向が異なる。また、規模も貧弱であり、相互の関連は低いと考えられる。さらに、第6・9号掘立柱建物跡は第31号溝の内側にあり、根石を伴うが軸が他の掘立柱建物跡とは異なり、性格が不明である。

これら以外のものも、位置や長軸方向から、Ⅰ～Ⅲ期の掘立柱建物跡群よりも下位の施設と考えられ、時期も異なるものと考えられる。なお、第1号掘立柱建物跡は第7・8号井戸跡を伴うことが想定されるが、それ以外では第7・10号掘立柱建物跡と第15・16号井戸跡との関連が考えられるだけであり、中世では建物と井戸で完結した屋敷地が構成されると考えられている<sup>42)</sup>が、当遺跡ではそれらの相関関係については明確ではない。

地形から見て、当時この周辺は中規模河川の沖積耕地と浅い谷田を組み合わせた村落の形成が予想されるが、後背地は水田または畑作化されていたと想定される。このような立地は水田の安定率が低く、小野川のような中規模河川の沖積地は本格的には近世になってから開発されたと考えられている<sup>43)</sup>が、古墳時代、奈良・平安時代から大規模集落が形成されていた当遺跡は、ある程度の生産力をもつ経済基盤が背景にあったものと推定される。また、「2 古墳時代」で述べたように、小野川から霞ヶ浦水系を利用しての交易が可能であり、この時代の古渡津が小野川河口の主要な港として栄えていたのは「第2章第2節 歴史的環境」で述べた通りである。

次に建物跡の規模を見ると、県内での中世掘立柱建物跡で庇（縁）が付くものは、城館跡での発見例を除くと当遺跡以外には4遺跡で9棟が確認されている。それらの大半は15～16世紀以降であり、13～14世紀ではわずかに前田村遺跡第1号掘立柱建物跡<sup>44)</sup>があるだけである。その面積は約29㎡であり、当遺跡Ⅰ～Ⅲ期の建物跡と比べると遙に見劣りしている。県内で確認されているこの時期の掘立柱建物跡の面積はほぼ30㎡以内であり<sup>45)</sup>、特に第3号掘立柱建物跡は中世前期の掘立柱建物跡としては最大規模のものといえる。

出土遺物を見ると、第31号溝からは竜泉窯系青磁や古瀬戸・常滑製品と土師質土器小皿が出土し、周辺の井戸からは白磁口禿皿片も出土している。特にこの土師質土器皿の大半は京都系の非ロクロ成形で、出土土器点数の約80%を占めている。県内でこの時期に京都系の皿が多数出土しているのは前野東遺跡と柴崎遺跡だけであり、出土土器で輸入陶磁や国内陶器よりも、その持つ儀礼的側面からいわゆる「カワラケ」に階級的上位性を認める考えも見られる<sup>46)</sup>。

これらのことから、この掘立柱建物跡群は在地では上位に位置する支配階級の施設と考えられ、建物跡と区画溝の間に存在する広い空地は何らかの公的の機能を果たした広場の可能性も想定できる。当遺跡が所在する地域は、大井荘の荘域であったといわれている<sup>47)</sup>が、田中荘または信太荘の領域内に位置し、信太荘は比較的早い時期の13世紀前葉、田中荘も霜月騒動後の13世紀後葉には北条氏の手に移ったと考えられている<sup>48)</sup>。

13世紀後半から14世紀前葉の間、区画溝を伴う大型の掘立柱建物跡群をもつ屋敷地として栄え、区画溝の機能喪失後規模が縮小してその後消滅した当遺跡の盛衰には、北条氏の進出や南北朝とその後の動乱などの時代背景との関連も想定され、中世前期の当地域の状況が窺える。

## (2) 土壙墓群について

今回の調査で中世末期から近世初期の土壙墓53基が確認されたが、それらは第108号土壙を除いてすべてが第4号溝に重複またはその内側に位置しており、第4号溝に区画される形で墓域を形成している。これらの多くは副葬銭を伴っており、副葬銭の組み合わせによって、Ⅰ期（北宋銭や明銭など渡来銭のみ出土）、Ⅱ期（古寛永銭までが出土）、Ⅲ期（新寛永文銭までが出土）、Ⅳ期（新寛永銅銭までが出土）の4期に時期区分することが可能である。ここではこの時期区分をもとに、土壙墓の変遷と埋葬形態の変化について考えてみる。

Ⅰ期：副葬銭が北宋銭や明銭だけで構成され、時期は16世紀後半から17世紀前葉と考えられる。区画溝（第4号溝）は機能しており、第9・11・36・59・62・76・79・204号土壙がこの時期の土壙墓で、第4号溝内側の北西部を中心に展開している。また、埋葬形態は、すべて屈葬と推定されるが第59号土壙は座葬の可能性も考えられる。

Ⅱ期：副葬銭が古寛永銭だけで構成され、時期は17世紀中葉と考えられる。第17・23・37A・40・90・108号土壙がこの時期の土壙墓であり、第37B号土壙も重複関係からこの時期と考えられる。第4号溝を掘り込んでいるものがあることから第4号溝はすでに埋没して区画機能は失われていたと考えられるが、土壙墓は第4号溝に沿うような形で全体的に散らばって展開している。埋葬形態は、この時期から座葬や伸展葬が見られるようになり、屈葬3基、座葬2基、伸展葬1基と多様化している。

Ⅲ期：副葬銭が新寛永文銭だけ、または古寛永銭に新寛永文銭が含まれる構成で、時期は17世紀後葉と考えられる。第20A・24・38A・38B・44・58・87・95号土壙がこの時期であり、Ⅱ期で散らばっていた土壙墓が南部に集中し、狭い範囲での展開が見られる。埋葬形態は、屈葬5基、座葬3基であり、座葬の1基は棺が使用されたと考えられる。

Ⅳ期：新寛永銅銭だけ、またはそれに古寛永銭や新寛永文銭が含まれる構成で、時期は新寛永銅銭だけのものは18世紀前半、古寛永銭や新寛永文銭が含まれるものは18世紀前葉と考えられる。第22・26・52・55号土壙がこの時期であり、Ⅲ期と同様に南部を中心に展開するが、位置的にはやや北西に移動している。埋葬形態は、屈葬2基、座葬と伸展葬が1基であり、伸展葬は棺が使用されたと考えられる。

Ⅰ～Ⅳ期を通して見ると、土壙墓は、区画溝埋没後も大半が第4号溝の内側から確認されており、Ⅱ～Ⅳ期においても区画溝内が墓域として意識されていたと考えられる。土壙墓群は北西部から次第に南部に移動する傾向が見られるが、時期が不明確な土壙墓も多いために断定はできない。

埋葬形態は、座葬や伸展葬が17世紀中葉から始まり、17世紀後葉には棺使用が明らかなものが現れる。江戸市中では桶館が主体となるのが17世紀代であることを考えると<sup>49)</sup>、後出的ではあるが当地域への導入がさほど遅い時期とは考えられない。しかしながら、臥屈葬はⅠ～Ⅳ期を通して続いており、この中世の系譜を引く埋葬方法が根強く残ることから、当地域における葬送観念が新しい葬制には完全に移行せず、混在する形で残されたものと思われる。

墓制については、笹生衛氏が房総における墓域の在り方を分析した上で、次のような墓域の類型化を行っている<sup>50)</sup>。

A類型：「武士層型墓域」＝蔵骨器を随伴する火葬墓で集石遺構と石塔や板碑を伴う。

B類型：「供養塔・寺院型墓域」＝大型板碑・供養塔の周辺もしくは寺院内境内に蔵骨器を有する火葬墓を中心として土葬甕棺墓・土壙墓で構成され、被葬者は僧侶層やそれに帰依した武士層で多くの板碑を伴う。

C類型：「土豪層主導型墓域」＝少数の火葬土坑もあるが多数の土壙墓に地下式壙が付随し、多数の石塔・



第312図 土壙墓群の変遷

板碑を伴う。

D類型：「上層農民主導型墓域」= 多数の土壙墓を中心に火葬土坑・地下式壙が伴うが板碑が極端に少ない。

E類型：「農民層屋敷・垣内墓型墓域」= 小規模で土壙墓の数が少なく板碑もほとんど使用されない。

こうした中世的墓制は10～11世紀に萌芽が見られ、13世紀後半から14世紀前半にA・B類型、14世紀中葉から後半にC類型、14世紀末葉から15世紀前半にD・E類型が登場し、16～17世紀に中世墓が終焉し、廃絶するかあるいは近世墓へと連続するという変遷をたどる。これに基づくと、当遺跡の墓域は時期的に中世墓の終焉期に位置づけられるが、地下式壙や方形竪穴遺構、火葬土坑、火葬墓といった中世的墓制の遺構がまったく検出されておらず、完全に近世の墓制に移行した段階と考えられる。しかし、石塔類の出土数が多く、前述したように中世の系譜を引く埋葬方法が根強く残ることは、笹生氏のC・Dタイプの系譜を引く可能性が考えられる。江戸時代にこの地域は由良氏の知行地となるが、当時の梶内村の代官は在地の有力者層が務めたといわれており<sup>51)</sup>、これら有力者層や上層農民層の主導のもとに墓域が形成され、近世にも続いたものと想定される。

明治時代前期の地図を見ると<sup>52)</sup>、当遺跡の西側に旧梶内村、浅い谷津を挟んで東側に旧新牧田村の集落が形成されており、おそらくこの時代には前代と同様の集落が成立していたと推定され、塊状に集まった集落の外に耕地が存在し、さらにその外側に墓域が作られ、そこから浅い谷津を挟んで隣村に至る当時の景観を想定することができる。

掲載不可

第313図 明治時代前期の梶内村（註24文献より転載）

註

- 1) 古墳時代の年代観については、櫻村宣行氏の編年（櫻村1993・1999）に基づいた。
- 2) 橋本博文氏は「首長居宅」を使用していたが（註14）、1998年に行われた第8回東日本埋蔵文化研究会のシンポジウムでは「居館」（橋本1998）の名称を使用している。大平聡氏は、特定血縁集団による首長権の独占が未成立の状況では「豪族」という語は馴染まないことから、首長が首長としての役割を果たす施設として「首長館」（大平1998）という名称を提唱している。また、寺沢薫氏は「首長居館」を使用しているが、中・小規模のものについては、「居館」という巨大性・隔絶性や独立的防塞性、祭祀性が薄いことから、むしろ「首長居宅」といった用語が適していると思えるが、今は用語にこだわらず、「首長居館」で統一しておきたい（註10）と述べている。
- 3) 阿部義平「豪族居館と邸宅」『季刊考古学』36号 吉川弘文館 1991年
- 4) 小笠原好彦「豪族居館の出現と展開」『月刊考古学ジャーナル』No.384 ニューサイエンス社 1995年
- 5) 石井克美「黒井峯遺跡の調査」『日本歴史』第463号 吉川弘文館 1986年
- 6) 都出比呂志『日本農耕社会の成立過程』岩波書店 1989年
- 7) 註6同書

- 8) 都出比呂志「古墳時代首長の政治拠点」『論苑考古学』天山舎 1993年
- 9) 広瀬和雄「古墳時代首長居館論」『展望 考古学』考古学研究会 1995年
- 10) 寺沢薫「古墳時代の首長居館」『古代学研究』141 古代学研究会 1998年
- 11) 「圏央道地質調査10K15-4・5, 7K2-2・3・7」による。国土交通省常総国道工事事務所のご厚意により、資料を提供して頂いた。
- 12) 豊崎卓「常陸の駅屋と駅道」『古代学』15—1 古代学協会 1968年  
木下良『古代を考える古代古道』吉川弘文館 1996年
- 13) 阿久津久「常陸国の成り立ち」『図説 茨城県の歴史』河出書房新社 1995年
- 14) 橋本博文「古墳時代における首長居宅（総論）」『月刊考古学ジャーナル』No289 ニューサイエンス社 1988年
- 15) 広瀬和雄氏は5・6世紀の集落について、「1棟の住居に1世帯が居住し、倉庫を共有する世帯の複合」を「古代家族」とした石母田正氏の説（石母田1942）を援用し、この「古代家族」は2～5世帯で構成され、2～3の「古代家族」で1個の集落が形成されると考えた（広瀬1994）。当遺跡で確認された範囲では「集落」の様相をなしてはいないが、まさに「古代家族」が散居する様相といえる。
- 16) 註9同書
- 17) 谷田部町（現つくば市）教育委員会『下横場古墳群（南中妻179番地） 実測調査及び第51号墳保存調査報告書』1982年 18) 大井古墳群発掘調査団『大井古墳群』1975年
- 19) 『谷田部の歴史』口絵写真に掲載されている女子埴輪は、器を掲げない無所作の形態を示している。この形態は、塚田良道氏は（塚田2002）、6世紀前葉から中葉に見られ始め、6世紀後葉から7世紀初頭の時期に飛躍的に増加するとしている。
- 20) 白石太郎「常陸の後期・終末期古墳と風土記建評記事」『国立歴史民俗博物館研究報告』第35集 1991年
- 21) 註20同書
- 22) 『新編常陸国誌』 崙書房（宮崎報恩会版 1979年復刻版）
- 23) 久信田喜一『『和名抄』にみえる古代の郷名と竜ヶ崎地方』『竜ヶ崎市史研究』第10号 1998年
- 24) 地図資料編纂会『明治前期関東地方地誌図集成』柏書房 1989年
- 25) 小笠原氏は居館の面積が7,000㎡以上を「大型居館」、2,000～7,000㎡を「中型居館」、2,000㎡未満を「小型居館」と分類されている（小笠原1991）。また、寺沢氏は規模によりAランク＝「超大形」（15,000㎡前後）、Bランク＝「大形」（10,000㎡前後）、Cランク＝「中形」（3,000～7,000㎡程度）、Dランク＝「小形」（1,000～2,500㎡前後）、Eランク＝「極小形」（約1,000㎡以下）に分類している（註10）。
- 26) 群馬県埋蔵文化財調査事業団『三ツ寺I遺跡』1986年
- 27) 伊勢崎市教育委員会『原之城遺跡発掘調査報告書』1988年
- 28) 富岡市教育委員会『本宿・郷戸遺跡』1992年
- 29) 埼玉県行田市埼玉遺跡は、昭和初期の航空写真や耕地整理前の地積図から、二重堀によって区画された居館跡と推定されているが未調査である。地積図から推定された規模は外郭約204×135mで、埼玉古墳群を造営した首長一族の可能性が考えられている（栗原1993）。
- 30) 塩川町教育委員会「塩川西部地区遺跡発掘調査報告書4 古屋敷遺跡」『塩川町文化財調査報告第6集』1999年
- 31) 静岡県袋井市坂尻遺跡は、集落を区画する溝の外側を大溝が蛇行し（鈴木1998）、居館のような整然とした方形区画とは異なる形態である。他に、福岡県吉井町生葉遺跡や佐賀県中原町佐賀古賀遺跡のように、三重の濠が巡る事例が筑後川から有明海沿岸で確認されている。しかしこれらは3～4世紀のものであり、寺沢氏はその系譜について三重濠をもつ低地の弥生環壕集落や、さらに遡って中国江蘇省常州市淹城の築城思想に求めており（註10）、当遺跡とは明らかに異なる事例である。
- 32) この時期の首長層の所有形態について、吉田晶氏は4～5世紀の共同体的所有から、6世紀には首長が階級的支配者に転化し、私地としての田荘や私民としての部曲を所有するに至ったとしている（吉田1980）。従って、首長と

しての「私富」が形成され、それを何らかの形で保管していたことが予想される。

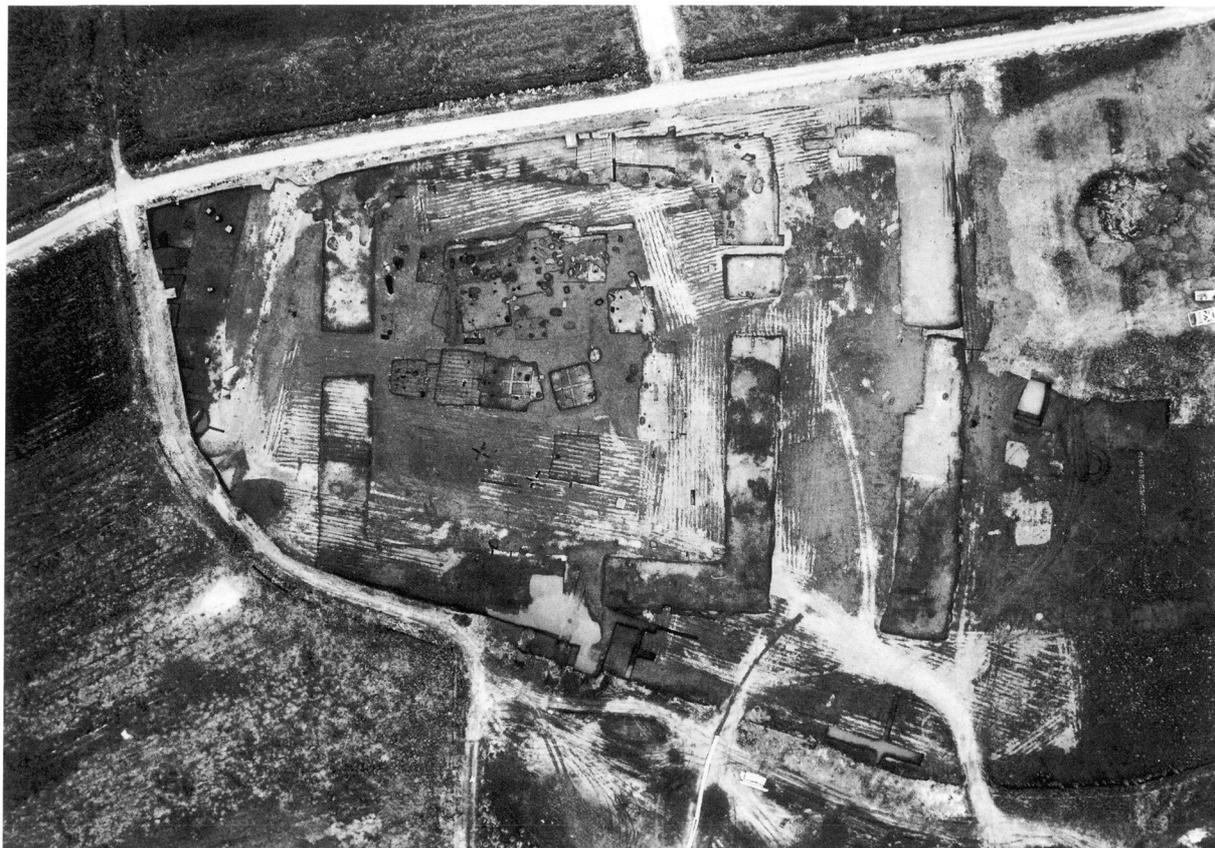
- 33) 辰巳和弘氏によれば、「ハレの空間」とは濠や溝を巡らすだけでなく、その内側にさらに柵や板塀を立て巡らせ、外部からの祭祀空間への直視を拒み、内地を聖地化する意図でつくられ、祭儀の中心となる大型建物1棟、あるいはそれに付属する1～数棟で構成され、正面に広場があるとしている（辰巳1991）。
- 34) 橋本博文「関東北部の豪族居館」『季刊考古学』第36号 吉川弘文館 1991年
- 35) 註10同書
- 36) 吹野富美夫「常陸南部における古墳時代後期の土器様相」『列島の考古学』渡辺誠先生還暦記念論集刊行会 1998年
- 37) 田中広明「関東西部における律令制成立期までの土器様相と歴史的動向」『東国土器研究』第4号 東国土器研究会 1995年
- 38) 坂野和信「日本仏教導入期の特質と東国社会」『埼玉考古』第36号 埼玉考古学会 1997年
- 39) 当遺跡で出土している土師器甕は、須恵器坏身模倣のH類坏と相伴しているにも係わらず、口縁端部につまみ上げが施されたもの（常総甕）が少なく、県南部でも他地域とは異なる様相が見られる。
- 40) 奈良・平安時代の年代観については、赤井博之・浅井哲也氏の編年（赤井1998・浅井1992）に基づいた。
- 41) 中・近世の年代観については、国内陶器については中野晴久・藤澤良介氏の編年（中野1994、藤澤1982・1991・1993）、在地土器については服部敬史・桃崎祐輔氏の編年（服部1996・1997、桃崎1999）と川村の編年案（川村2001）に基づいた。
- 42) 笹生衛「東国中世村落の景観変化と画期—西上総、周東・周西郡内の事例を中心に—」『千葉県史研究』第7号 1999年
- 43) 原田信男『中世村落の景観と生活—関東平野東部を中心として—』思文閣出版 1999年
- 44) 茨城県教育財団「伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書4 前田村遺跡G・H・I区」『茨城県教育財団調査報告』第146集 1999年
- 45) 他には前田村遺跡第2・3号掘立柱建物跡と入ノ上遺跡第1・3～5号掘立柱建物跡がこの時期のものとして報告されている（大関2000）。
- 46) 宇野隆『荘園の考古学』青木書店 2001年
- 47) 竹内理三編『角川日本地名大辞典 8 茨城県』角川書店 1973年
- 48) 網野善彦氏は、承久の乱で小田知家の子知尚が京方についたことから、信太荘の地頭職が小田氏から北条政村に移ったのはそれが契機ではないかとしている。また、田中荘については、霜月騒動で小田一族の田中筑後五郎左衛門尉と田中筑後四郎が安達泰盛ともに自害していることから、この時に没収され、北条氏の支配下になったと考証している（網野1972）。
- 49) 長佐古真也「発掘事例に見る多摩丘陵の墓制」『江戸時代の墓と葬制』江戸遺跡研究会 1996年
- 50) 笹生衛「東国における中世墓地の諸相—房総の事例を中心に—」『研究紀要』16号 千葉県文化財センター 1995年
- 51) 谷田部の歴史編さん委員会『谷田部の歴史』 谷田部町（現つくば市）教育委員会 1975年
- 52) 註24同書

#### 参考文献

- ・ 赤井博之「古代常陸国新治窯跡群の基礎研究（1）」『婆良岐考古』第20号 婆良岐考古同人会 1998年
- ・ 阿久津久・片平雅俊「常陸の後期古墳の様相」『国立歴史民俗博物館研究報告』第44集1992年
- ・ 浅井哲也「茨城県内における奈良・平安時代の土器（I）」『研究ノート』創刊号 茨城県教育財団 1992年
- ・ 阿部義平・小笠原好彦「豪族居館研究と課題」『季刊考古学』第36号 吉川弘文館 1991年

- ・網野善彦「常陸国における荘園・公領と諸勢力の消長（上）」『茨城県史研究』23号 1972年
- ・石母田正「古代家族の形成過程」『社会経済史学』12—6 岩波書店 1942年（臨川書店復刻版）
- ・井上唯雄・下城正「群馬県における豪族の居館跡」『月刊考古学ジャーナル』No289 ニューサイエンス社 1988年
- ・大関武「茨城県における中・近世集落の諸問題—掘立柱建物跡を中心として—」『東北地方南部における中近世集落の諸問題—掘立柱建物跡を中心にして—』福島県考古学会中近世部会 2000年
- ・大平聡「古代史からみた豪族居館」『季刊考古学』第36号 吉川弘文館 1991年  
「古代史と豪族居館」『古墳時代の豪族居館をめぐる諸問題』東日本埋蔵文化財研究会 1998年
- ・小笠原好彦「家形埴輪の配置と古墳時代豪族の居館」『考古学研究』124号 考古学研究会 1985年  
「住居と倉と井戸」『古墳時代の研究2 集落と豪族居館』雄山閣 1990年
- ・櫻村宣行「茨城県南部における鬼高式土器について」『研究ノート』2号 茨城県教育財団 1993年
- ・櫻村宣行・土生朗治・白石真理「茨城県における5世紀の動向」『東国土器研究』5号 東国土器研究会 1999年
- ・川村満博「つくば市小泉館跡出土の非ロクロ成形かわらけについて」『研究ノート』10号 茨城県教育財団 2001年
- ・栗原文蔵「埼玉古墳群中の大古墳跡」『埼玉考古第30号記念号』1993年 埼玉考古学会
- ・菊地芳朗「東北地方の古墳時代の集落—その構造と特質—」『考古学研究』188号 考古学研究会 2001年
- ・坂本和俊「シンポジウム 古墳時代の豪族居館をめぐる諸問題開催にむけて」『古墳時代の豪族居館をめぐる諸問題』東日本埋蔵文化財研究会 1998年
- ・坂靖「古墳時代の階層別にみた居宅」『古代学研究』141 古代学研究会 1998年
- ・塩谷修「5 茨城」『古墳時代の研究11 地域の古墳II 東日本』雄山閣 1990年  
「終末期古墳の地域相—茨城県桜川河口の事例から—」『土浦市博物館研究紀要』第4号 土浦市立博物館 1992年
- ・鈴木敏則「坂尻遺跡」『古墳時代の豪族居館をめぐる諸問題』東日本埋蔵文化財研究会 1998年
- ・辰巳和弘「豪族居館と祭祀」『季刊考古学』第36号 吉川弘文館 1991年
- ・塚田良道「人物埴輪の展開」『考古学研究』194号 考古学研究会 2002年
- ・都出比呂志「古墳時代の豪族居館」『岩波講座 日本通史 第2巻古代1』岩波書店 1993年
- ・利根川章彦「東国の群集墳」『東国と大和王権』吉川弘文館 1994年
- ・中野晴久「赤羽・中野 生産地における編年について」『全国シンポジウム「常滑焼きをおって」資料集』日本福祉大学知多半島総合研究所 1994年
- ・中山晋「栃木県における豪族の居館跡」『月刊考古学ジャーナル』No289 ニューサイエンス社 1988年
- ・橋本博文「古墳時代豪族居館研究の課題」『古墳時代の豪族居館をめぐる諸問題』東日本埋蔵文化財研究会 1998年
- ・服部敬史「東国における十五・十六世紀の土師器皿様相」『八王子の歴史と文化』第9号 八王子市郷土資料館 1996年  
「中世食器の地域性 3 関東・甲信」『国立歴史民俗博物館研究報告』第71集1997年
- ・広瀬和雄「考古学から見た古代の村落」『岩波講座 日本通史 第3巻古代2』岩波書店 1994年
- ・藤澤良祐「古瀬戸中期様式の成立過程」『東洋陶磁』8 東洋陶磁学会 1982年  
「瀬戸古窯址群II—古瀬戸後期様式の編年—」『研究紀要X』瀬戸市歴史民俗資料館 1991年  
「瀬戸大窯の時代」『瀬戸市史 陶磁史編』4 1993年
- ・前澤和之「上野の豪族と居館」『季刊考古学』第36号 吉川弘文館 1991年
- ・桃崎祐輔「常総地域の中世陶磁と土器」『焼き物にみる中世の世界』上高津貝塚ふるさと歴史の広場 1999年
- ・吉田晶『日本古代村落史序説』塙書房 1980年

# 写真図版

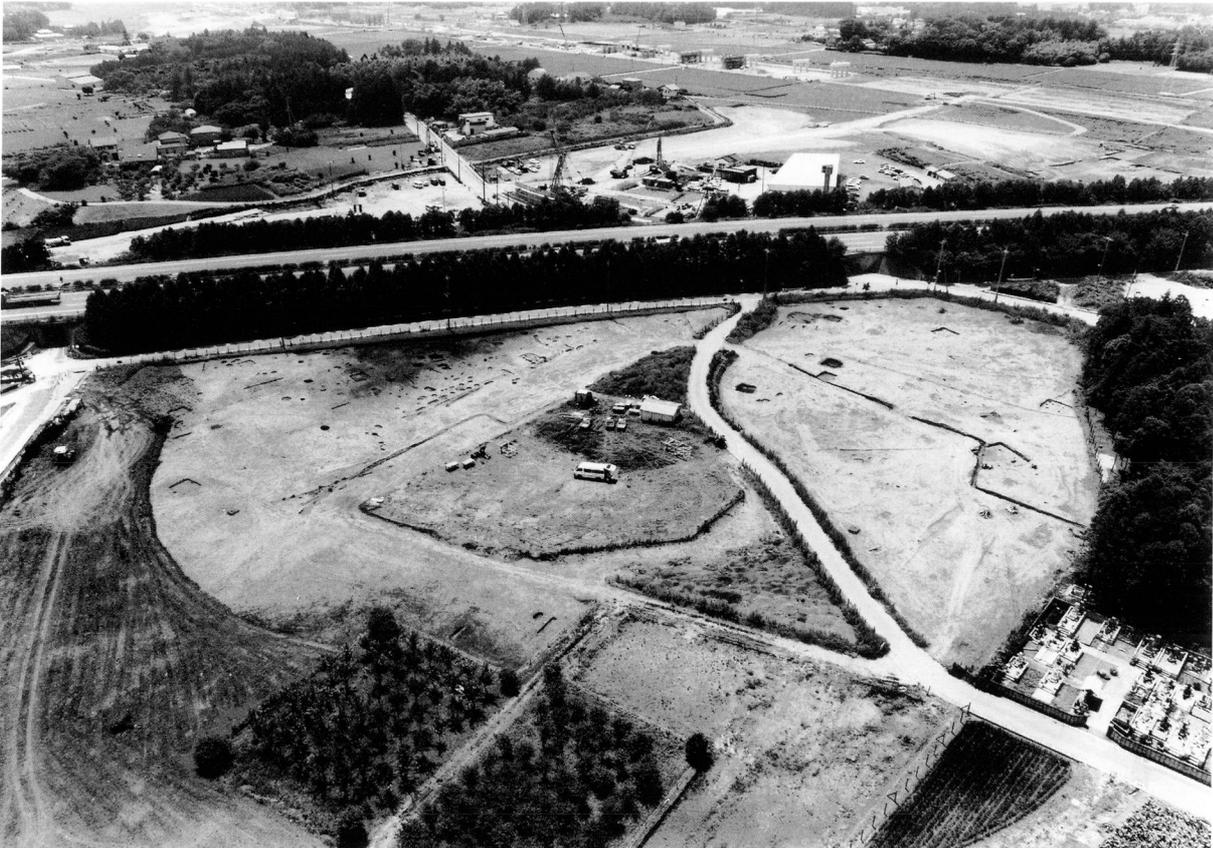


居館跡全景

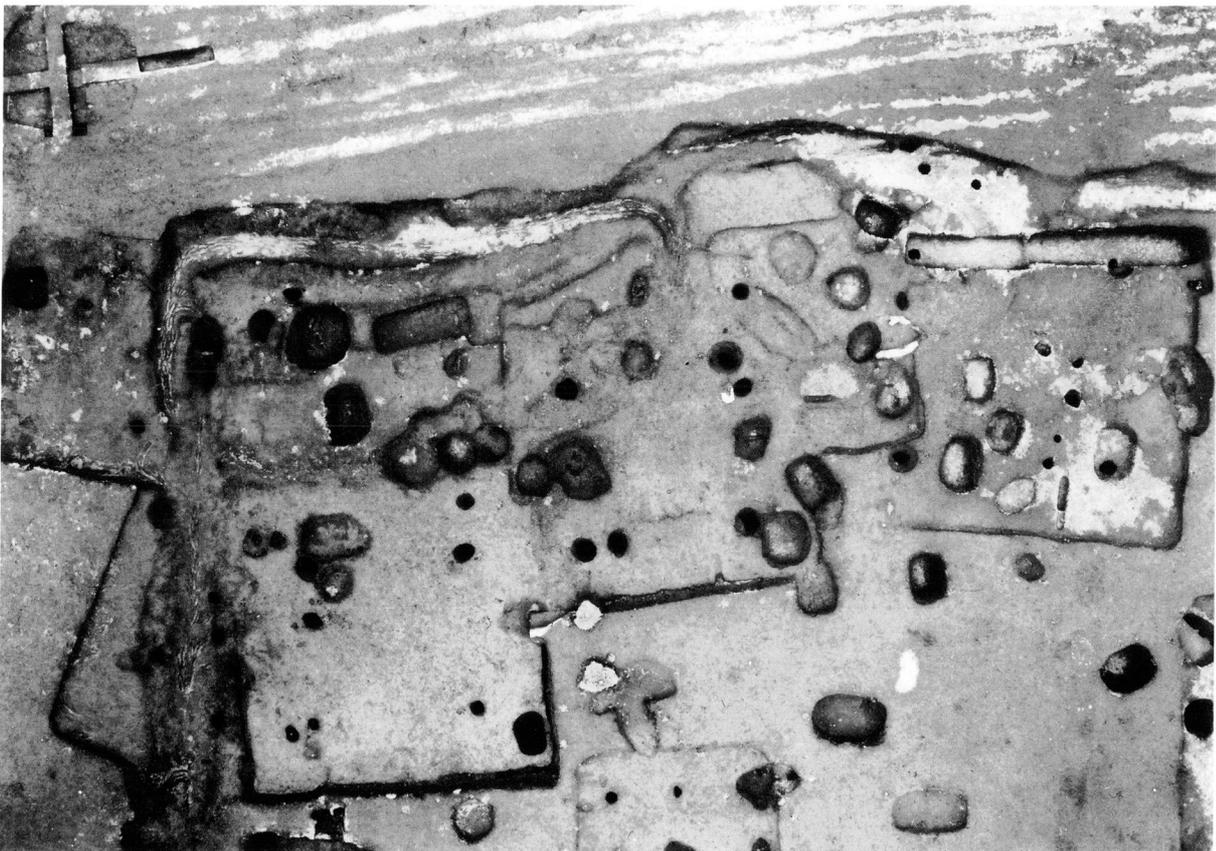


調査I区 第31・32号溝と掘立柱建物跡群全景

PL 2



調査Ⅱ区全景



調査Ⅰ区土壌墓群全景

居館跡北東部



第 1 号 堀  
完 掘 状 況



居館跡の保存  
(山砂による埋め戻し)



PL 4



第 2 号 堀  
土 壇 部



第 2 号 堀  
スロープ状施設



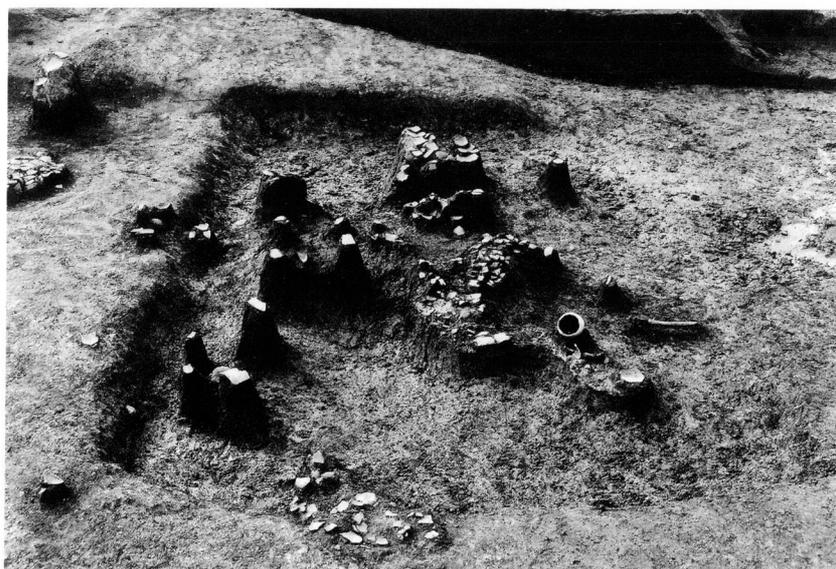
第 3 号 堀  
張 り 出 し 部



第2号堀西部  
遺物出土状況



第2号堀スロープ状施設  
付近遺物出土状況

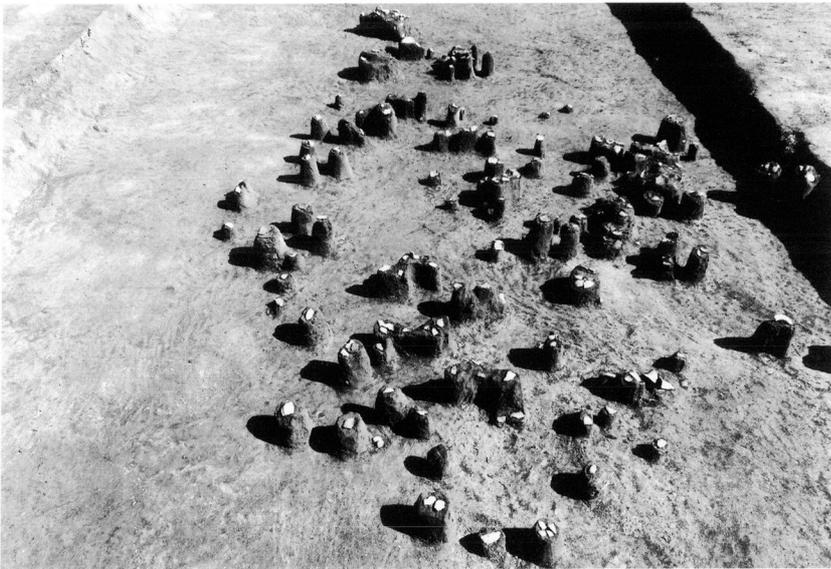


第2号堀縦穴状掘り込み  
遺物出土状況

PL 6



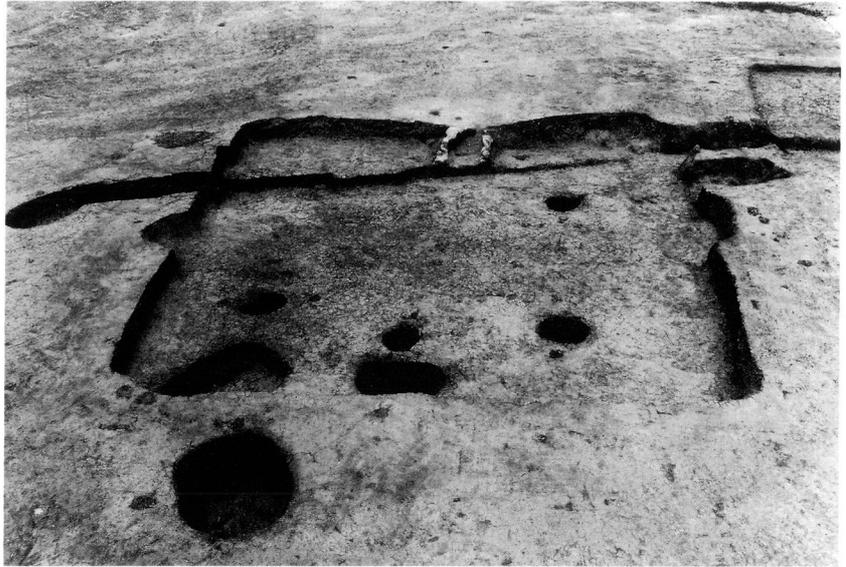
第2号堀第1号土橋付近  
遺物出土状況



第2号堀第2号土橋付近  
遺物出土状況



第3号堀張り出し部付近  
遺物出土状況



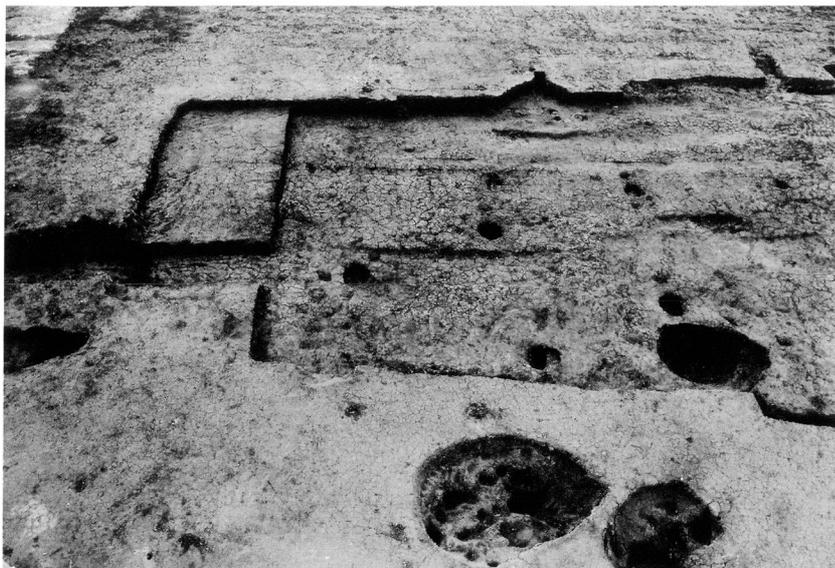
第 1 号住居跡  
完 掘 状 況



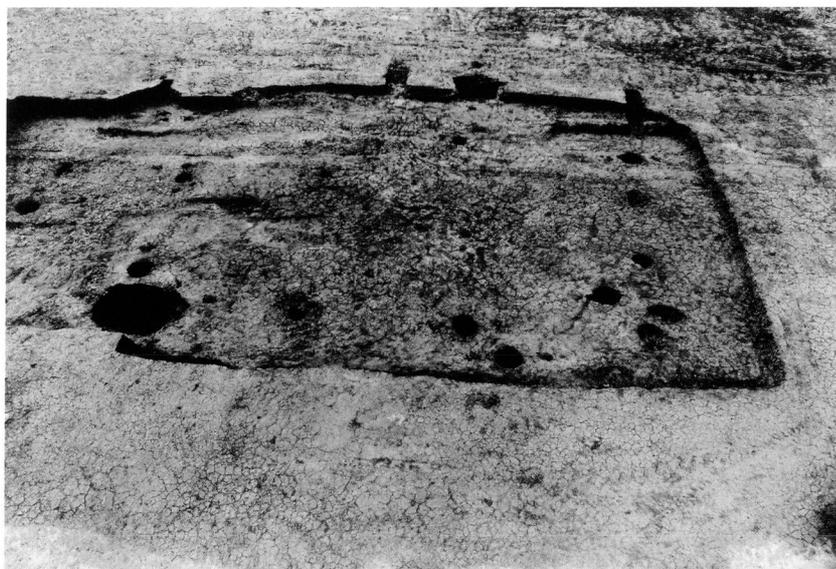
第 1 号住居跡  
遺物出土狀況



第 1 号住居跡竈  
完 掘 状 況



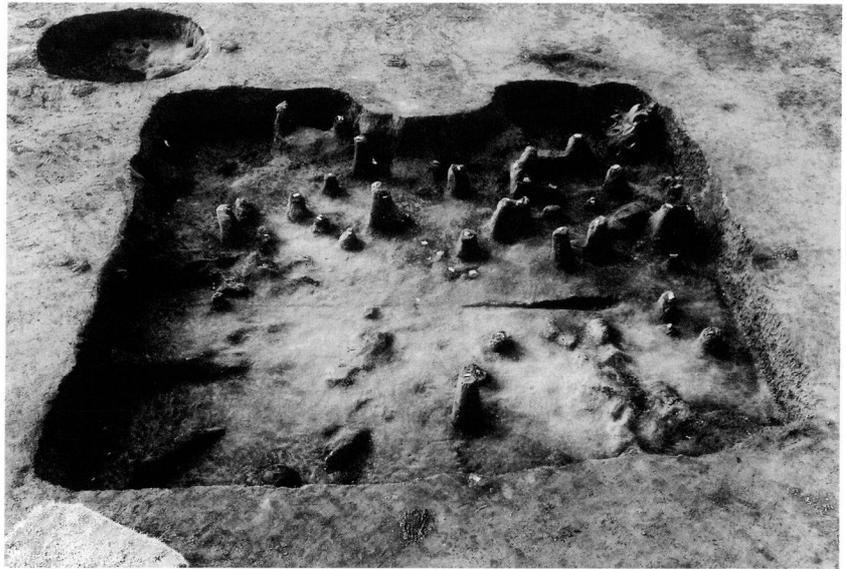
第 2・20号住居跡  
完 掘 状 況



第 3号住居跡  
完 掘 状 況



第 4号住居跡  
完 掘 状 況



第 4 号住居跡  
遺物出土狀況



第 4 号住居跡竈  
遺物出土狀況



第 5・6 号住居跡  
完 掘 状 況

PL10



第7号住居跡  
完掘狀況



第7号住居跡  
遺物出土狀況



第8号住居跡  
完掘狀況



第 8 号住居跡  
遺物出土狀況

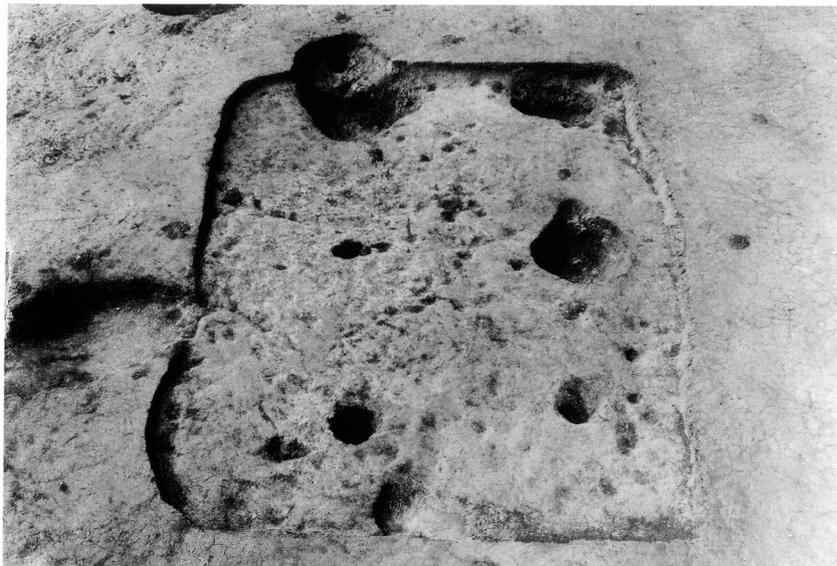


第 9 号住居跡  
完 掘 状 况



第10・14・21号住居跡  
完 掘 状 况

PL12



第12号住居跡  
完掘狀況

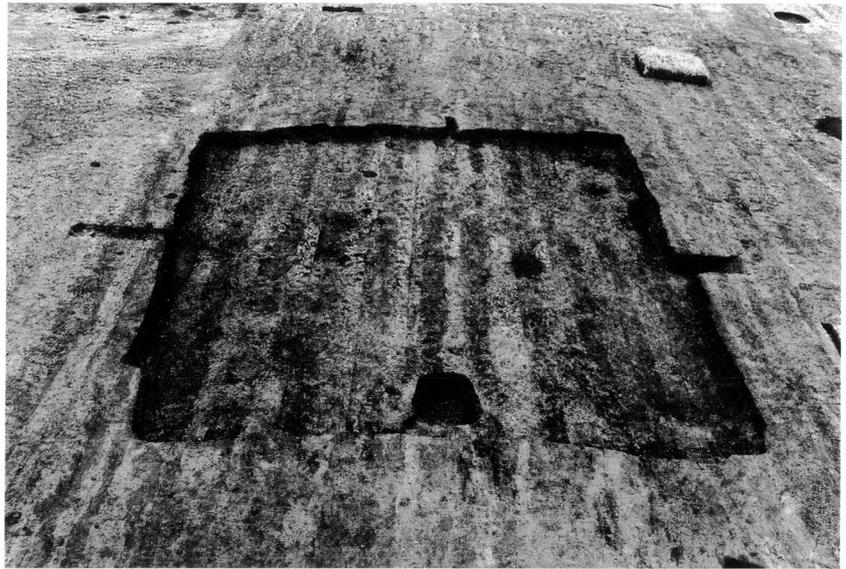


第13号住居跡  
完掘狀況

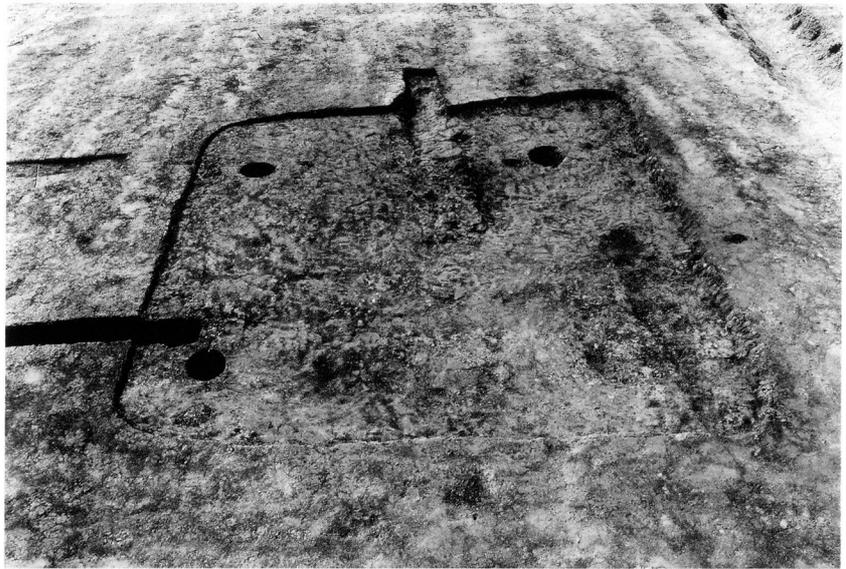


第13号住居跡  
遺物出土狀況

第15号住居跡  
完掘状況



第19号住居跡  
完掘状況



第22号住居跡  
完掘状況



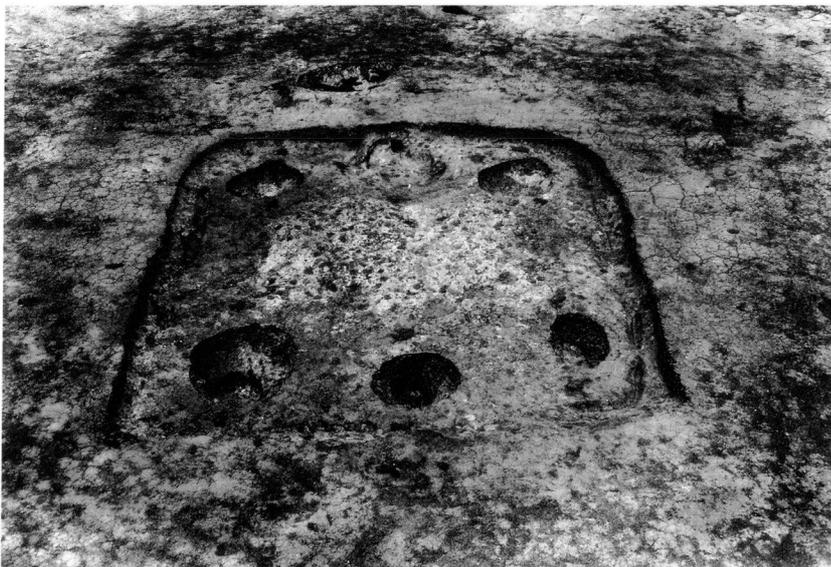
PL14



第23A・23B号住居跡  
完掘状況

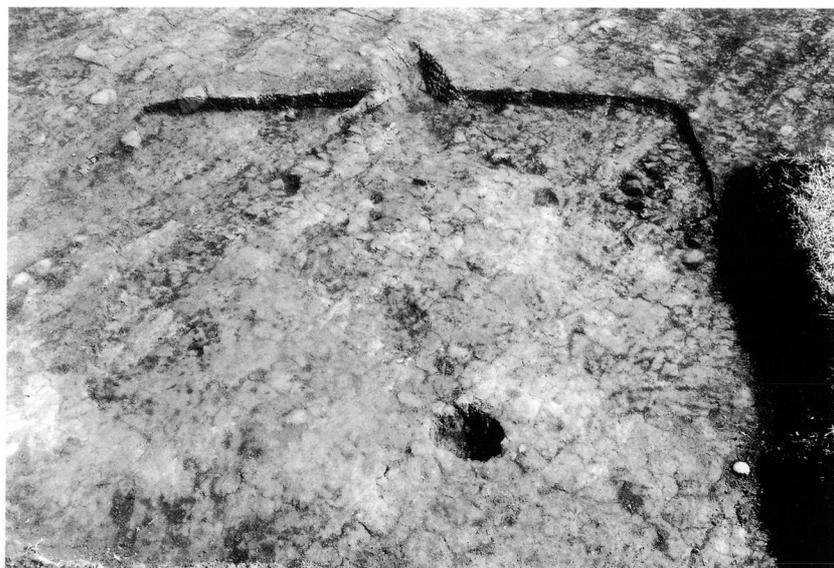


第24号住居跡  
完掘状況



第25号住居跡  
完掘状況

第27号住居跡  
完掘状況



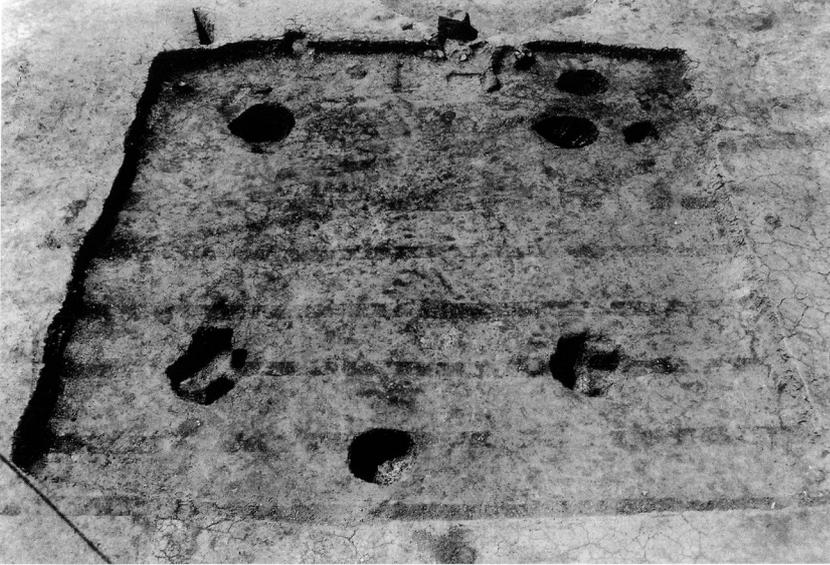
第28号住居跡  
完掘状況



第29号住居跡  
完掘状況



PL16



第30号住居跡  
完掘狀況



第31号住居跡  
遺物出土狀況

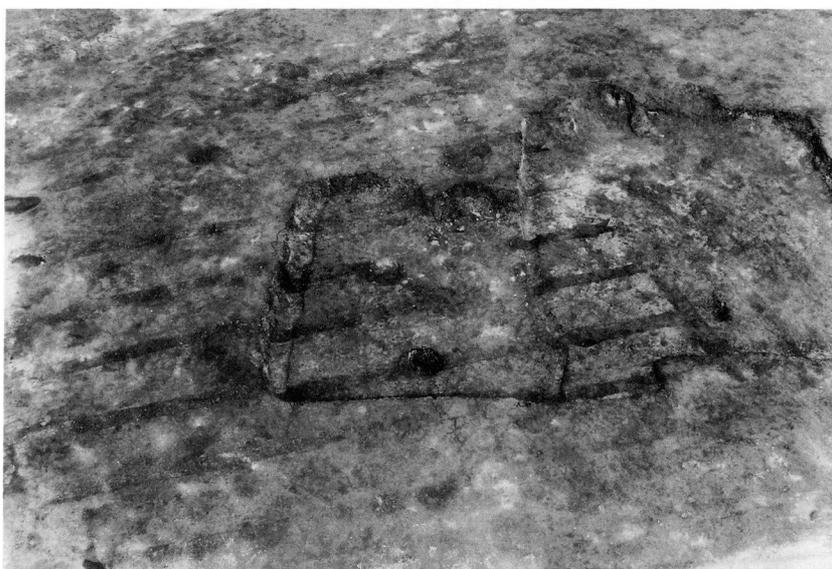


第38号住居跡  
完掘狀況

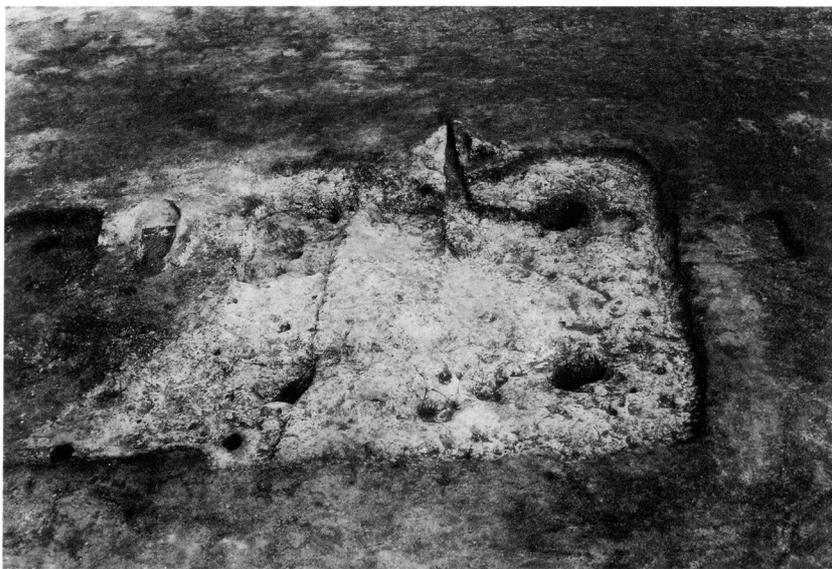
第39B号住居跡  
完掘状況



第40・41号住居跡  
完掘状況



第41号住居跡  
掘り方完掘状況



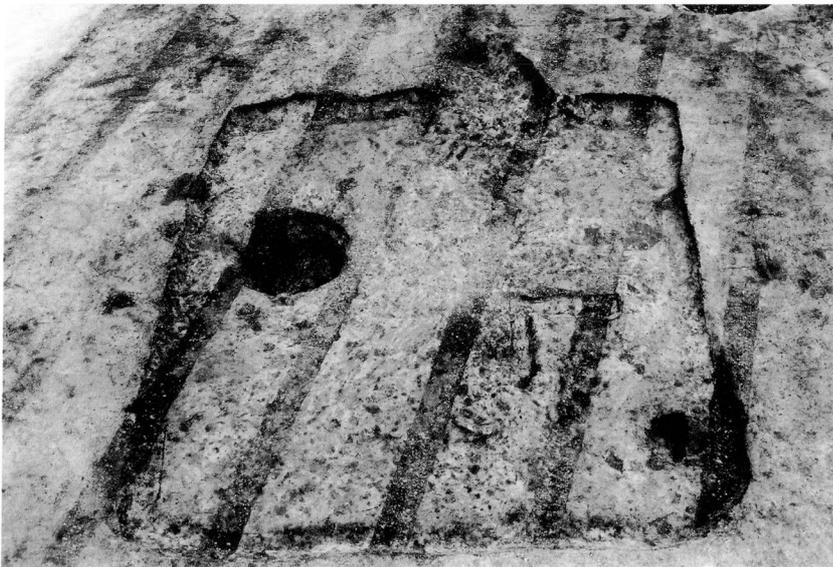
PL18



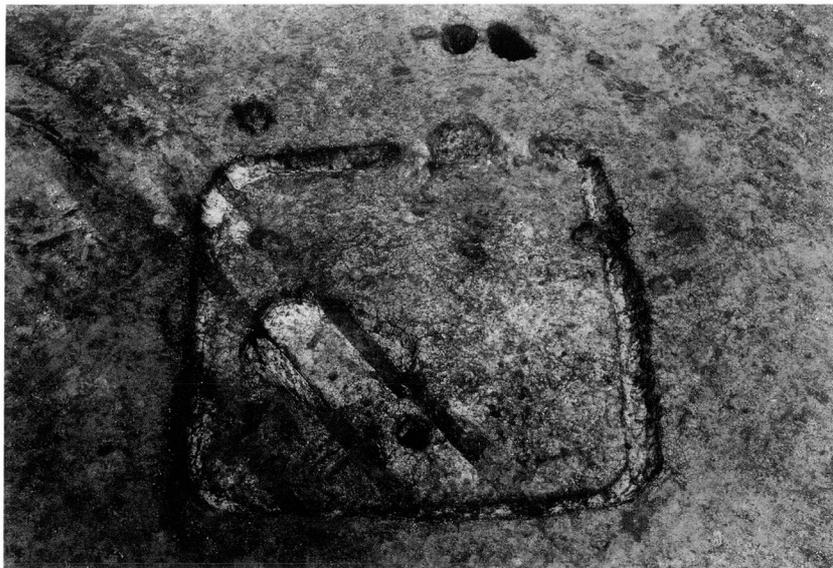
第43号住居跡  
完掘狀況



第43号住居跡  
遺物出土狀況



第44号住居跡  
完掘狀況



第46号住居跡  
完掘状況



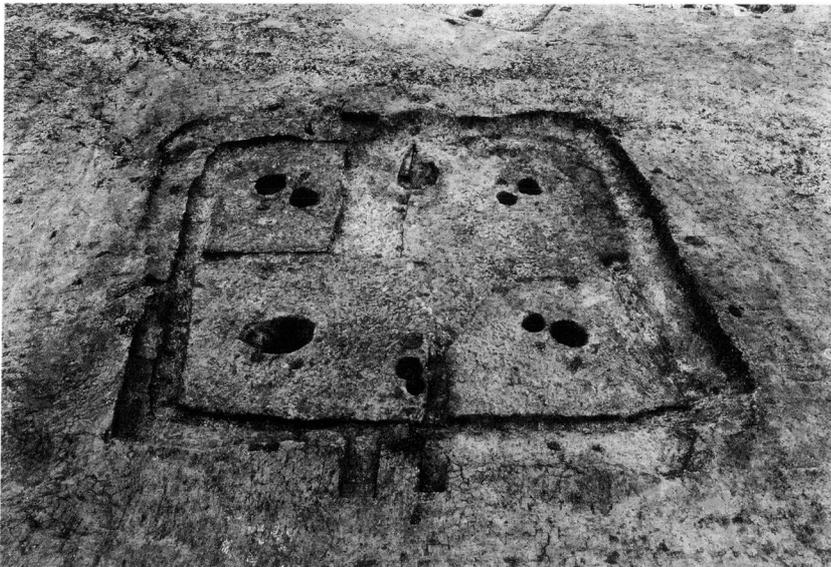
第46号住居跡竈  
遺物出土状況



第47号住居跡  
遺物出土状況



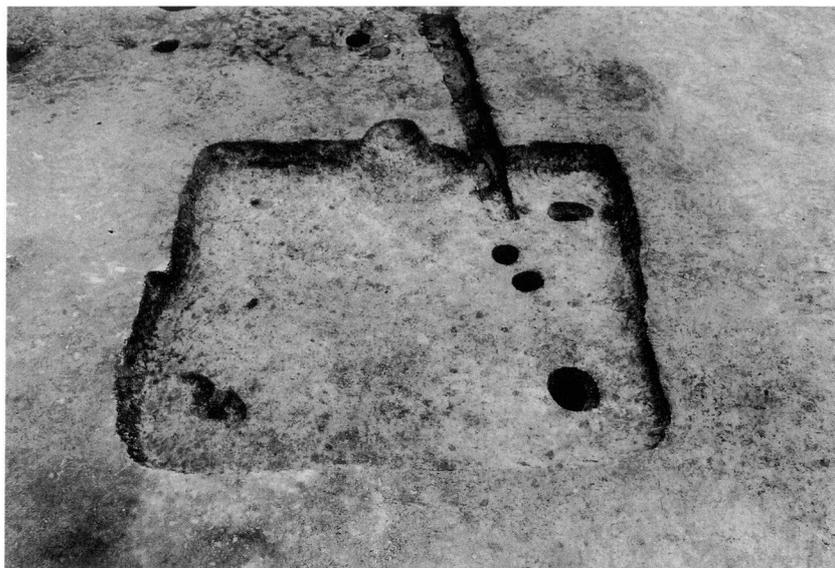
第47A号住居跡  
完掘狀況



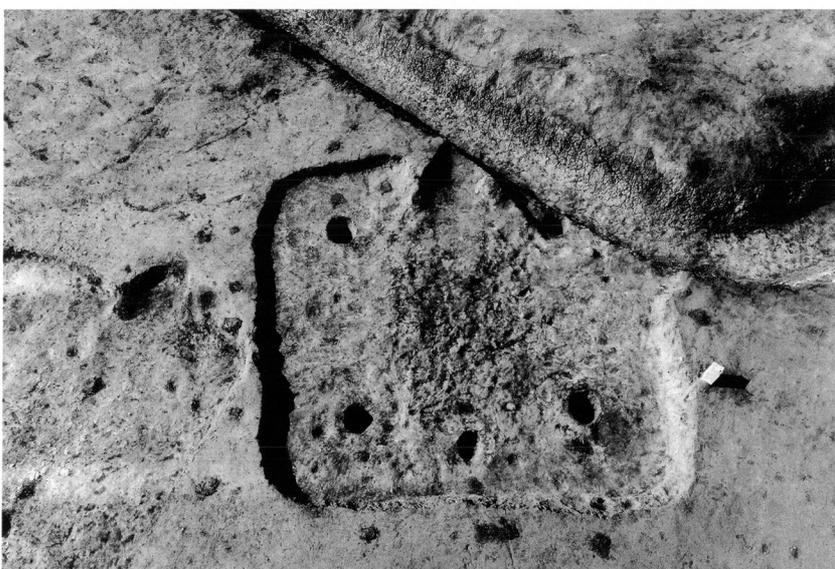
第47B号住居跡  
完掘狀況



第48号住居跡，第8号掘立柱  
建物跡完掘狀況



第52号住居跡  
完掘狀況

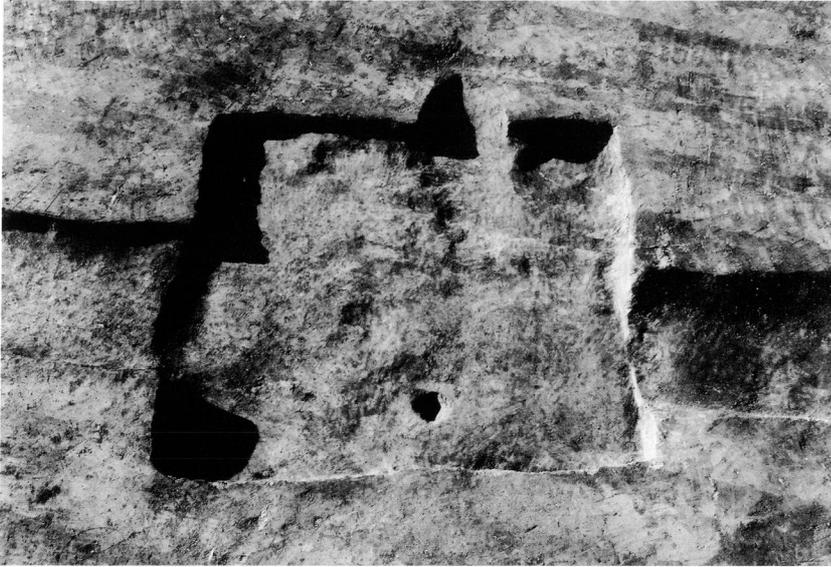


第53号住居跡  
完掘狀況



第59号住居跡  
完掘狀況

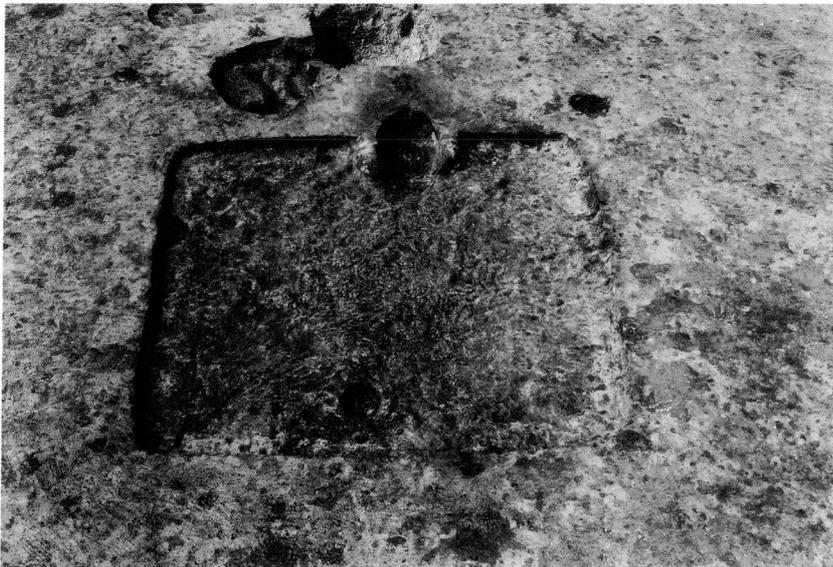
PL22



第60号住居跡  
完掘状況



第61号住居跡  
完掘状況

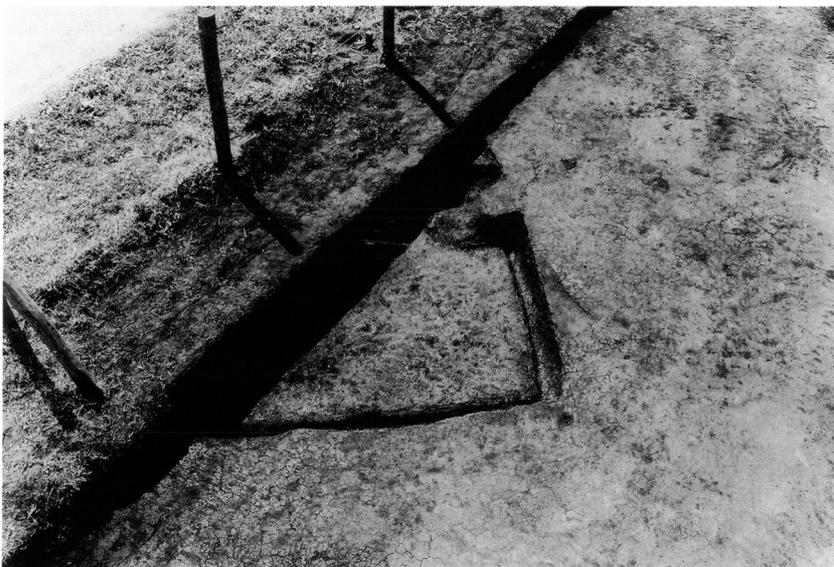


第62A号住居跡  
完掘状況

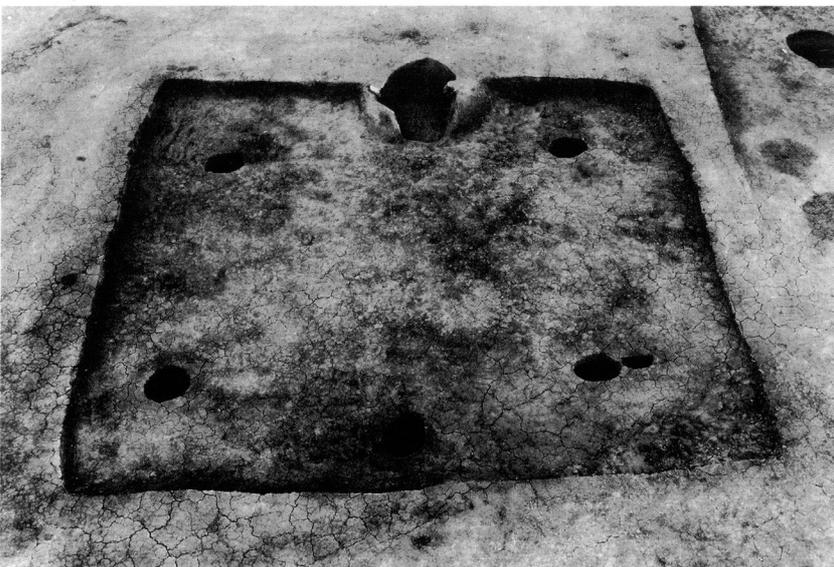
第62B号住居跡  
完掘状況

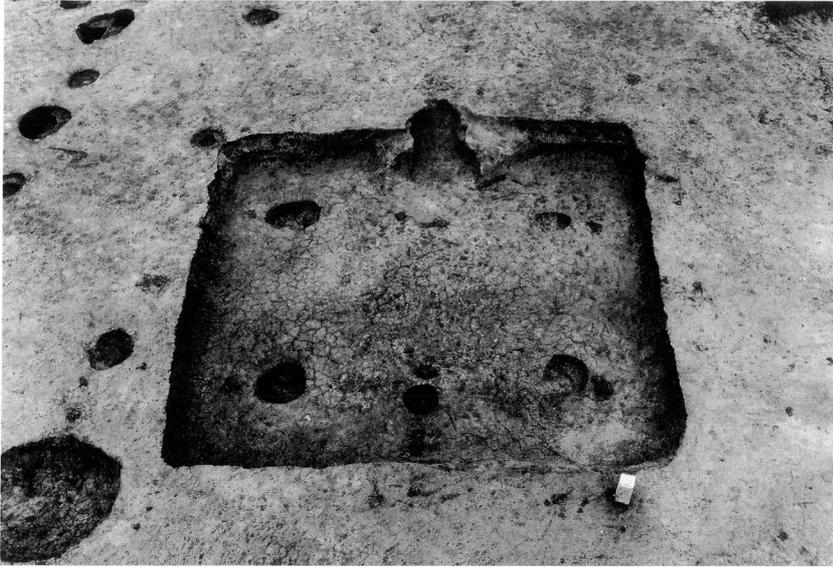


第63号住居跡  
完掘状況

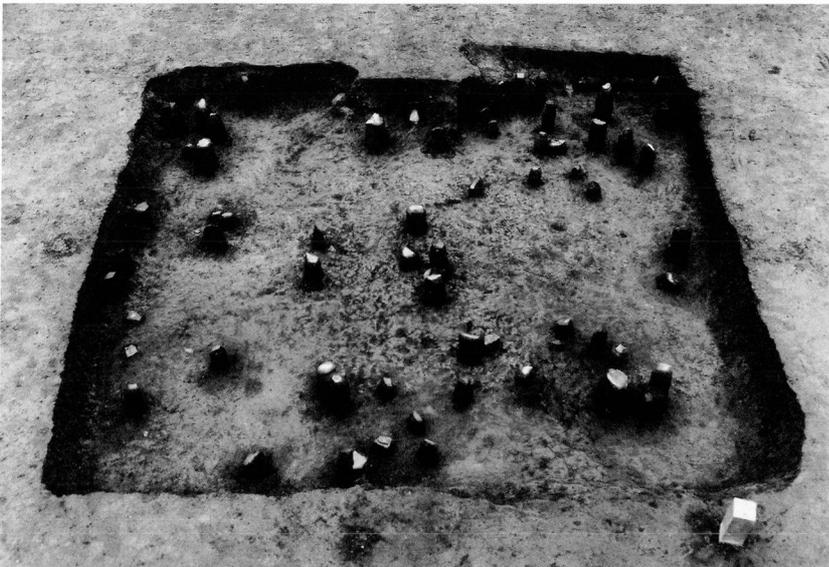


第64号住居跡  
完掘状況

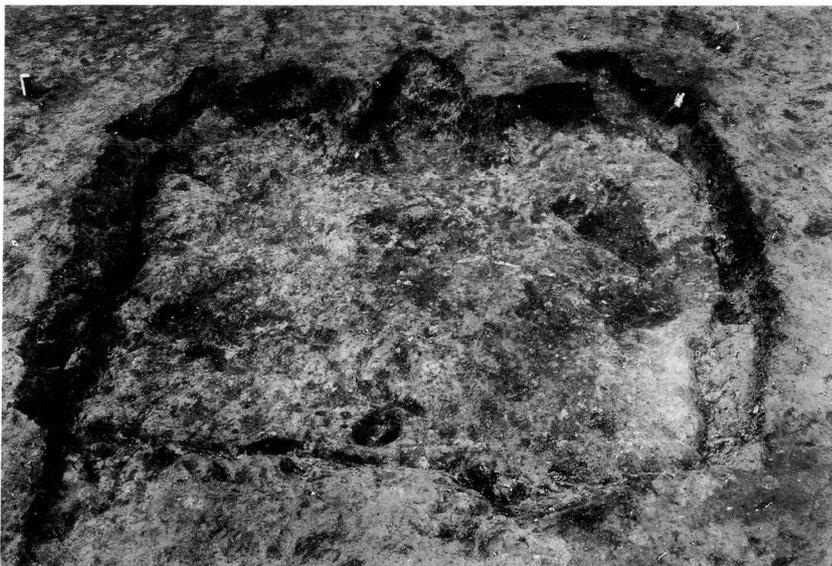




第68号住居跡  
完掘状況

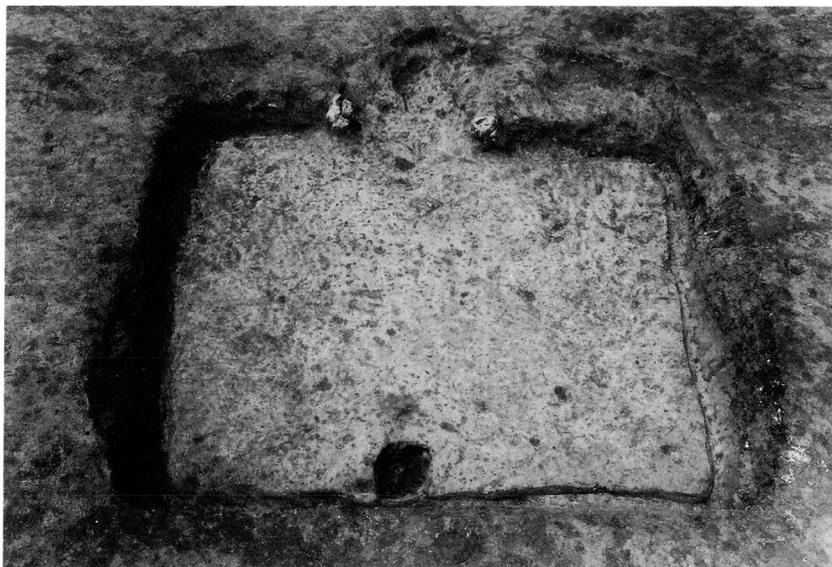


第68号住居跡  
遺物出土状況

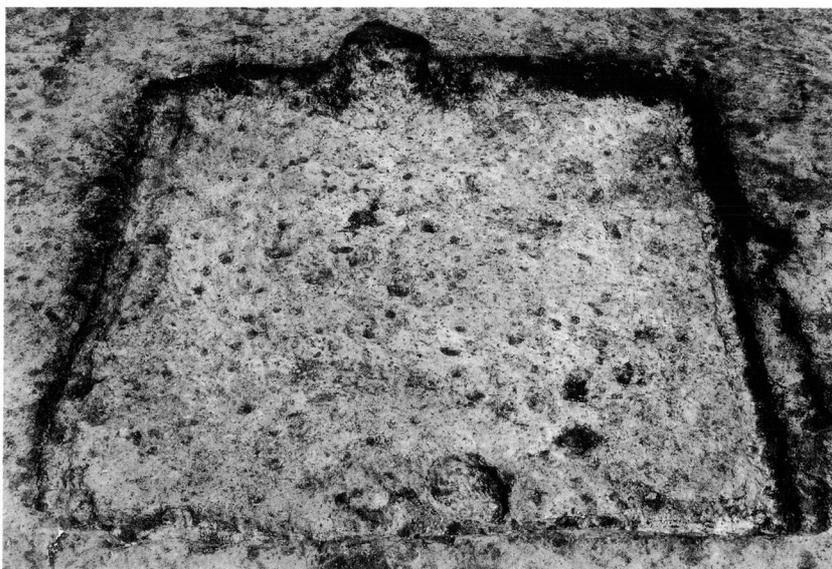


第82号住居跡  
完掘状況

第83号住居跡  
完掘狀況

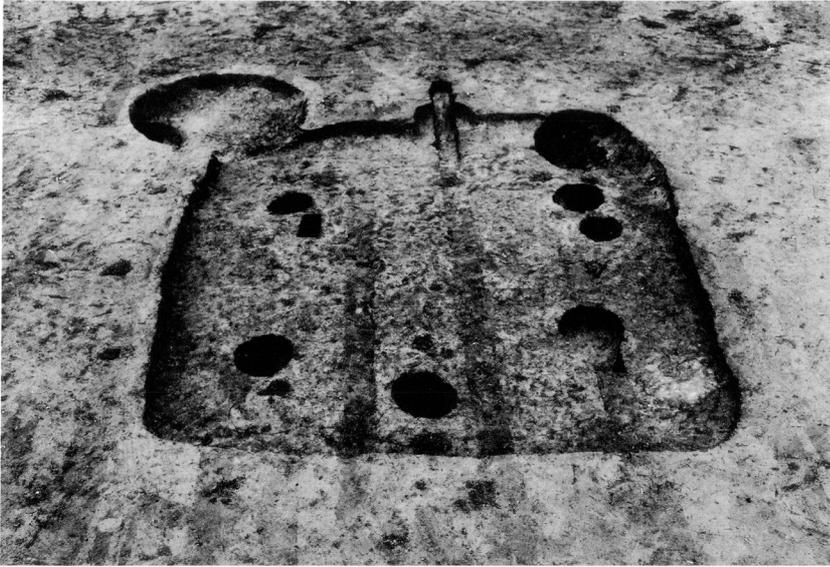


第84号住居跡  
完掘狀況

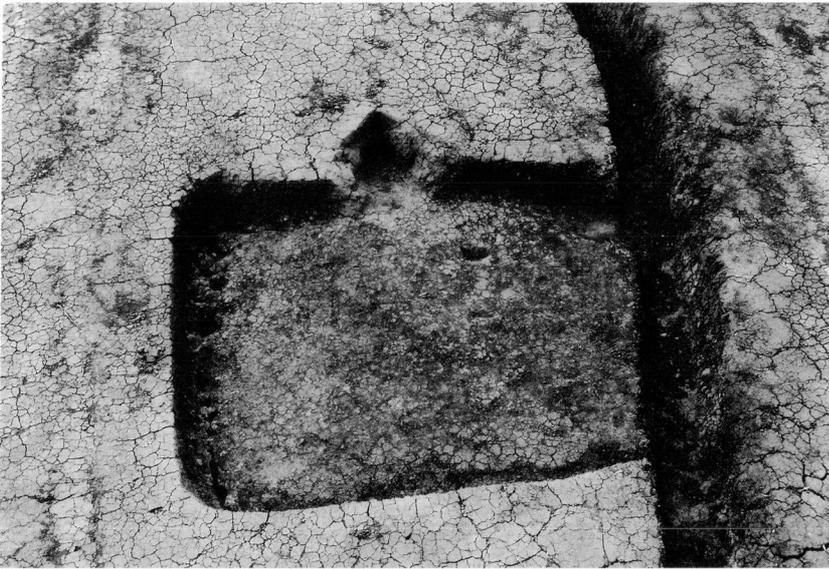


第86号住居跡  
完掘狀況

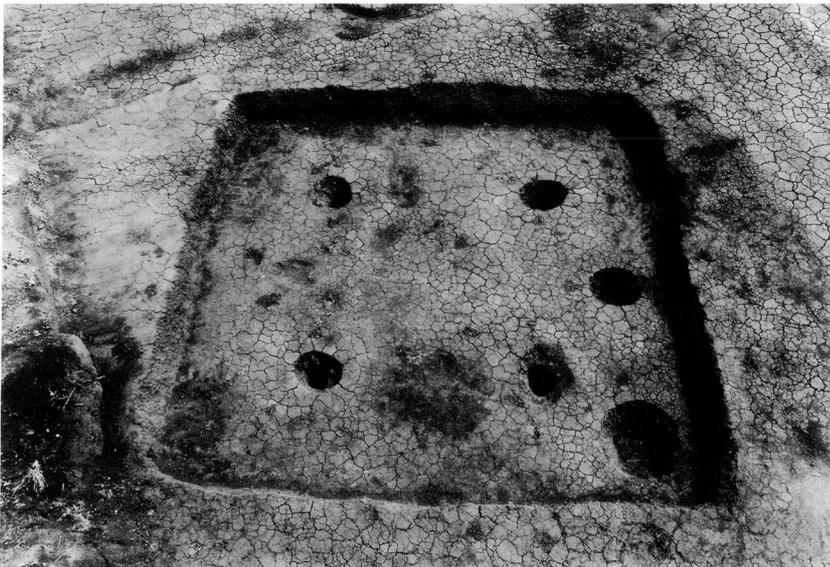




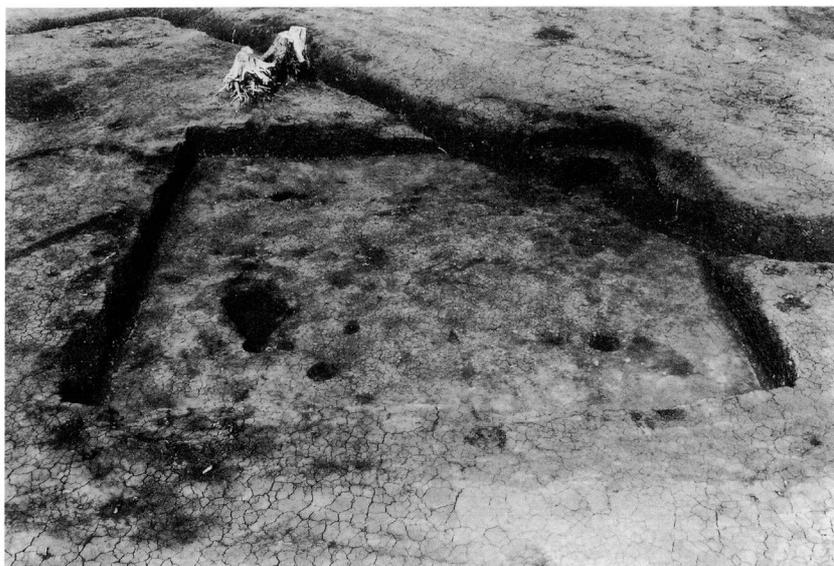
第88号住居跡  
完掘状況



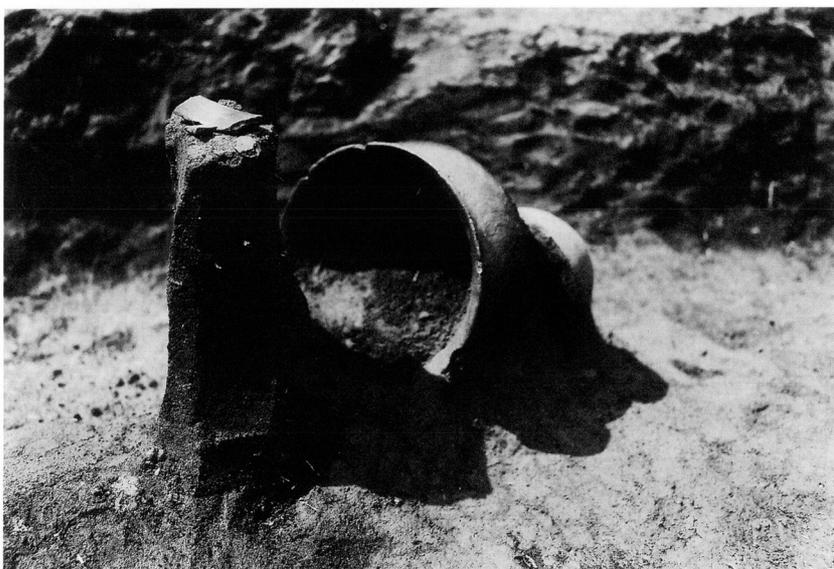
第90号住居跡  
完掘状況



第91号住居跡  
完掘状況



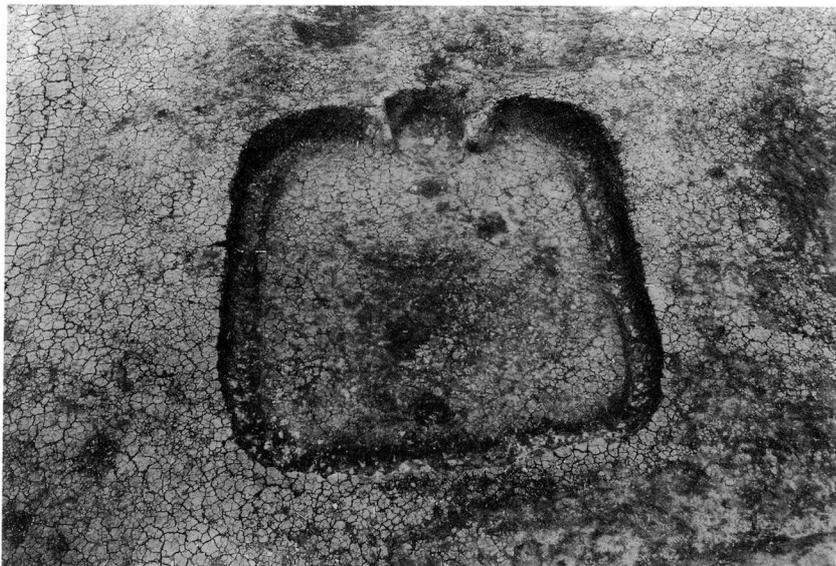
第92号住居跡  
完掘狀況



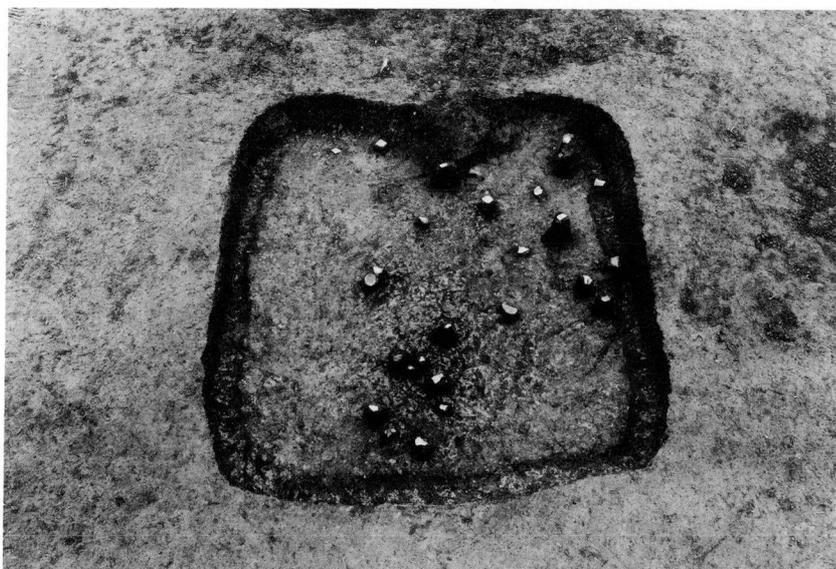
第92号住居跡竈  
遺物出土狀況



第93号住居跡  
完掘狀況



第96号住居跡  
完掘狀況

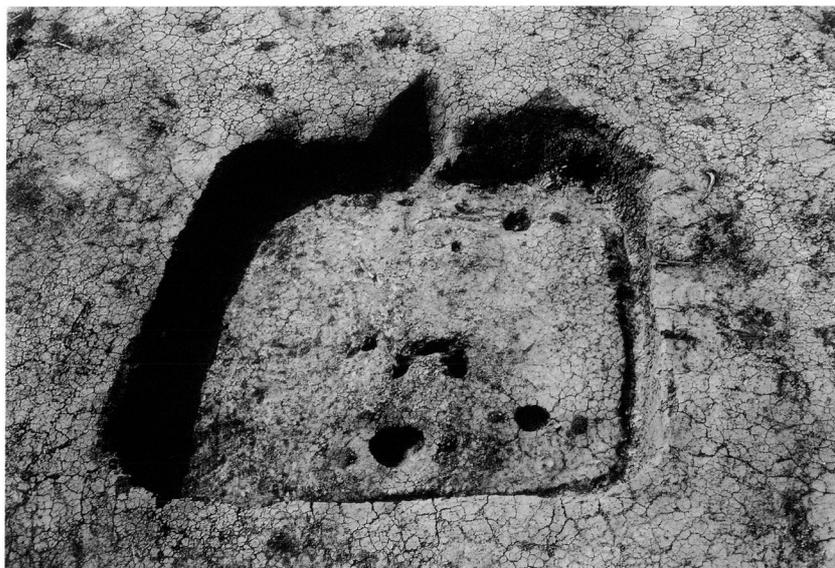


第96号住居跡  
遺物出土狀況

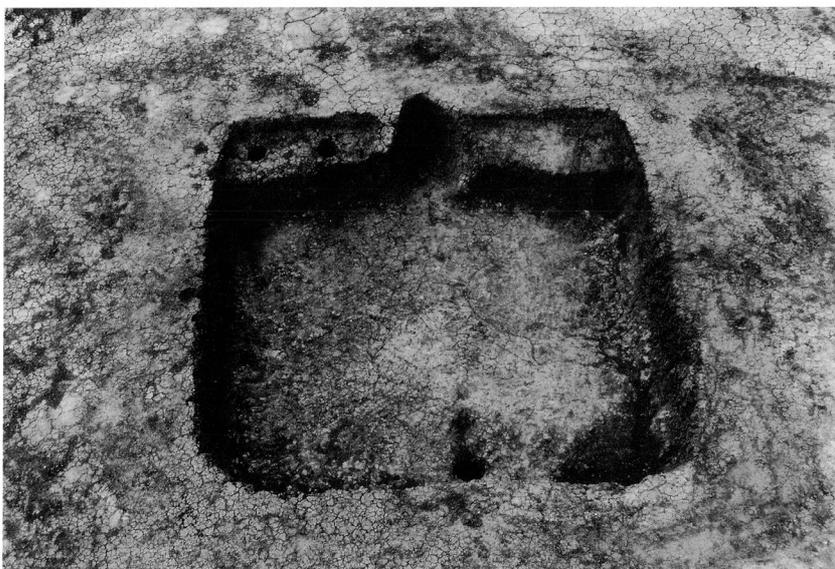


第96号住居跡竈  
遺物出土狀況

第97号住居跡  
完掘狀況



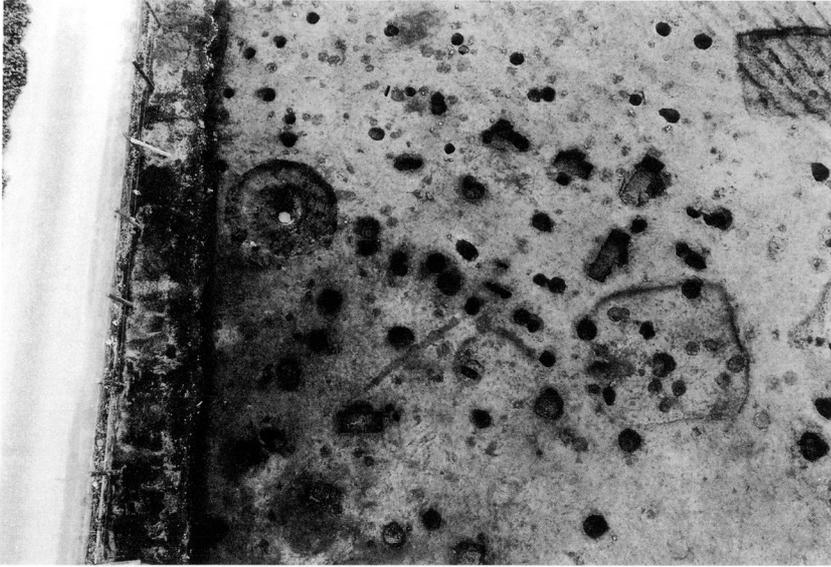
第98号住居跡  
完掘狀況



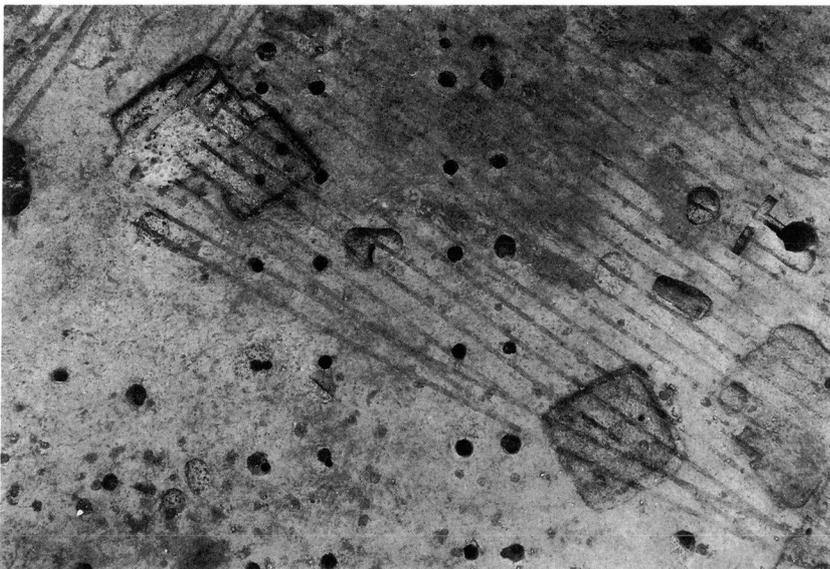
第1号方形竖穴遺構  
完掘狀況



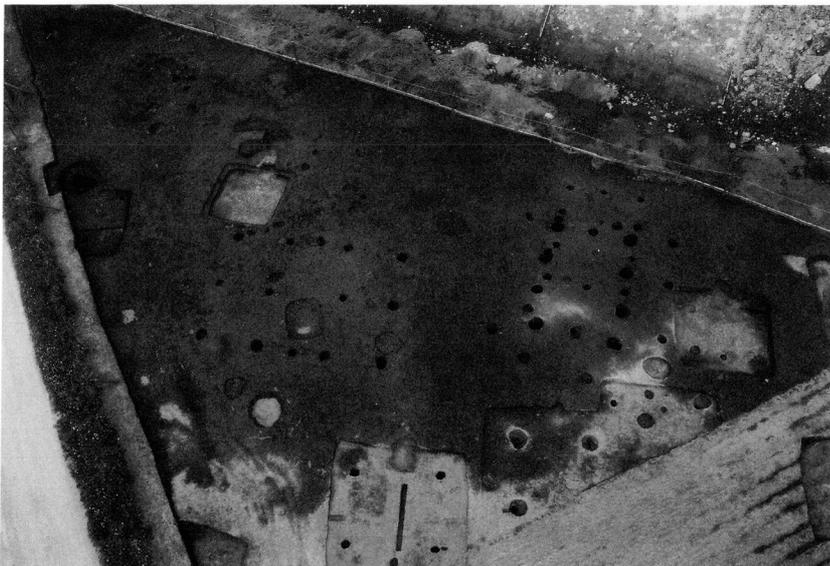
PL30



第3～6・9号掘立柱建物跡  
完掘状況



第10号掘立柱建物跡  
完掘状況



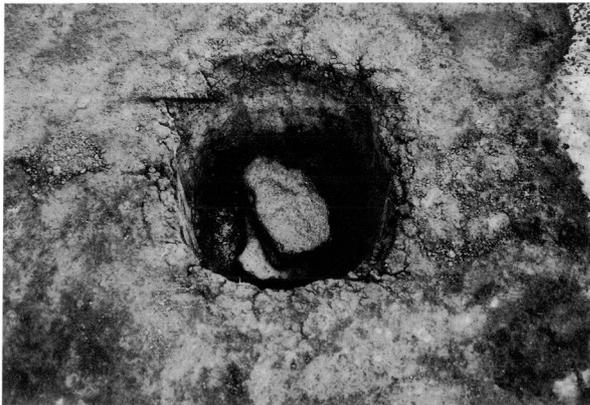
第14～17号掘立柱建物跡  
完掘状況



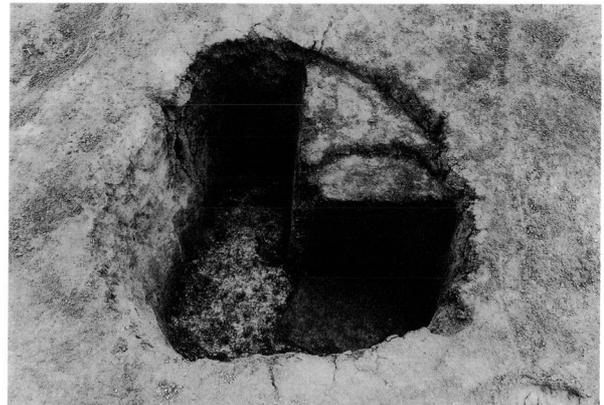
第1号掘立柱建物跡完掘状況



第3・4・5号掘立柱建物跡完掘状況



第3号掘立柱建物跡 P4 根石出土状況



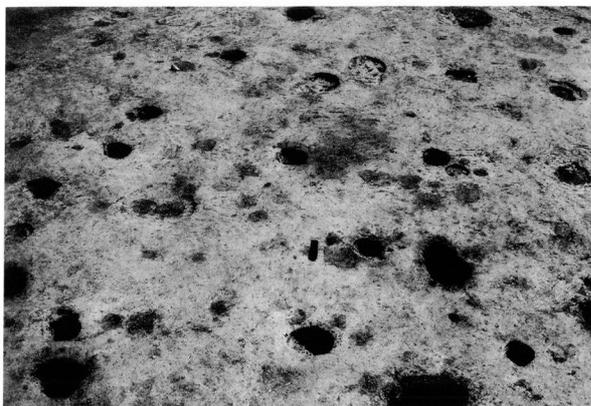
第3号掘立柱建物跡 P21 土層断面



第5号掘立柱建物跡完掘状況



第6号掘立柱建物跡完掘状況



第9号掘立柱建物跡完掘状況



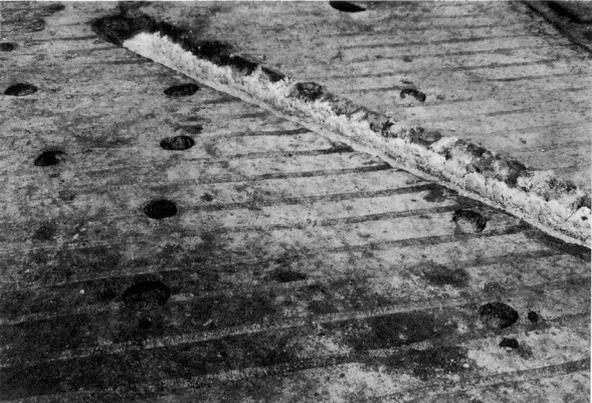
第10号掘立柱建物跡完掘状況



第11号掘立柱建物跡完掘状況



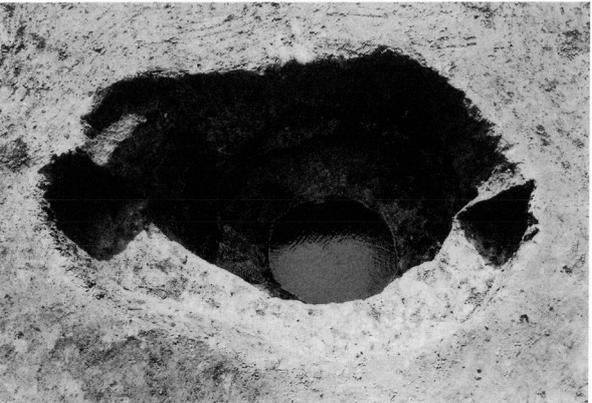
第12号掘立柱建物跡完掘状況



第13号掘立柱建物跡完掘状況



第14号掘立柱建物跡完掘状況



第2号井戸跡完掘状況



第4号井戸跡完掘状況



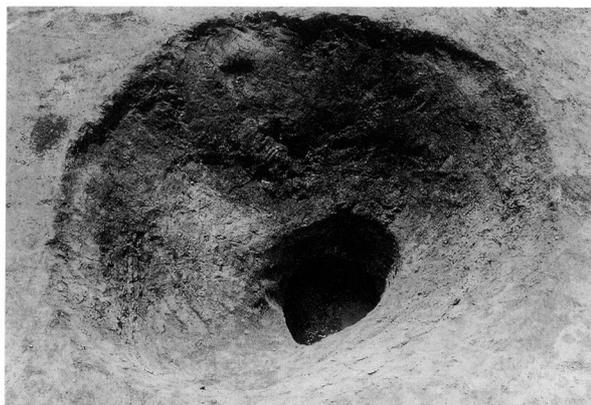
第6号井戸跡完掘状況



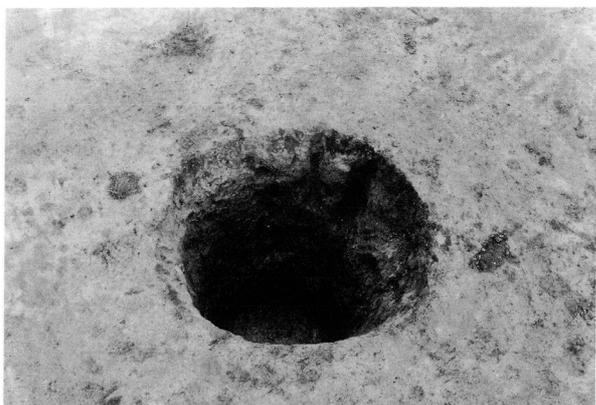
第7号井戸跡完掘状況



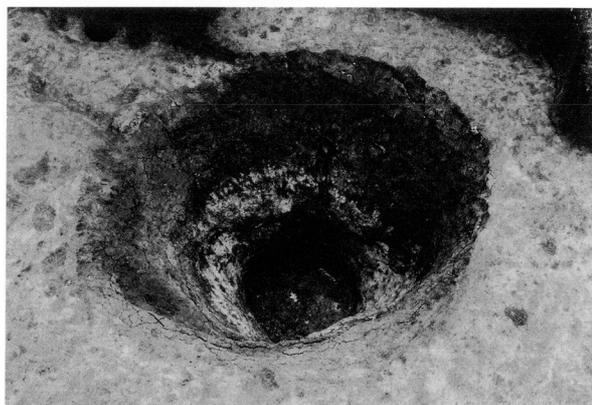
第11号井戸跡完掘状況



第17号井戸跡完掘状況



第18号井戸跡完掘状況



第19号井戸跡完掘状況



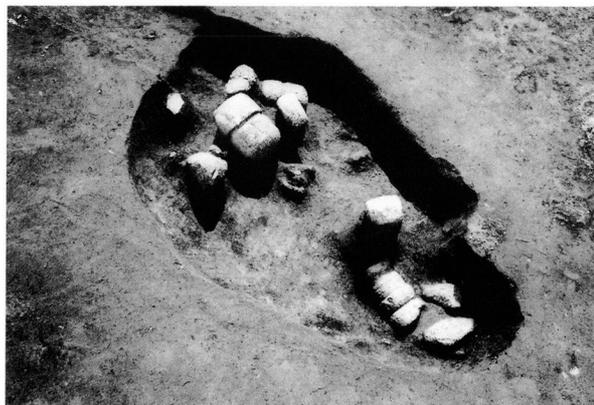
第11号土壌遺物出土状況



第17号土壌遺物出土状況



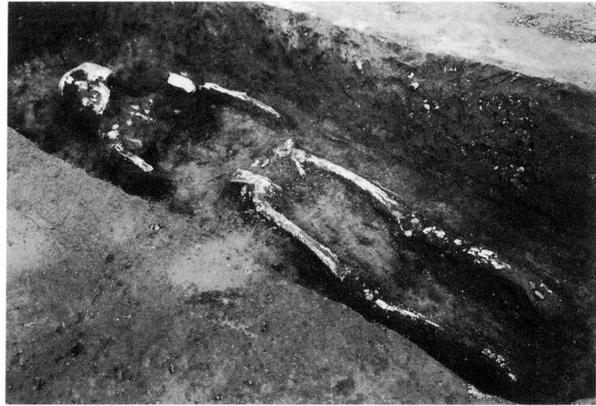
第19号土壌遺物出土状況



第20号土壌遺物出土状況



第22号土壙遺物出土狀況



第22号土壙遺物出土狀況



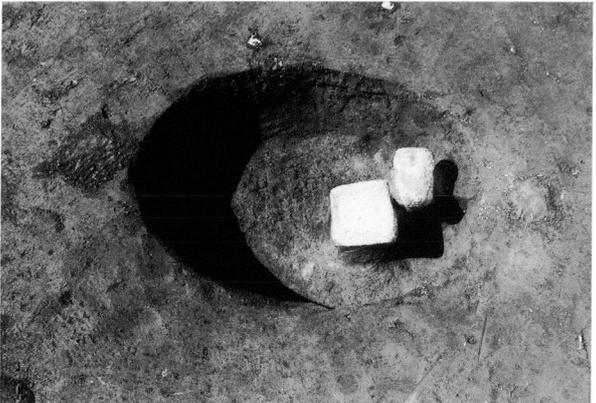
第21号土壙遺物出土狀況



第24号土壙遺物出土狀況



第26号土壙遺物出土狀況



第28号土壙遺物出土狀況



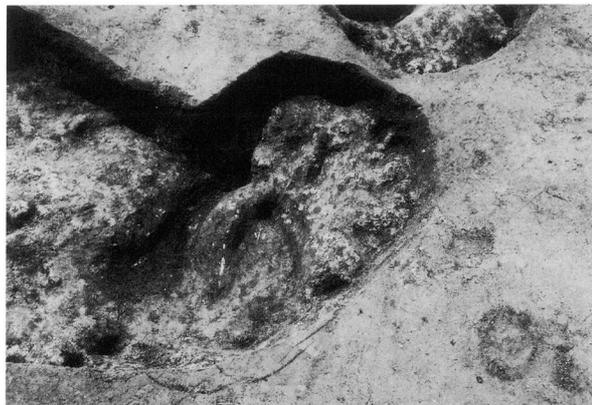
第44号土壙遺物出土狀況



第51号土壙遺物出土狀況



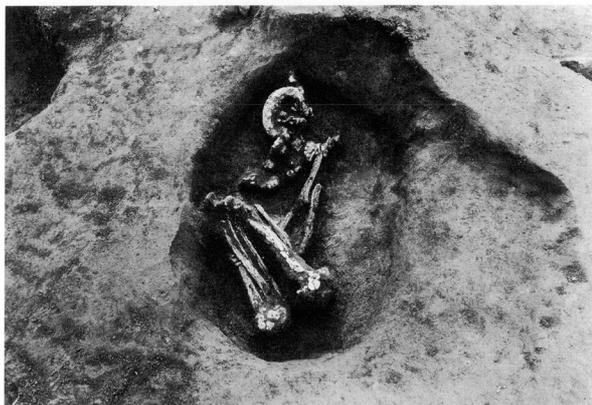
第52号土壙遺物出土状況



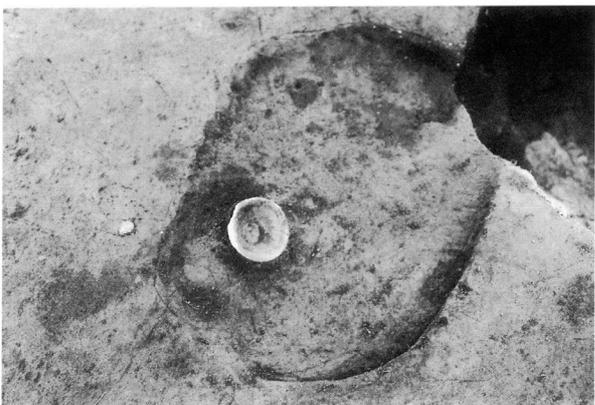
第55号土壙遺物出土状況



第73号土壙遺物出土状況



第80号土壙遺物出土状況



第57号土壙遺物出土状況



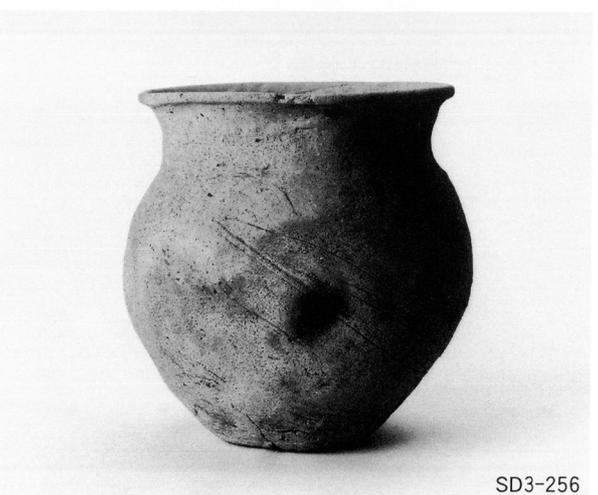
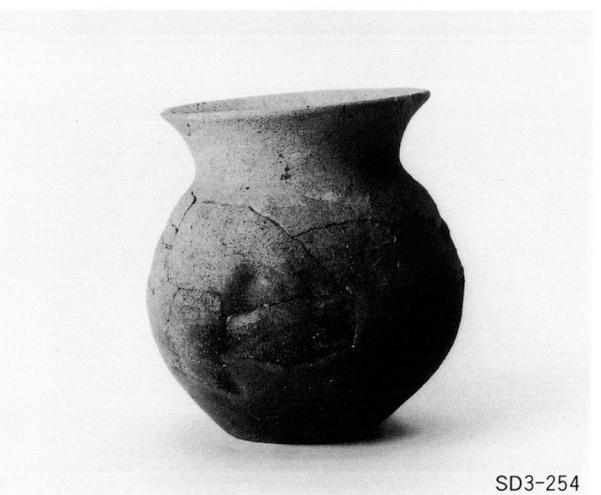
第31号溝完掘状況



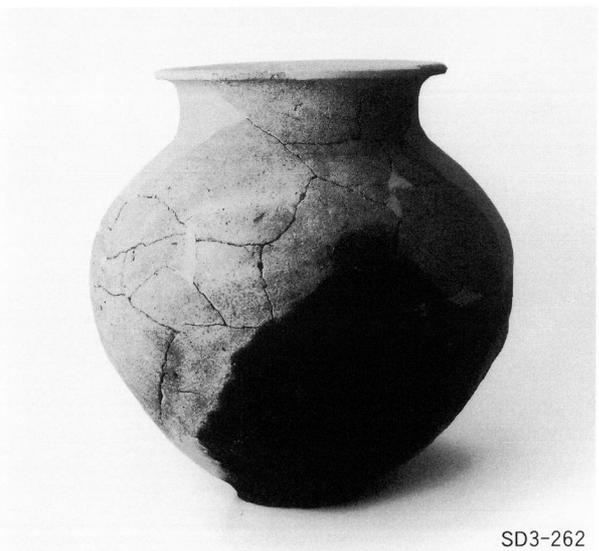
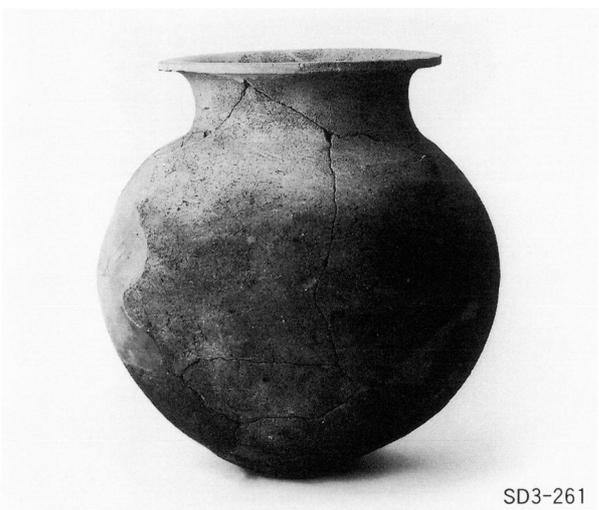
第31号溝遺物出土状況



第11号不明遺構完掘状況



第1～3号掘出土遺物

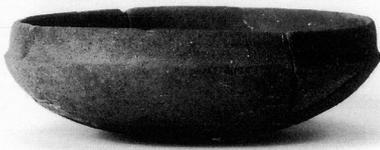




SD2-10



SD2-12



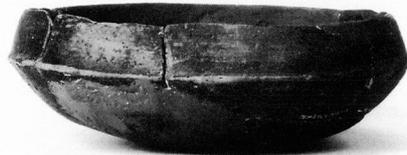
SD2-13



SD2-16



SD2-19



SD2-17



SD2-20



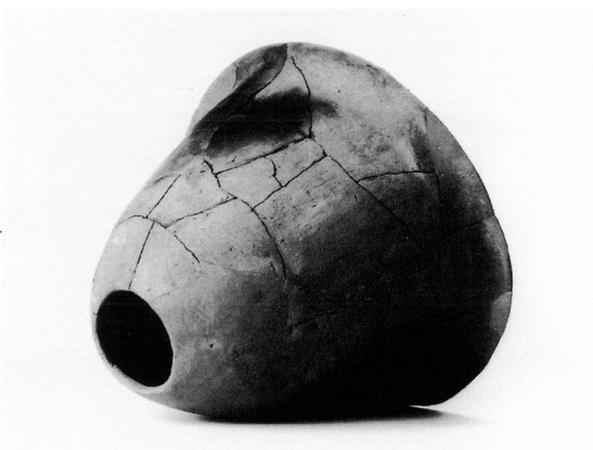
SD2-18



SD2-21



SD2-22



PL40



SD2-51



SD2-56



SD2-50



SD2-49



SD2-44



SD2-58



SD2-64



SD2-61

第2号掘出土遺物



SD2-78



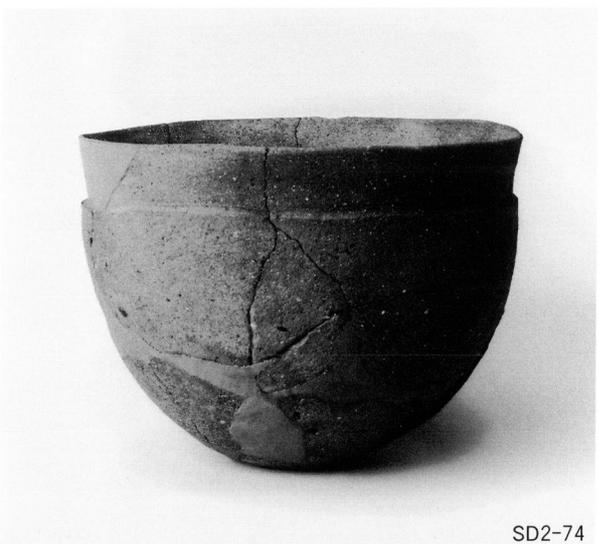
SD2-65



SD2-79



SD2-68



SD2-74



SD2-73



SD2-69

PL42



SD2-86



SD2-85



SD2-87



SD2-116



SD2-88



SD2-110



SD2-90



SD2-112



SD2-75



第2号掘出土遺物



SD2-100



SD2-101



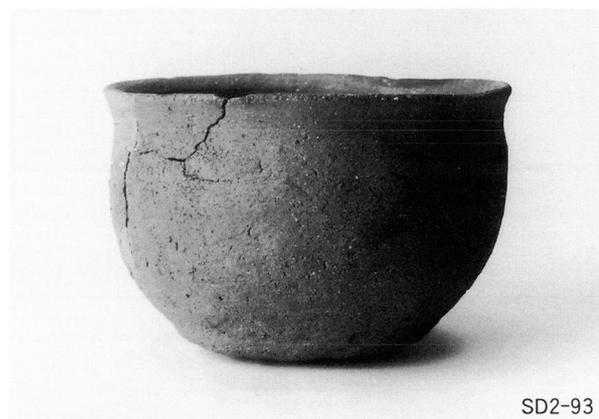
SD2-91



SD2-111



SD2-117



SD2-93

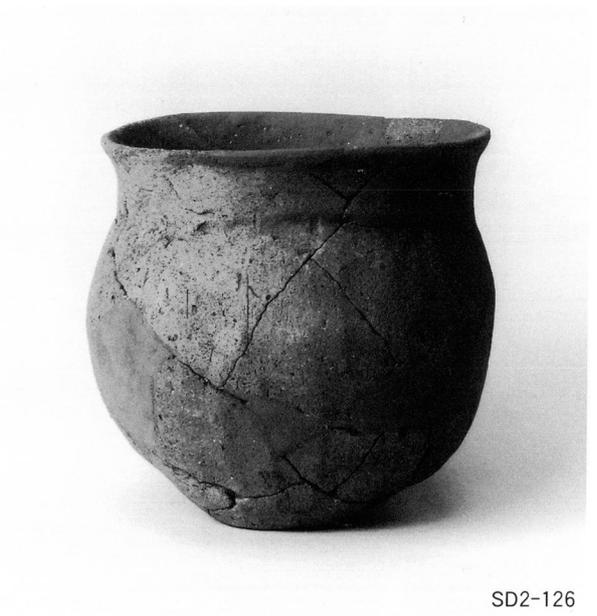


SD2-84



SD2-106

PL44



第2号堀出土遺物



SD2-143



SD2-147



SD2-148



SD2-159



SD2-129



SD2-131



SD2-139



SD2-133

PL46



SD2-124



SD2-150



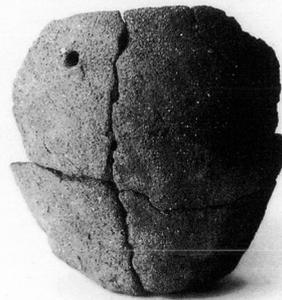
SD2-94



SD2-59



SD2-60



SD2-103



SD2-140



SD2-149

第2号堀出土遺物



第 2 号掘，第 1 号住居跡出土遺物

PL48



SI1-162



SI2-171



SI4-182



SI4-183



SI1-167



SI1-169



SI1-168



SI3-180

第1～4号住居跡出土遺物



PL50



SI6-198



SI13-219



SI13-218



SI9-211



SI6-200



SI11-216



SI8-210



SI8-209

第6・8・9・11・13号住居跡出土遺物



SI14-220



SI30-301



SI21-230



SX6-238



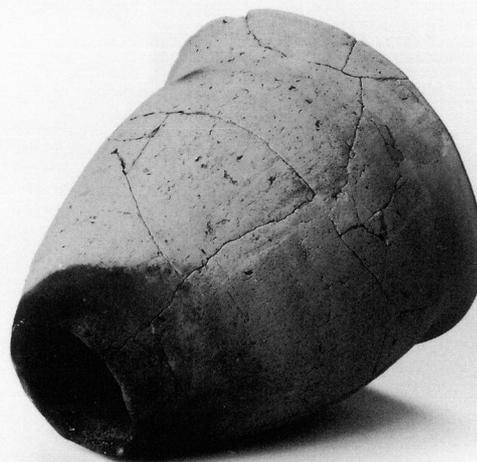
SI10-231



SI10-214



SI21-234



PL52



SI99-322



SI99-323



SI92-314



SI92-313



SI92-316



SI92-331



SI99-325



SI99-324



SI22-335



SI23A-340



SI31-368



SI23A-339



SI23A-343



SI25-357

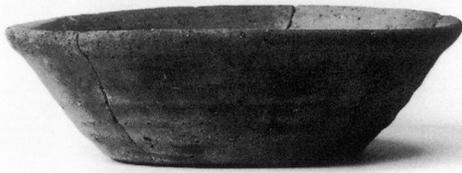


SI26-360



SI66-472

PL54



SI34-374



SI34-375



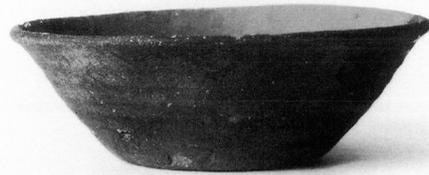
SI35-376



SI35-377



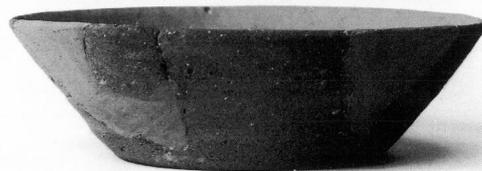
SI35-378



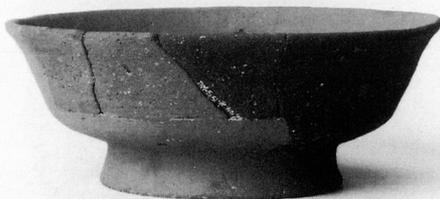
SI38-303



SI38-302



SI35-380



SI38-304



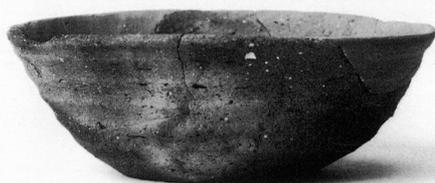
SI31-369



PL56



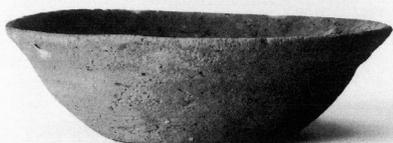
第57・60・62A・62B・68号住居跡出土遺物



SI82-308



SI82-307



SI96-420



SI96-421



SI96-423



SI96-424



SI84-400



SI83-396



SI73-490



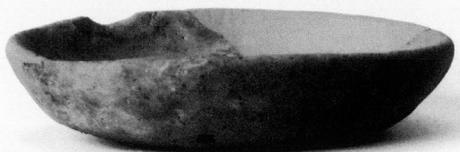
SI68-478



SI97-428



SE12-503



SE12-504



SK17-535



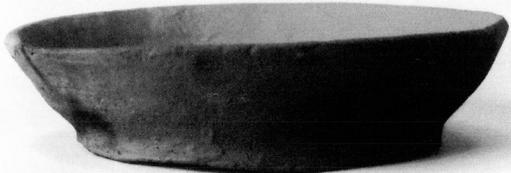
SK17-533



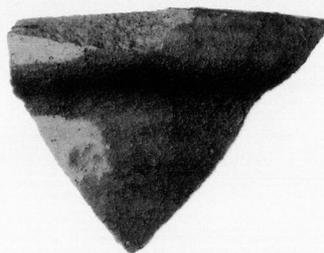
SE17-509



SK17-537



SE8-516



SE9-521



SI97-433



SE7-515



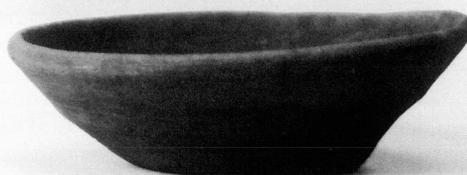
SK18-550



SK20A-559



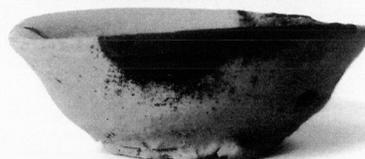
SK20A-560



SK47-626



SK57-644



SK79-667



SK87-671



SK87-672



SK90-679



SK95-680

第20A·47·79·87·90·95号土壤，第18·57号土坑出土遺物

PL60



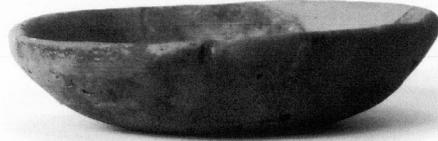
SD31-733



SD31-734



SD31-735



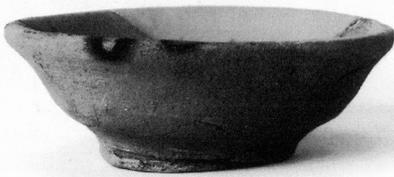
SD31-736



SD31-739



SK524-712



SK66-690



SK212-700



SK206-699



遺構外-723

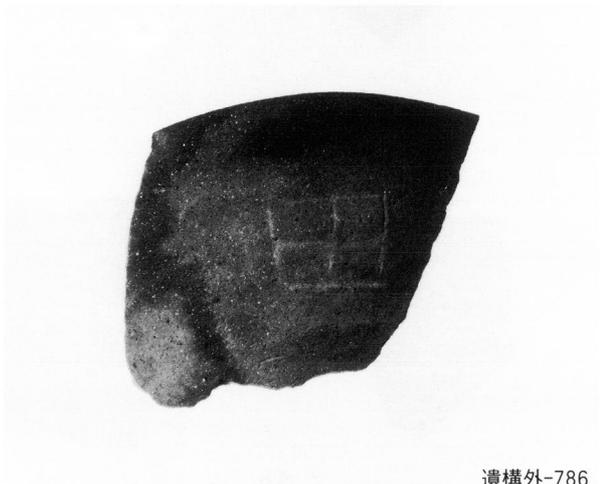
第66・206・212・524号土坑，第31号溝，遺構外出土遺物



遺構外-600



遺構外-796



遺構外-786



遺構外-793



遺構外-790



遺構外-787



SK310-708



SK310-709

第310号土坑，遺構外出土遺物



754



756



753



758



757



763



761



760



762



755



759



SD2-77



SD2-160



SD3-265



遺構外-798



SD3-266



SI43-284



SI47A-298



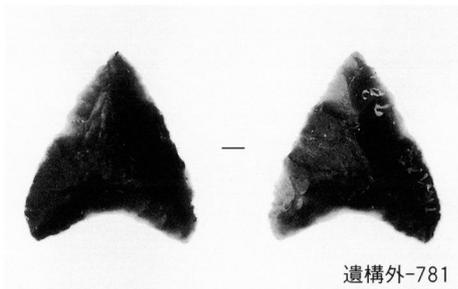
SI66-474



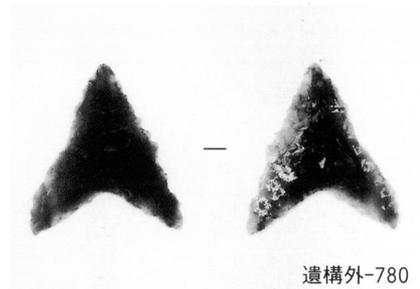
SI46-292



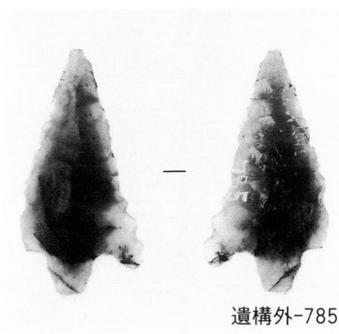
SK296-717



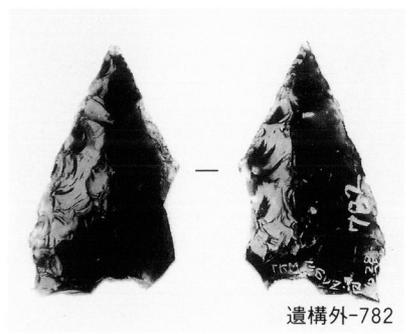
遺構外-781



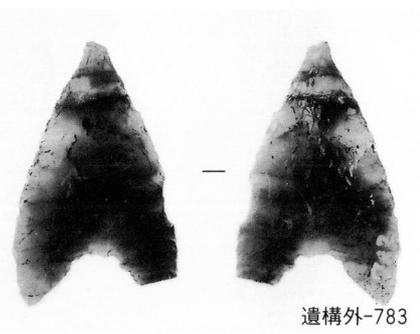
遺構外-780



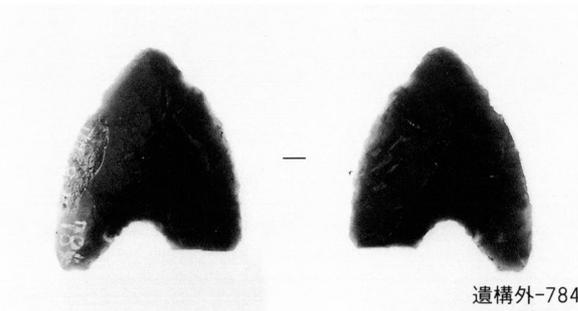
遺構外-785



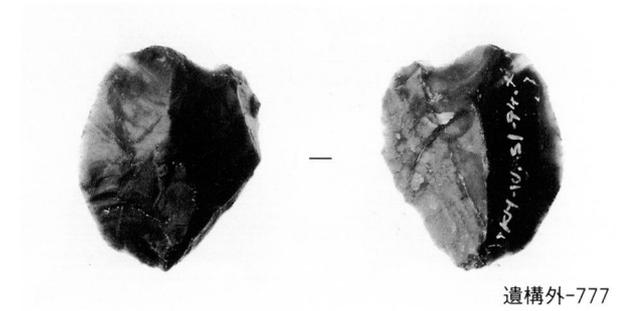
遺構外-782



遺構外-783



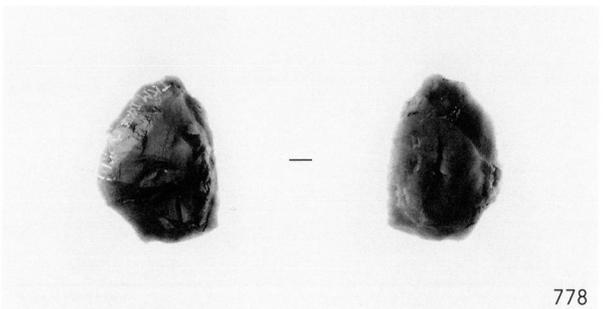
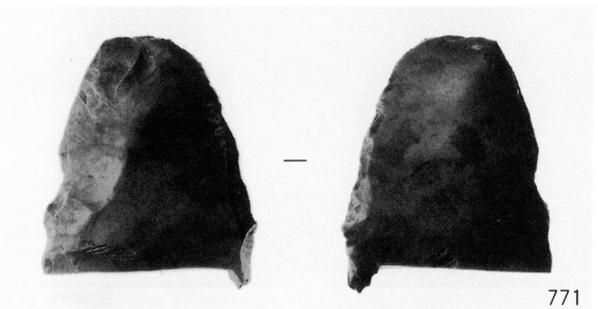
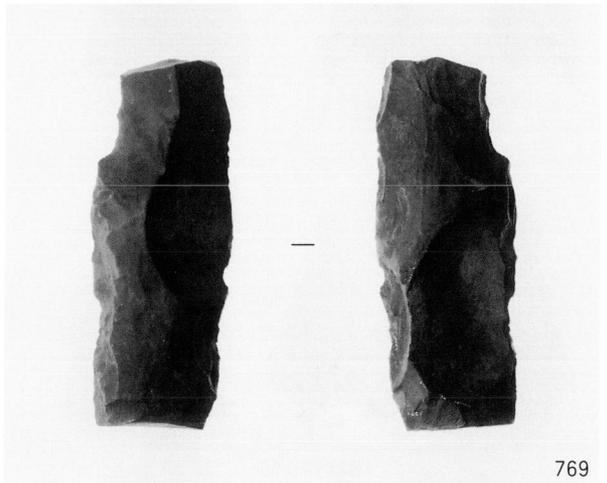
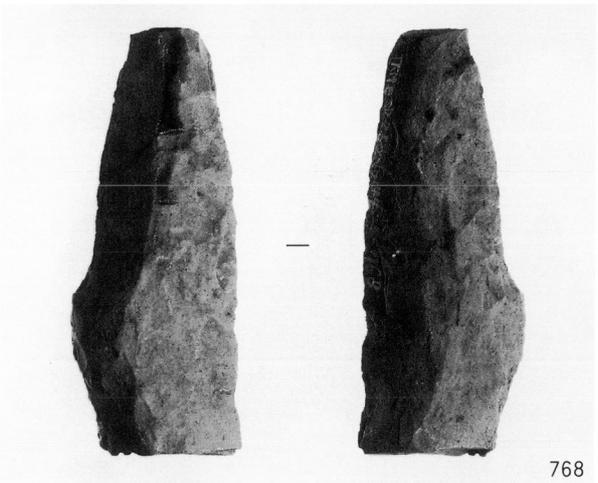
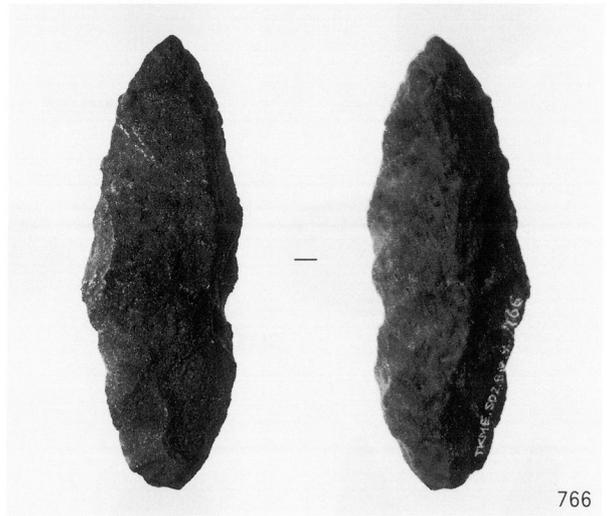
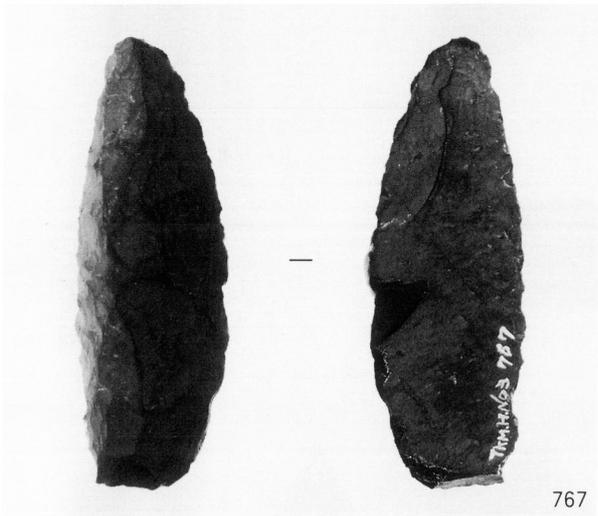
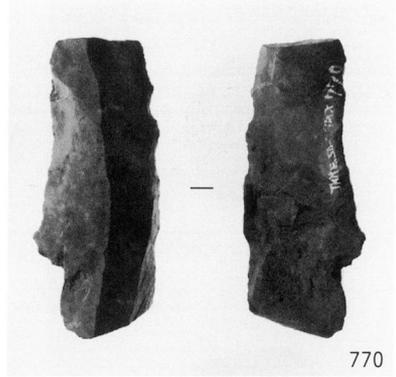
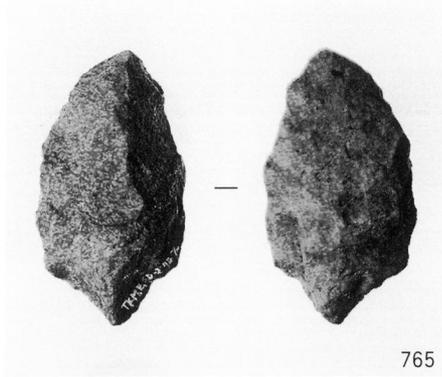
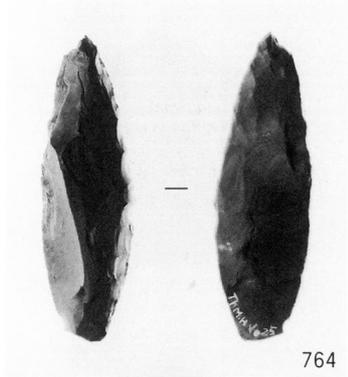
遺構外-784



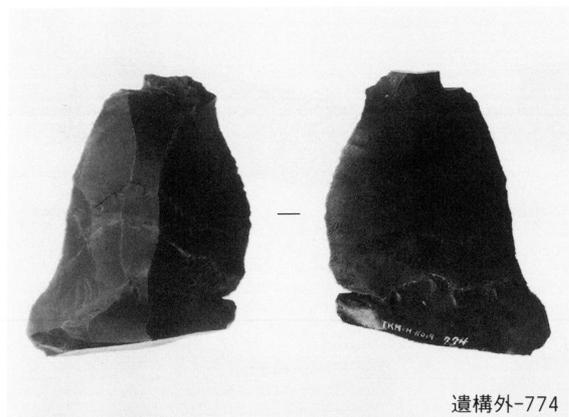
遺構外-777

第2・3号掘, 第43・46・47A・66号住居跡, 第296号土坑, 遺構外出土遺物

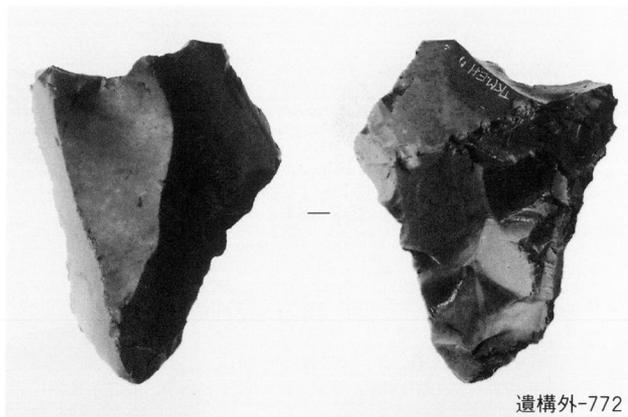
PL64



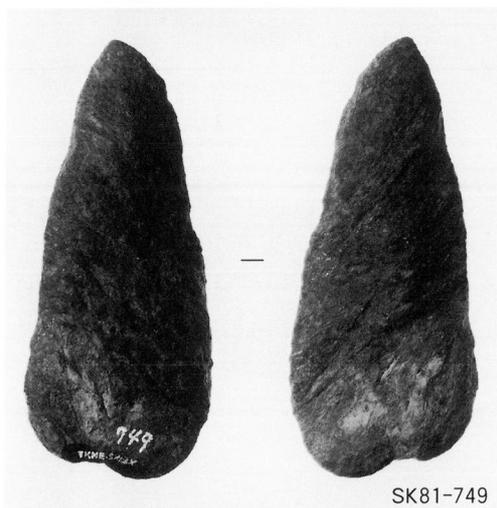
遺構外出土遺物



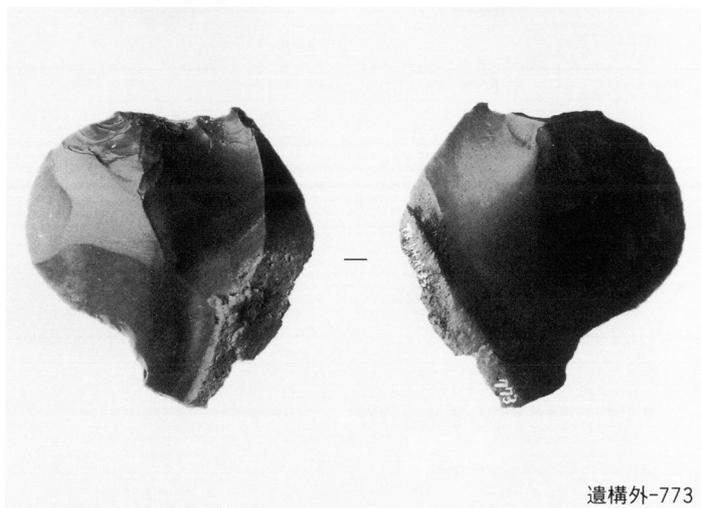
遺構外-774



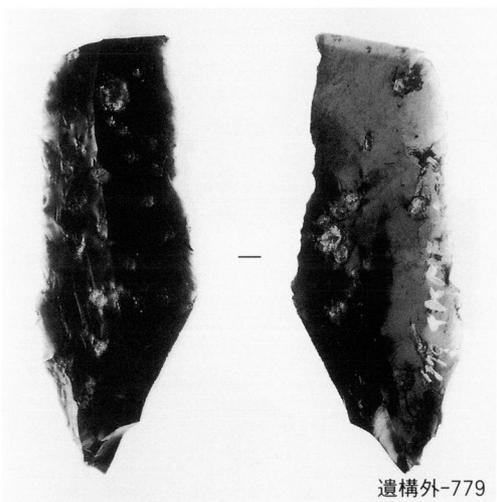
遺構外-772



SK81-749



遺構外-773



遺構外-779



SI10-215



遺構外-794



SI46-293



SI83-398



SK524-713



遺構外-795

第10・46・83号住居跡，第81・524号土坑，遺構外出土遺物

PL66



SD2-134



SI86-310



SK18-552



SX6-241



SI38-306



SI55-442



遺構外-775



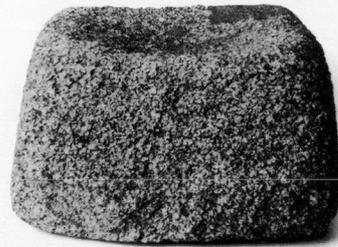
SI4-188



SD3-268



SI5-194



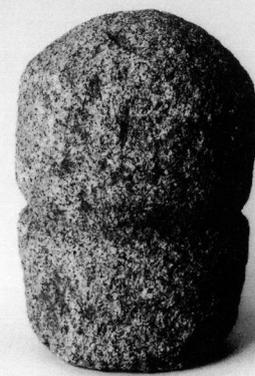
SK49-719



SK55-561



SK20A-562

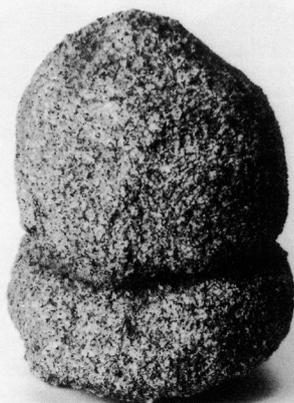


SK20A-563

第2・3号掘，第4・5・38・55・86号住居跡，第20A・55号土墻，第18・49号土坑，第6号不明遺構，遺構外出土遺物



SK26-590



SD4-727



SD4-728



SI57-453



SI47A-435



SI31-371



SI65-470



SI24-355



SK24-583



SK24-585



SK24-584



SK24-581



SK24-582



SI88-408



SI47A-300



遺構外-802



SI65-468



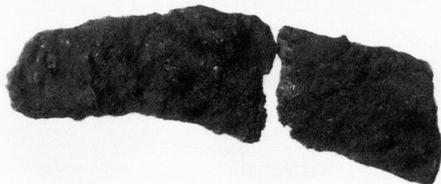
SI65-469



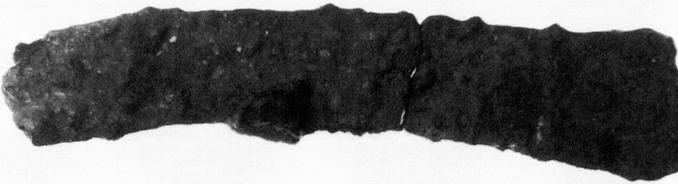
SK47-627



SI24-354

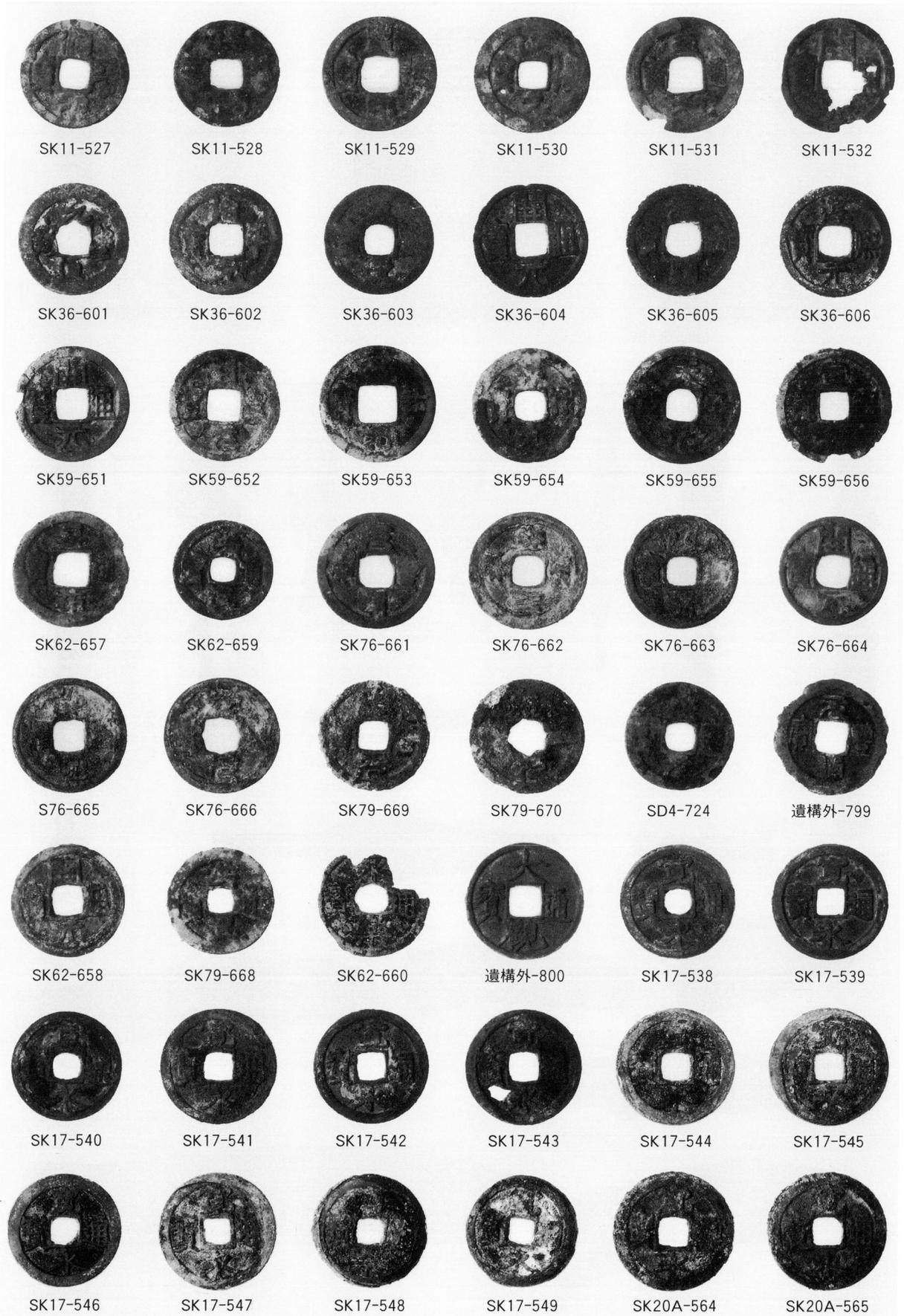


SI70-484



SI41-278

第24・31・41・47A・57・65・70・88号住居跡，第24・26・47号土境，第4号溝，遺構外出土遺物



出土遺物 (古錢)



SK20A-568



SK20A-570



SK20A-571



SK20A-572



SK20A-573



SK20A-574



SK21-575



SK26-593



SK26-594



SK26-595



SK26-596



SK26-597



SK26-598



SK26-599



SK38A-611



SK38A-612



SK38B-615



SK38B-619



SK38B-620



SK44-625



SK47-628



SK47-629



SK47-630



SK47-631



SK47-632



SK47-633



SK52-634



SK55-640



SK55-643



SK58-647



SK87-674



SK87-675



SK87-676



SK87-677



SK83-678



SK95-681



SK95-684



SK108-688



SK20A-566



SK20A-567



SK20A-569



SK38A-613



SK38B-616



SK38B-617



SK38B-618



SK44-622



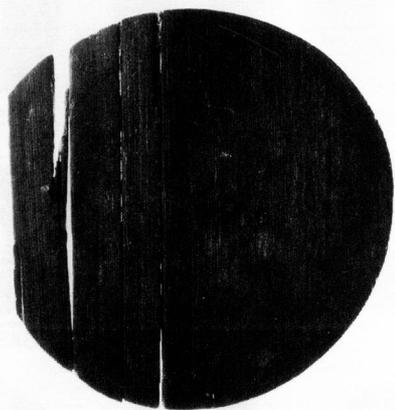
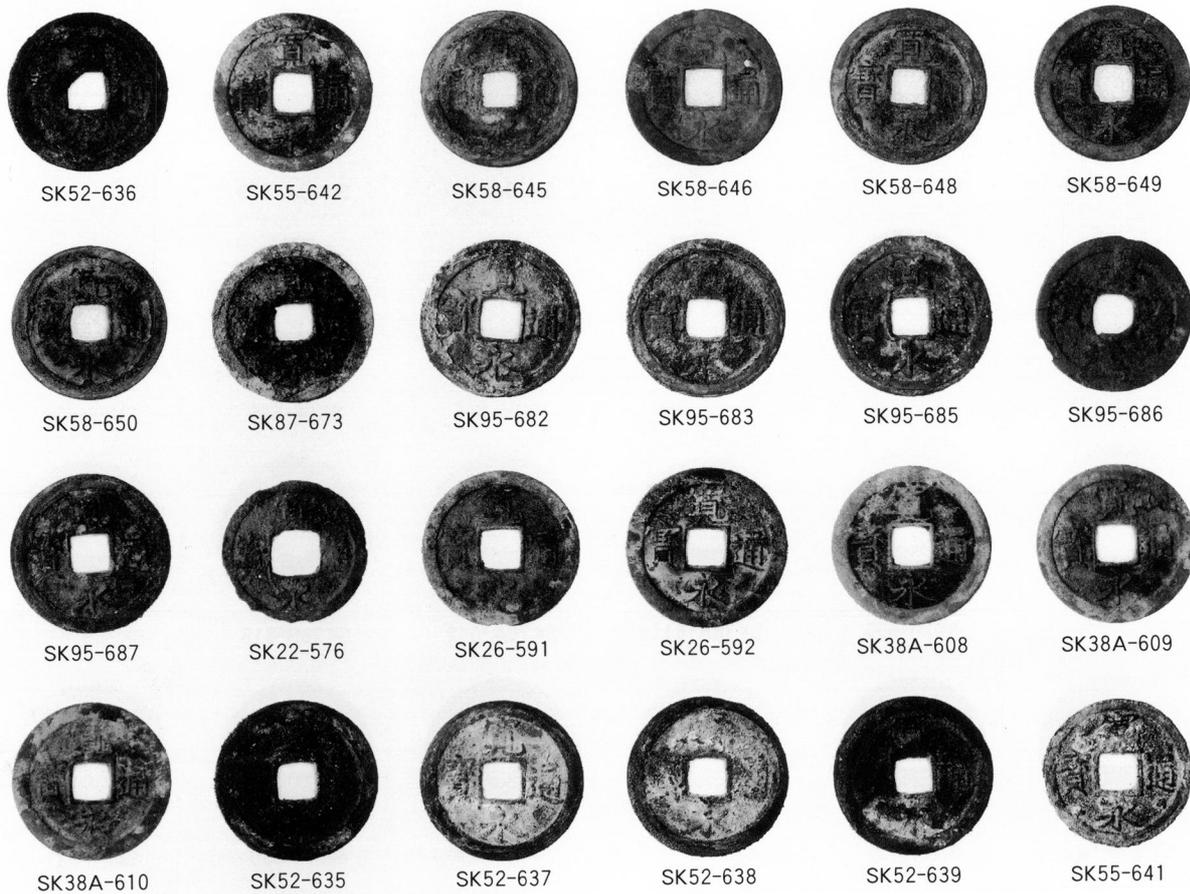
SK44-623



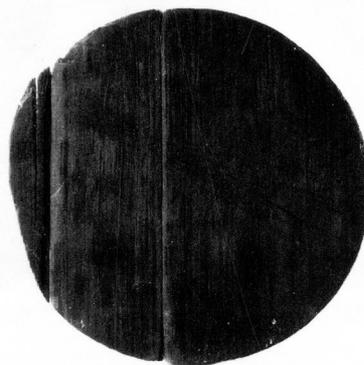
SK44-624

出土遺物 (古錢)

PL70



SE9-522



SE9-523



SD2-108



SB3-499



SE8-518

出土遺物（古錢，木製品，自然遺物）

茨城県教育財団文化財調査報告第199集

梶内 向山 遺跡

平成15（2003）年3月20日 印刷

平成15（2003）年3月26日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団  
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番の2  
茨城県水戸生涯学習センター分館内  
TEL 029-225-6587

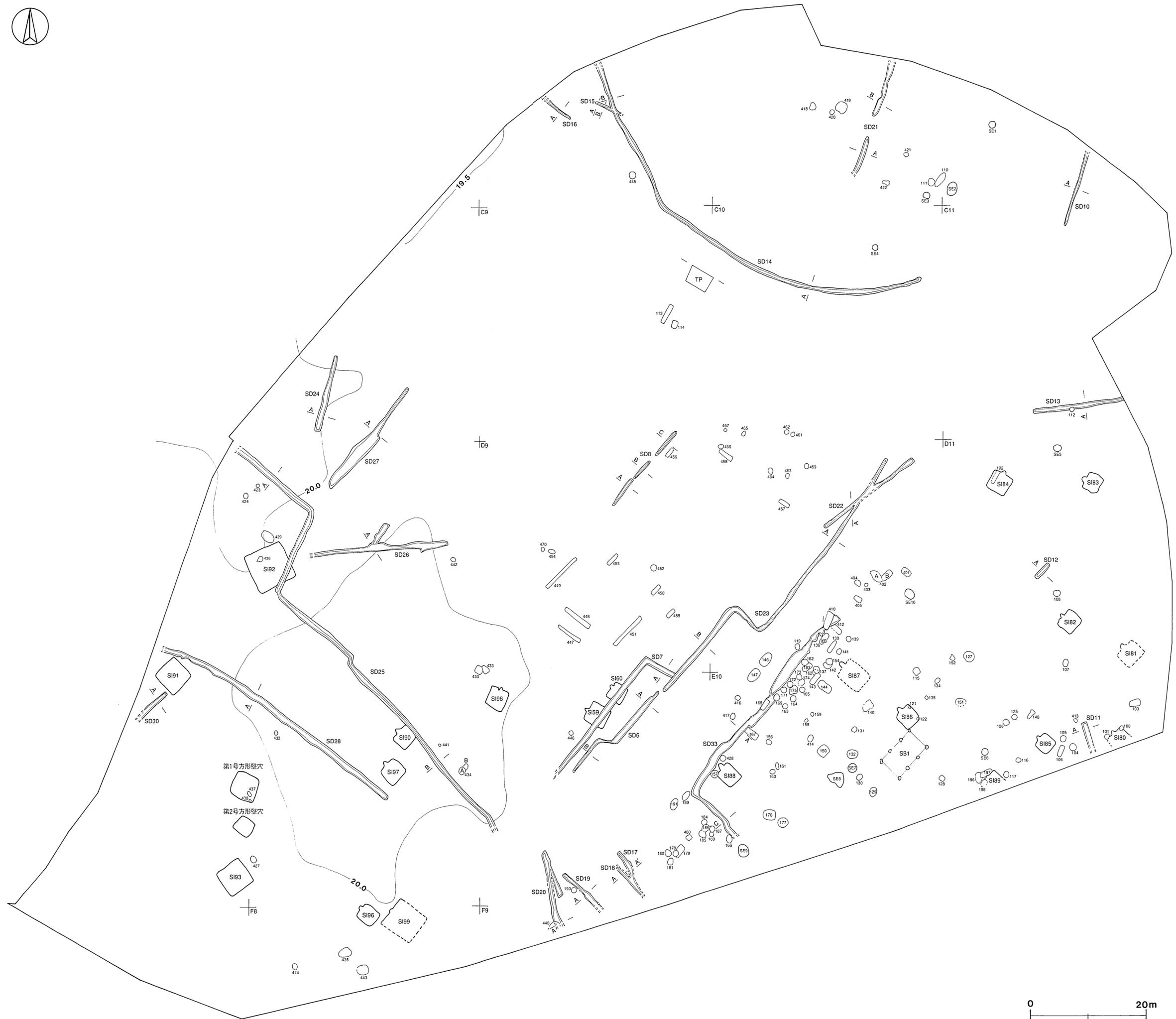
印刷 (有)川田プリント  
〒310-0041 水戸市上水戸4丁目6-53  
TEL 029-253-5551

付 図

茨城県教育財団文化財調査報告第199集

梶内山遺跡





付 図 茨城県教育財団文化財調査報告第199集  
梶内山遺跡調査第Ⅱ区遺構全体図